

授業科目名：日本史	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：吉江 秀和 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>①歴史を暗記するのではなく、流れをつかんで全体像を把握できる。</p> <p>②歴史を指導するうえで、どのような視点で生徒たちに理解させるかを自分の頭の中でまとめて実践への足掛かりを作ることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>中学社会および高校地歴などを教えるにあたり、日本史分野の理解は不可欠です。</p> <p>この講義では、歴史を暗記教科とみなすのではなく、それぞれの時代や地域で起こった数々の出来事を流れの中で把握し、全体像をとらえてから理解するために、どのような視点を持つとよいかという点に注意を向けて進めていきます。</p> <p>受講者はテキストや参考となる書籍を熟読し、その時代やその地域の全体像を把握するとともに、生徒たちに教える際にどのような点を軸にしていくかなど、指導法も考えてもらいます。そして、自分の理解度を確認するため、また、指導のコンセプトをまとめるために課題に取り組んでもらいます。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：日本文化のあけぼの、古墳とヤマト政権</p> <p>第3回：律令国家の形成</p> <p>第4回：貴族政治の展開、院政と武士の躍進</p> <p>第5回：武家政権の成立</p> <p>第6回：武士社会の成長</p> <p>第7回：近世の幕開け</p> <p>第8回：幕藩体制の成立と展開</p> <p>第9回：幕藩体制の動揺</p> <p>第10回：近世から近代へ</p> <p>第11回：近代国家の成立</p> <p>第12回：近代国家の展開、近代の産業と生活</p> <p>第13回：恐慌と第二次世界大戦</p> <p>第14回：占領下の日本</p> <p>第15回：高度成長の時代、激変する世界と日本</p> <p>定期試験：なし（期末課題）</p>			

テキスト
佐藤信ほか『日本史探究 詳説日本史 日探705』山川出版社、2023年
参考書・参考資料等
詳説日本史図録編集委員会『山川 詳説日本史図録第10版（日探705準拠）』山川出版社、2023年
学生に対する評価
平常点（質疑応答・討論・課題など）60%、期末課題40%

授業科目名：外国史	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：吉江 秀和 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>中学社会および高校地歴などを教えるにあたり、世界史分野の理解は不可欠です。 この講義では、歴史を暗記教科とみなすのではなく、それぞれの時代や地域で起こった数々の出来事を流れの中で把握し、全体像をとらえてから理解するために、どのような視点を持つとよいかという点に注意を向けて進めていきます。</p> <p>受講者はテキストや参考となる書籍を熟読し、その時代やその地域の全体像を把握するとともに、生徒たちに教える際にどのような点を軸にしていくかなど、指導法も考えてもらいます。そして、自分の理解度を確認するため、また、指導のコンセプトをまとめるために課題に取り組んでもらいます。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>①歴史を暗記するのではなく、流れをつかんで全体像を把握できる。 ②歴史を指導するうえで、どのような視点で生徒たちに理解させるかを自分の頭の中でまとめて実践への足掛かりを作ることができる</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション 第2回：文明の成立と古代文明の特質 第3回：中央ユーラシアと東アジア世界、南アジア世界と東南アジア世界の展開 第4回：西アジアと地中海周辺国家形成 第5回：イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成、イスラーム教の伝播と西アジアの動向 第6回：ヨーロッパ世界の変容と展開 第7回：東アジア世界の展開とモンゴル帝国、大交易・大交流の時代、アジアの諸帝国の繁栄 第8回：近世ヨーロッパ世界の動向 第9回：産業革命と環大西洋革命 第10回：イギリスの優位と欧米国民国家の形成 第11回：アジア諸地域の動揺、帝国主義とアジアの民族運動 第12回：第一次世界大戦と世界の変容 第13回：第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成 第14回：冷戦と第三世界の台頭 第15回：冷戦の終結と今日の世界 定期試験：なし（期末課題）</p>			

テキスト
木村靖二ほか『世界史探究 詳説世界史 世探704』山川出版社、2023年
参考書・参考資料等
木村靖二ほか『山川 詳説世界史図録 第5版（世探704準拠）』山川出版社、2023年
学生に対する評価
平常点（質疑応答・討論・課題など）60%、期末課題40%

授業科目名：地理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：亀井 啓一郎 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>授業のテーマ： 地理学的な視点から地域の諸事象を総合的に把握し、その性格や特色を明らかにすることにより、地域の成り立ちや空間的分布、地域構造を考察していく。</p> <p>到達目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地理学的な見方や考え方を学ぶとともに、一般常識としての「地理」や「地誌」の知識や教養を身に付けることができる。 ・地域のことを正しく理解できるような素養を身に付けることができる。 ・地図を理解し、正しく読むことができる。 ・教職に就いた場合に必要とされる地理学の基本的な知識や教養を身に付けることができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>まず地理学の学習において必要である地図に関する講義を行う。続いて地球の大きさや形、世界の自然環境などについて講義する。さらに世界の国家や国連、国家のつながりについて講義する。また講義を通して、教職に就いた場合に必要とされる地理学の基本的な知識や教養を身に付ける。地域を見る、地域を知るということを念頭に置き、地域のことを正しく理解する力を身に付けるようにしていきたい。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業のガイダンス</p> <p>第2回：世界の広がり (1) 世界地図の発達と歴史</p> <p>第3回：世界の広がり (2) 世界地図の中の日本</p> <p>第4回：世界の広がり (3) 日本地図の発達と歴史</p> <p>第5回：地球の形 (1) 地球の大きさと形</p> <p>第6回：地球の形 (2) 地球の表し方</p> <p>第7回：世界の自然環境 (1) 世界の大陸</p> <p>第8回：世界の自然環境 (2) 世界の海洋</p> <p>第9回：世界の自然環境 (3) 世界の気候1 (気候区分)</p> <p>第10回：世界の自然環境 (4) 世界の気候2 (各気候帯の特徴)</p> <p>第11回：現代世界の姿 (1) 世界の国々</p> <p>第12回：現代世界の姿 (2) 国連と国家</p> <p>第13回：現代世界の姿 (3) 国家のつながり</p>			

第14回：現代世界の姿（4）首都の役割と首都機能

第15回：まとめと補足説明

定期試験

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

二宮書店編集部「ブック・オブ・ザ・ワールド」二宮書店

学生に対する評価

定期試験70%、授業終了時のリアクションペーパーの記述内容30%により評価する。

授業科目名：地誌学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：亀井 啓一郎
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>授業のテーマ： 地誌学的な視点から地域の諸事象を総合的に把握し、その性格や特色を明らかにすることにより、地域の成り立ちや空間的分布、地域構造を考察していく。</p> <p>到達目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地誌学的な見方や考え方を学ぶとともに、一般常識としての「地理」や「地誌」の知識や教養を身に付けることができる。 ・地域のことを正しく理解できるような素養を身に付けることができる。 ・地図を理解し、正しく読むことができる。 ・教職に就いた場合に必要とされる地理学の基本的な知識や教養を身に付けることができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>本科目は日本の地誌をテーマとする。まず地理学的な見方と地誌学的な見方の違いに関して講義する。続けて日本の地方区分、江戸と東京などについて講義を行う。さらに、各種地図を用いて、地域の様子や地域変容を読み取る作業を行う。また講義を通して、地図の利活用の方法を学び、教職に就いた場合に必要とされる地理学の基本的な知識や教養を身に付ける。地域を見る、地域を知るということを念頭に置き、地域のことを正しく理解する力を身に付けるようにしていきたい。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業のガイダンス</p> <p>第2回：地理学と地誌学</p> <p>第3回：日本の位置と領域</p> <p>第4回：都道府県のイメージ</p> <p>第5回：日本の地方区分（1）現在の地方区分</p> <p>第6回：日本の地方区分（2）昔の地方区分</p> <p>第7回：日本の地方区分（3）東西南北日本</p> <p>第8回：日本の地方区分（4）道州制とは</p> <p>第9回：江戸から東京へ（行政区画の変遷）</p> <p>第10回：首都・東京（東京という場所）</p> <p>第11回：江戸の町の地図（1）江戸の町の土地利用</p>			

第12回：江戸の町の地図（2）江戸の都市構造

第13回：地図から地域を見る（1）軽井沢の広がり

第14回：地図から地域を見る（2）湘南の範囲

第15回：まとめと補足説明

定期試験

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

二宮書店編集部「ブック・オブ・ザ・ワールド」二宮書店

学生に対する評価

定期試験70%、授業終了時のリアクションペーパーの記述内容30%により評価する。

授業科目名：ベーシック政治	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：1単位	担当教員名：半田 英俊 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会、高等学校 公民)		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 ・「法律学(国際法を含む。)、政治学(国際政治を含む。)」		
授業のテーマ及び到達目標 政治思想の基礎的な知識について、理解を深めていくことを目標とする。			
授業の概要 現在の自由民主主義国家と独裁（権威主義）国家の争いは、それぞれの考え方の差違に端を発している。2つの陣営の溝は中々埋まることはないが、両陣営の考え方はどのようにして発展してきたのか。本講義では米英仏を中心とした近代欧米の政治思想について明らかにしていく。			
授業計画 第1回：本講義を履修するにあたって：政治学における政治思想の位置づけについて学ぶ。 第2回：自由民主主義国家と独裁国家：現在の両陣営の状況を考察した上で、自由主義成立の背景と基本原理について学ぶ。 第3回：自由主義：自由主義成立の背景と基本原理について学ぶ。 第4回：民主主義：民主主義成立の背景と基本原理について学ぶ。 第5回：自由民主主義の成立：自由民主主義がなぜ成立したかについて学ぶ。 第6回：自由民主主義の課題1 ～社会主義：社会主義成立の背景と基本原理について学ぶ。 第7回：自由民主主義の課題2 ～全体主義：全体主義成立の背景と基本原理について学ぶ。 第8回：総まとめ：講義全体を俯瞰しながら何が学ぶことができたかについて学ぶ。			
定期試験			
テキスト なし。			
参考書・参考資料等 増田正 他『政治学入門』（一藝社）、2020年、2400円+税。ISBN：978-4-86359-199-8 堀江湛、加藤秀治郎 編『政治学・行政学の基礎知識』（一藝社）、2021年、2600円+税。ISBN：978-4-86359-243-8 堀江湛、加藤秀治郎 編『政治学小辞典』（一藝社）、2019年、2700円+税。ISBN：978-4-405-04981-9			
学生に対する評価 平常点（7%）、第8回目の講義における定期試験（93%）で評価を行う。			

授業科目名：ベーシック政治	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：1単位	担当教員名：半田 英俊 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会、高等学校 公民)		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 ・「法律学(国際法を含む。)、政治学(国際政治を含む。)」		
授業のテーマ及び到達目標 政治思想の基礎的な知識について、理解を深めていくことを目標とする。			
授業の概要 現代日本では様々な政治問題が表面化している。これらの諸問題を的確に理解するためには、政治学の基本となる理論を学ぶことが重要である。本講義では立法と行政の関係に着目して、日本を含めた世界の政治制度や、日本の立法府・行政府の役割、日本の選挙制度、日本財政の観点からみた選挙へ行く必要性などについて概観していく。			
授業計画 第1回：本講義を履修するにあたって：政治学における政治思想の位置づけについて学ぶ。 第2回：自由民主主義国家と独裁国家：現在の両陣営の状況を考察した上で、自由主義成立の背景と基本原理について学ぶ。 第3回：自由主義：自由主義成立の背景と基本原理について学ぶ。 第4回：民主主義：民主主義成立の背景と基本原理について学ぶ。 第5回：自由民主主義の成立：自由民主主義がなぜ成立したかについて学ぶ。 第6回：自由民主主義の課題1 ～社会主義：社会主義成立の背景と基本原理について学ぶ。 第7回：自由民主主義の課題2 ～全体主義：全体主義成立の背景と基本原理について学ぶ。 第8回：総まとめ：講義全体を俯瞰しながら何が学ぶことができたかについて学ぶ。			
定期試験			
テキスト なし。			
参考書・参考資料等 増田正 他『政治学入門』（一藝社）、2020年、2400円+税。ISBN：978-4-86359-199-8 堀江湛、加藤秀治郎 編『政治学・行政学の基礎知識』（一藝社）、2021年、2600円+税。ISBN：978-4-86359-243-8 堀江湛、加藤秀治郎 編『政治学小辞典』（一藝社）、2019年、2700円+税。ISBN：978-4-405-04981-9			
学生に対する評価 平常点（7%）、第8回目の講義における定期試験（93%）で評価を行う。			

授業科目名： ベーシック法律	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：北田真理 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会、高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 ・「法律学(国際法を含む。)、政治学(国際政治を含む。)」		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・法の基本概念や法手続の基本原則を理解し、説明できるようになる。 ・法の解釈と適用の方法が理解できるようになり、実生活で直面する法的問題について論理的に考え、説明できるようになる。 ・民法や刑法の構造を理解し、日常生活と法律との関連性を意識できるようになる。 ・国内法と国際法の違いを理解し、政治的な問題との関連性を意識できるようになる。 ・ジェンダー、労働、消費者保護など現代社会における多様な社会問題と法との関連性を意識できるようになる。 			
授業の概要			
<p>この授業では、法の基本概念と社会における役割を学びます。まず、法とは何かを理解し、解釈や適用の方法、手続法と実体法の違いを学習します。その後、民法（財産法・家族法）、刑法、憲法に関する具体的な事例を通じて、法の運用や違憲審査などの仕組みを考察します。また、国際社会における法の影響や、ジェンダー、労働、消費者保護といった現代的な問題と法の関係についても検討します。実生活に関連する事例を交えながら、法的思考力（リーガル・マインド）を養うことを目的とした授業です。</p>			
授業計画			
<p>第1回：法とは何か：社会規範としての法、法と道徳、法と権利、法の役割と機能、法の存在形式について学ぶ。</p> <p>第2回：法の解釈と適用（要件・効果、法的三段論法、要件・効果、解釈の方法）について学ぶ。</p> <p>第3回：法と手続（自力救済の禁止、実体法・手続法、一般法と手続法、公法と私法、裁判手続）について学ぶ。</p> <p>第4回：民法（財産法）：交通事故、契約違反、家賃滞納事案など身近な問題を取り上げ、民事責任の発生原因を意識しつつ、財産法（不法行為・契約）の分野について学ぶ。</p> <p>第5回：刑法・民法（家族法）・憲法：尊属殺重罰規定違憲判決を取り上げ、家族法（親権・児童虐待）・刑法（殺人罪）・憲法（平等権）、制定法の序列、違憲審査権について学ぶ。</p> <p>第6回：グローバル社会の法：国際家族法分野の問題（代理出産、国境を越える子の奪い合い等）を取り上げつつ、国際法（条約）と国内法（法律）、国際公法・国際私法、国籍、国境・国家について学ぶ。</p>			

第7回：性別・ジェンダー、児童の権利、生と死、生殖（リプロダクティブ・ライツ）、職業・労働、個人と組織（会社）、消費者、情報などの様々な領域の問題を取り上げ、法との関連性について学ぶ。

第8回：定期試験

*時事的な問題を取り上げるため、若干変更する場合もある。。

テキスト

配布プリント

参考書・参考資料等

松井茂樹ほか『初めての法律学〔第6版〕』有斐閣、宍戸常寿・石川博康編『法学入門』有斐閣、青木人志『グラフィック法学入門〔第2版〕』ほか

学生に対する評価

【単位認定基準】

以下の2つの条件をすべて満たした者のみ単位を認定する。

①5回以上の出席・出席登録（コメント記入）

②最終授業日に行う試験の受験

【成績評価基準】

- ・上記2つの条件をすべて満たさない者は、評価不能＝E評価とする。
- ・基本的に試験の点数で評価する。（100%）

授業科目名： ベーシック法律	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：北田真理 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会、高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 ・「法律学(国際法を含む。)、政治学(国際政治を含む。)」		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・法の基本概念や法手続の基本原則を理解し、説明できるようになる。 ・法の解釈と適用の方法が理解できるようになり、実生活で直面する法的問題について論理的に考え、説明できるようになる。 ・民法や刑法の構造を理解し、日常生活と法律との関連性を意識できるようになる。 ・国内法と国際法の違いを理解し、政治的な問題との関連性を意識できるようになる。 ・ジェンダー、労働、消費者保護など現代社会における多様な社会問題と法との関連性を意識できるようになる。 			
授業の概要			
<p>この授業では、法の基本的な仕組みと、それが社会や経済活動にどのように関与しているかを学びます。まず、「法とは何か」という基礎から始め、法の解釈や適用、手続法と実体法の違いを理解します。その後、民法（契約・財産関係）、刑法、憲法といった法分野の具体的事例を通じて、ビジネスや経済における法の役割を考察します。また、国際取引、労働関係、消費者保護、ジェンダー平等など、現代的な社会課題と法の関係も取り上げ、実生活や実務において役立つ法的リテラシーの向上を目指します。</p>			
授業計画			
<p>第1回：法とは何か：社会規範としての法、法と道徳、法と権利、法の役割と機能、法の存在形式について学ぶ。</p> <p>第2回：法の解釈と適用（要件・効果、法的三段論法、要件・効果、解釈の方法）について学ぶ。</p> <p>第3回：法と手続（自力救済の禁止、実体法・手続法、一般法と手続法、公法と私法、裁判手続）について学ぶ。</p> <p>第4回：民法（財産法）：交通事故、契約違反、家賃滞納事案など身近な問題を取り上げ、民事責任の発生原因を意識しつつ、財産法（不法行為・契約）の分野について学ぶ。</p> <p>第5回：刑法・民法（家族法）・憲法：尊属殺重罰規定違憲判決を取り上げ、家族法（親権・児童虐待）・刑法（殺人罪）・憲法（平等権）、制定法の序列、違憲審査権について学ぶ。</p> <p>第6回：グローバル社会の法：国際家族法分野の問題（代理出産、国境を越える子の奪い合い等）を取り上げつつ、国際法（条約）と国内法（法律）、国際公法・国際私法、国籍、国境・国家について学ぶ。</p>			

第7回：性別・ジェンダー、児童の権利、生と死、生殖（リプロダクティブ・ライツ）、職業・労働、個人と組織（会社）、消費者、情報などの様々な領域の問題を取り上げ、法との関連性について学ぶ。

第8回：定期試験

*時事的な問題を取り上げるため、若干変更する場合もある。。

テキスト

配布プリント

参考書・参考資料等

松井茂樹ほか『初めての法律学〔第6版〕』有斐閣、宍戸常寿・石川博康編『法学入門』有斐閣、青木人志『グラフィック法学入門〔第2版〕』ほか

学生に対する評価

【単位認定基準】

以下の2つの条件をすべて満たした者のみ単位を認定する。

- ①5回以上の出席・出席登録（コメント記入）
- ②最終授業日に行う試験の受験

【成績評価基準】

- ・上記2つの条件をすべて満たさない者は、評価不能＝E評価とする。
- ・基本的に試験の点数で評価する。（100%）

授業科目名：ベーシック国際関係	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：1単位	担当教員名：渡辺 剛 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会、高等学校 公民)		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 ・「法律学(国際法を含む。)、政治学(国際政治を含む。)」		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>国際関係系統の基礎的な知識と「世界の捉え方」の習得が目標であり、具体的には以下の三点が挙げられる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、国際的なニュースや時事問題を深く理解する為の知識習得。 2、国際関係系科目履修の前提となる基礎知識修得。 3、広くバランスの取れた現実的な世界観の確立。 			
<p>授業の概要</p> <p>社会的な要請であり、本学が目標としても掲げるグローバル人材の育成にあたり、国際関係系統の知識は必須である。本科目は国際関係系諸科目を履修する上での基礎的な知識として位置付けられる。基本的な国際社会の成り立ちから始まり、現在地球上に存在する諸問題の概観までをカバーする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンスとイントロダクション</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本講義開始に当たっての基本的な情報提供と注意喚起を行い、履修登録するかどうかの慎重な意思決定を促す。また、学期開始時点での講義計画の修正と見直しについても説明する。 ○当学部国際関係コース所属教官の専門と開設科目のコース全体像の紹介、受講するにあたっての基礎知識チェックも併せて行う。 ○国際関係論という学問体系の全体像や考え方、国際関係の主要アクターについて説明する。 <p>第2回：リアリズムとリベラリズム</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国際関係論／国際政治学の二大学派であるリベラリズムとリアリズムを説明し、国際政治の本質たるパワーゲームについて理解を深める。 <p>第3回：世界の基本構造</p> <ul style="list-style-type: none"> ○世界を分断する対立軸について説明する。 ○世界各国の政治体制について説明する。 <p>第4回：グローバルイシュー</p> <ul style="list-style-type: none"> ○分断され対立を繰り返す現代世界において、全球的な対応が求められる諸問題を概観する。 <p>第5回：パワーランジションと米中覇権闘争</p> <ul style="list-style-type: none"> ○覇権国の変遷と未来の可能性について説明する。 			

○覇権を巡る米中二大国の権力闘争と覇権国の地位を目指す中国の戦略について分析する。

第6回：国際法と国連

○国際法及び国連をはじめとする国際機関の構造、機能と実態に関する基礎知識を説明する。

第7回：外交

○国益を巡る戦いとしての外交の基本的な基礎知識について説明する。組織、担い手、手法、国際的慣行、実態、新たな問題領域が対象となる。

第8回：講義の総括・まとめ

○講義全体についての振り返りと試験

テキスト

特に指定しないが、事前にUNIPA上で授業スライドを配布する。

参考書・参考資料等

『公務員試験 過去問攻略Vテキスト (14) 国際関係』TAC出版、2024年

ISBN：978-4300111543

その他、講義中に適宜紹介する。

学生に対する評価

期末試験100%に授業への参加姿勢やオンラインで実施する練習問題を加味して評価する。

欠席過多は、単位付与の欠格事由となる。

試験は持込不可とする。

授業科目名：ベーシック国際関係	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：1単位	担当教員名：渡辺 剛 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会、高等学校 公民)		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 ・「法律学(国際法を含む。)、政治学(国際政治を含む。)」		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>国際関係系統の基礎的な知識と「世界の捉え方」の習得が目標であり、具体的には以下の三点が挙げられる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、国際的なニュースや時事問題を深く理解する為の知識習得。 2、国際関係系科目履修の前提となる基礎知識修得。 3、広くバランスの取れた現実的な世界観の確立。 			
<p>授業の概要</p> <p>社会的な要請であり、本学が目標としても掲げるグローバル人材の育成にあたり、国際関係系統の知識は必須である。本科目は国際経済や国際ビジネス関連諸科目を履修する上での関連・背景的知識として位置付けられる。基本的な国際社会の成り立ちから始まり、現在地球上に存在する諸問題の概観までをカバーする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンスとイントロダクション</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本講義開始に当たっての基本的な情報提供と注意喚起を行い、履修登録するかどうかの慎重な意思決定を促す。また、学期開始時点での講義計画の修正と見直しについても説明する。 ○当学部国際関係コース所属教官の専門と開設科目のコース全体像の紹介、受講するにあたっての基礎知識チェックも併せて行う。 ○国際関係論という学問体系の全体像や考え方、国際関係の主要アクターについて説明する。 <p>第2回：リアリズムとリベラリズム</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国際関係論／国際政治学の二大学派であるリベラリズムとリアリズムを説明し、国際政治の本質たるパワーゲームについて理解を深める。 <p>第3回：世界の基本構造</p> <ul style="list-style-type: none"> ○世界を分断する対立軸について説明する。 ○世界各国の政治体制について説明する。 <p>第4回：グローバルイシュー</p> <ul style="list-style-type: none"> ○分断され対立を繰り返す現代世界において、全球的な対応が求められる諸問題を概観する。 <p>第5回：パワーランジションと米中覇権闘争</p> <ul style="list-style-type: none"> ○覇権国の変遷と未来の可能性について説明する。 			

○覇権を巡る米中二大国の権力闘争と覇権国の地位を目指す中国の戦略について分析する。

第6回：国際法と国連

○国際法及び国連をはじめとする国際機関の構造、機能と実態に関する基礎知識を説明する。

第7回：外交

○国益を巡る戦いとしての外交の基本的な基礎知識について説明する。組織、担い手、手法、国際的慣行、実態、新たな問題領域が対象となる。

第8回：講義の総括・まとめ

○講義全体についての振り返りと試験

テキスト

特に指定しないが、事前にUNIPA上で授業スライドを配布する。

参考書・参考資料等

『公務員試験 過去問攻略Vテキスト (14) 国際関係』TAC出版、2024年

ISBN：978-4300111543

その他、講義中に適宜紹介する。

学生に対する評価

期末試験100%に授業への参加姿勢やオンラインで実施する練習問題を加味して評価する。

欠席過多は、単位付与の欠格事由となる。

試験は持込不可とする。

授業科目名：現代日本 政治A（政治）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：半田 英俊 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 ・「法律学(国際法を含む。)、政治学(国際政治を含む。)」		
授業のテーマ及び到達目標 政治学の基礎知識を身につけ、政治一般に対する理解を深めていくことを目標とする。			
授業の概要 現代日本では様々な政治問題が表面化している。これらの諸問題を的確に理解するためには、政治学の基本となる理論を学ぶことが重要である。本講義では立法と行政の関係や役割、歴史などについて概観していく。			
授業計画 第1回：本講義を履修するにあたって：政治学の基本的な考え方について学ぶ。 第2回：政治の機能：政治に求められているものとは何かについて学ぶ。 第3回：政治制度 ～日本：日本の議院内閣制のしくみについて学ぶ。 第4回：政治制度 ～アメリカ：アメリカの大統領制のしくみについて学ぶ。 第5回：政治制度 ～ドイツ：ドイツの議院内閣制について、日本と対比しながらしくみについて学ぶ。 第6回：政治制度 ～フランス：フランスの半大統領制について、アメリカと対比しながらしくみについて学ぶ。 第7回：政治制度 ～中国：中国の政治体制について、アメリカ・フランスと対比しながらしくみについて学ぶ。 第8回：立法府の役割：立法府に求められているとされている5つの機能について学ぶ。 第9回：前半のまとめ：第1～8回を俯瞰しながら何が学べたかについて学ぶ、中間試験 第10回：選挙に行くことの重要性：選挙に行くことの重要性について学ぶ。 第11回：選挙制度 ～衆議院（前編）：現代日本の衆議院選挙の歴史（主に中選挙区制）について学ぶ。 第12回：選挙制度 ～衆議院（後編）：現代日本の衆議院選挙の制度（主に小選挙区比例代表並立制）について学ぶ。 第13回：選挙制度 ～参議院（前編）：現代日本の参議院選挙の歴史（主に地方区制+全国区制）について学ぶ。 第14回：選挙制度 ～参議院（後編）：現代日本の参議院選挙の制度（主に地方区制+非拘束式比例代表制）について学ぶ。			

第15回：総まとめ：講義全体を俯瞰しながら、何が学べたかについて学ぶ。

定期試験

テキスト

なし。

参考書・参考資料等

増田正他『政治学入門』（一藝社）、2020年、2400円+税。ISBN：978-4-86359-199-8

堀江湛 編『政治学・行政学の基礎知識 第4版』（一藝社）、2021年、2600円+税。ISBN：978-4-86359-243-8

堀江湛、加藤秀治郎 編『政治学小辞典』（一藝社）、2019年、2700円+税。ISBN：978-4-405-04981-9

学生に対する評価

中間試験（50%）、期末試験（50%）で評価をおこなう。

授業科目名：現代日本 政治A（政治）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：半田 英俊 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 ・「法律学(国際法を含む。)、政治学(国際政治を含む。)」		
授業のテーマ及び到達目標 政治学の基礎知識を身につけ、政治一般に対する理解を深めていくことを目標とする。			
授業の概要 現代日本では様々な政治問題が表面化している。これらの諸問題を的確に理解するためには、政治学の基本となる理論を学ぶことが重要である。本講義では立法と行政の関係に着目して、日本を含めた世界の政治制度や、日本の立法府・行政府の役割、日本の選挙制度、日本財政の観点からみた選挙へ行く必要性などについて概観していく。			
授業計画 第1回：本講義を履修するにあたって：政治学の基本的な考え方について学ぶ。 第2回：政治の機能：政治に求められているものとは何かについて学ぶ。 第3回：政治制度 ～日本：日本の議院内閣制のしくみについて学ぶ。 第4回：政治制度 ～アメリカ：アメリカの大統領制のしくみについて学ぶ。 第5回：政治制度 ～ドイツ：ドイツの議院内閣制について、日本と対比しながらしくみについて学ぶ。 第6回：政治制度 ～フランス：フランスの半大統領制について、アメリカと対比しながらしくみについて学ぶ。 第7回：政治制度 ～中国：中国の政治体制について、アメリカ・フランスと対比しながらしくみについて学ぶ。 第8回：立法府の役割：立法府に求められているとされている5つの機能について学ぶ。 第9回：前半のまとめ：第1～8回を俯瞰しながら何が学べたかについて学ぶ、中間試験 第10回：選挙に行くことの重要性：選挙に行くことの重要性について学ぶ。 第11回：選挙制度 ～衆議院（前編）：現代日本の衆議院選挙の歴史（主に中選挙区制）について学ぶ。 第12回：選挙制度 ～衆議院（後編）：現代日本の衆議院選挙の制度（主に小選挙区比例代表並立制）について学ぶ。 第13回：選挙制度 ～参議院（前編）：現代日本の参議院選挙の歴史（主に地方区制+全国区制）について学ぶ。 第14回：選挙制度 ～参議院（後編）：現代日本の参議院選挙の制度（主に地方区制+非拘束式比例			

代表制) について学ぶ。

第15回：総まとめ：講義全体を俯瞰しながら、何が学べたかについて学ぶ。

定期試験

テキスト

なし。

参考書・参考資料等

増田正他『政治学入門』（一藝社）、2020年、2400円+税。ISBN：978-4-86359-199-8

堀江湛 編『政治学・行政学の基礎知識 第4版』（一藝社）、2021年、2600円+税。ISBN：978-4-86359-243-8

堀江湛、加藤秀治郎 編『政治学小辞典』（一藝社）、2019年、2700円+税。ISBN：978-4-405-04981-9

学生に対する評価

中間試験（50%）、期末試験（50%）で評価をおこなう。

授業科目名：現代日本 政治史B（行政）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：進邦 徹夫 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会、高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 ・「法律学(国際法を含む。)、政治学(国際政治を含む。)」		
授業のテーマ及び到達目標 国会では「政局」（政治情勢や権力闘争）の側面ばかりが注目されるが、それを理解するためにも、政策決定過程や選挙（有権者の投票行動を含む）についての理解を目標とする。「決定」の側面から日本の政策決定を捉え、決定ルールや決定に関わるアクターについて理解してほしい。			
授業の概要 政治は、多様な意思を集約し、決定し、行政はそれに従って公共政策を展開する。本講義では、日本の政治について、「決定」という視点から講述する。とりわけ、（1）決定ルールの多様性と特徴、（2）わが国の選挙制度、（3）わが国の政策決定過程、（4）わが国の制作過程における決定のルール、（5）政治学の理論についての理解を深め、わが国の政治の特徴と課題について考察する素材を提供する。			
授業計画 第1回： 現代日本政治Bで何を学ぶか：現代日本政治の課題 第2回： ニッポンの選挙：わが国の選挙制度 第3回： 選挙の実際：現在の日本の選挙の状況と変化（政治と行政の相違点を学ぶ） 第4回： 政党システム：日本の政党の成り立ちと現状 第5回： 日本の決定ルール：多数決と全会一致、独任制と合議制 第6回： 日本の立法過程：議院の構成、議事のあり方 第7回： 日本の内閣制度：議院内閣制と大統領制 第8回： 日本の行政：日本行政の課題 第9回： 日本の予算制度：「予算」を編成する意味を考える 第10回： マスメディアと政治：日本のマスメディアと政治 第11回： 日本政治の分析視角：日本政治を分析する理論 第12回： 日本の中央—地方関係：日本の地方制度 第13回： 日本の地方政治：地方政治の課題、地方政治と国政 第14回： 日本の民主主義：society5.0と日本政治 第15回： 全体のまとめ：第1回から第15回の総まとめを行う 定期試験			

テキスト

杏林大学総合政策学部編『教養としての社会科学』丸善出版2024年ISBN978-4-621-31059-5

参考書・参考資料等

谷口将紀・川出良枝『政治学』東京大学出版会2012年ISBN-13 : 978-4130322355

学生に対する評価①絶対評価で採点します。中間試験30%、学期末試験60%、平常点10%

②中間試験と学期末試験を行います。

中間試験は持ち込み可で行いますので、問題に的確に答えていない場合は不採点とします。

学期末試験は、論述と穴埋め方式の出題とします。論述については、(試験問題に記載するかどうかは未定ですが)いくつかのキーワードを設定し、そのキーワードが理解され、文章が論理的に構成されているか(相手に伝えやすく書いているか)で採点します。

③講義中の態度が著しく悪い場合、退室とし、不合格とする場合があります。

授業科目名：現代日本 政治史B（行政）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：進邦 徹夫 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会、高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 ・「法律学(国際法を含む。)、政治学(国際政治を含む。)」		
授業のテーマ及び到達目標 国会では「政局」（政治情勢や権力闘争）の側面ばかりが注目されるが、それを理解するためにも、政策決定過程や選挙（有権者の投票行動を含む）についての理解を目標とする。「決定」の側面から日本の政策決定を捉え、決定ルールや決定に関わるアクターについて理解してほしい。			
授業の概要 政治は、多様な意思を集約し、決定し、行政はそれに従って公共政策を展開する。本講義では、経済的影響と経営上の課題を考慮しながら、日本の政策決定過程を検討し、行政と民間の協働がどのように経済的規制を形成するかを学びます。とりわけ、（1）決定ルールの多様性と特徴、（2）わが国の選挙制度、（3）わが国の政策決定過程、（4）わが国の制作過程における決定のルール、（5）政治学の理論についての理解を深め、わが国の政治の特徴と課題について考察する素材を提供する。			
授業計画 第1回： 現代日本政治Bで何を学ぶか：現代日本政治の課題 第2回： ニッポンの選挙：わが国の選挙制度 第3回： 選挙の実際：現在の日本の選挙の状況と変化（政治と行政の相違点を学ぶ） 第4回： 政党システム：日本の政党の成り立ちと現状 第5回： 日本の決定ルール：多数決と全会一致、独任制と合議制 第6回： 日本の立法過程：議院の構成、議事のあり方 第7回： 日本の内閣制度：議院内閣制と大統領制 第8回： 日本の行政：日本行政の課題 第9回： 日本の予算制度：「予算」を編成する意味を考える 第10回： マスメディアと政治：日本のマスメディアと政治 第11回： 日本政治の分析視角：日本政治を分析する理論 第12回： 日本の中央—地方関係：日本の地方制度 第13回： 日本の地方政治：地方政治の課題、地方政治と国政 第14回： 日本の民主主義：society5.0と日本政治 第15回： 全体のまとめ：第1回から第15回の総まとめを行う			

定期試験
テキスト 杏林大学総合政策学部編『教養としての社会科学』丸善出版2024年ISBN978-4-621-31059-5
参考書・参考資料等 谷口将紀・川出良枝『政治学』東京大学出版会2012年ISBN-13：978-4130322355
学生に対する評価①絶対評価で採点します。中間試験30%、学期末試験60%、平常点10% ②中間試験と学期末試験を行います。 中間試験は持ち込み可で行いますので、問題に的確に答えていない場合は不採点とします。 学期末試験は、論述と穴埋め方式の出題とします。論述については、（試験問題に記載するかどうかは未定ですが）いくつかのキーワードを設定し、そのキーワードが理解され、文章が論理的に構成されているか（相手に伝えやすく書いているか）で採点します。 ③講義中の態度が著しく悪い場合、退室とし、不合格とする場合があります。

授業科目名：民法Ⅰ(入門・財産法①)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：北田 真理 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会、高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 ・「法律学(国際法を含む。)、政治学(国際政治を含む。)」		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民法総則、不法行為・契約に関する基礎的な学習により、論理的で客観的な思考を学ぶことができる。 ・国内の民事手続、国際的な民事手続の大枠について理解することができる。 ・新聞やニュースの内容、身近なトラブルを法的に理解することができる。 ・問題の所在を法的に認識し、さまざまな要素を勘案しながら、最も妥当な解決を導く能力(＝リーガルマインド)を養うことができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>本講義では、身近な交通事故の事例を題材にして、不法行為責任と契約責任を学習しながら、民法総則の知識全般を学ぶことを目標としています。民法入門者は必ずこの授業から履修してください。民法全体を学ぶための基礎を固める内容となっています。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：交通事故の法的責任(刑事・行政・民事)、法の適用・解釈の仕組み、法源、要件・効果 第2回：刑事裁判・民事裁判の違い、自力救済の禁止、公法・私法・社会法、民法の基本原則、民法の歴史、民法の構造 第3回：民事責任の発生原因(不法行為・債務不履行・事務管理・不当利得)、私法上の権利・義務、債権・債務、物権・債権、請求権競合 第4回：不法行為の成立要件、民事責任能力、過失責任主義、相当因果関係、特殊な不法行為、危険責任、報償責任、過失責任主義の修正(自動車損害賠償保障法、製造物責任法) 第5回：過失責任主義の修正(使用者責任、土地工作物責任、責任無能力者の監督者の責任) 第6回：不法行為の効果、時効(消滅時効、取得時効)、条件・期限・期間 第7回：契約の有効要件、私的自治の原則、契約自由の原則、契約の分類、法律行為、意思表示、意思の不存在(心裡留保・通謀虚偽表示) 第8回：瑕疵ある意思表示(錯誤・詐欺・強迫) 第9回：法律行為の社会的妥当性(公序良俗・強行規定)、無効・取消し 第10回：権利主体(自然人、法人)・権利客体(物)、権利能力の始期・終期、意思能力、失踪宣告 第11回：私的自治の限界：行為能力、未成年後見制度、成年後見制度、相手方の保護 第12回：消費者・個人の保護、無効・取消しのまとめ、契約の債務不履行の要件・効果</p>			

第13回：代理（任意代理、法定代理、無権代理、表見代理）

第14回：民事訴訟・民事調停、制限行為能力者の裁判（未成年者の意見表明）

第15回：国際的な民事訴訟（国際私法、国際民事訴訟法）、ハーグ条約など

*時事的な問題を取り上げるため、若干変更する場合もある。

テキスト

配布プリント

参考書・参考資料等

松井茂樹ほか『初めての法律学〔第6版〕』有斐閣、窪田充見『契約法入門を兼ねた民法案内』弘文堂、永田眞三郎ほか『民法入門・総則 エッセンシャル民法〈1〉』有斐閣、安西明子ほか『民事訴訟法〔第3版〕』有斐閣、木棚照一『国際私法』成文堂

学生に対する評価

試験の点数で評価する。（100%）

授業科目名：民法Ⅰ(入門・財産法①)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：北田 真理 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会、高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 ・「法律学(国際法を含む。)、政治学(国際政治を含む。)」		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民法総則、不法行為・契約に関する基礎的な学習により、論理的で客観的な思考を学ぶことができる。 ・国内の民事手続、国際的な民事手続の大枠について理解することができる。 ・新聞やニュースの内容、身近なトラブルを法的に理解することができる。 ・問題の所在を法的に認識し、さまざまな要素を勘案しながら、最も妥当な解決を導く能力(＝リーガルマインド)を養うことができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>本講義では、ビジネスや日常生活で重要となる契約や損害賠償の基本を理解するために、交通事故の事例を用いながら、不法行為責任と契約責任の基本構造を学びます。あわせて、意思表示、契約成立、時効といった民法総則の基本事項についても扱い、実務や企業活動に役立つ民法の基礎力を養います。経済・経営分野において法的リスクに対応する力をつけるためにも、この授業を入口として受講することを推奨します。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：交通事故の法的責任(刑事・行政・民事)、法の適用・解釈の仕組み、法源、要件・効果 第2回：刑事裁判・民事裁判の違い、自力救済の禁止、公法・私法・社会法、民法の基本原則、民法の歴史、民法の構造 第3回：民事責任の発生原因(不法行為・債務不履行・事務管理・不当利得)、私法上の権利・義務、債権・債務、物権・債権、請求権競合 第4回：不法行為の成立要件、民事責任能力、過失責任主義、相当因果関係、特殊な不法行為、危険責任、報償責任、過失責任主義の修正(自動車損害賠償保障法、製造物責任法) 第5回：過失責任主義の修正(使用者責任、土地工作物責任、責任無能力者の監督者の責任) 第6回：不法行為の効果、時効(消滅時効、取得時効)、条件・期限・期間 第7回：契約の有効要件、私的自治の原則、契約自由の原則、契約の分類、法律行為、意思表示、意思の不存在(心裡留保・通謀虚偽表示) 第8回：瑕疵ある意思表示(錯誤・詐欺・強迫) 第9回：法律行為の社会的妥当性(公序良俗・強行規定)、無効・取消し 第10回：権利主体(自然人、法人)・権利客体(物)、権利能力の始期・終期、意思能力、失踪宣告</p>			

第11回：私的自治の限界：行為能力、未成年後見制度、成年後見制度、相手方の保護
第12回：消費者・個人の保護、無効・取消しのまとめ、契約の債務不履行の要件・効果
第13回：代理（任意代理、法定代理、無権代理、表見代理）
第14回：民事訴訟・民事調停、制限行為能力者の裁判（未成年者の意見表明）
第15回：国際的な民事訴訟（国際私法、国際民事訴訟法）、ハーグ条約など
*時事的な問題を取り上げるため、若干変更する場合もある。

テキスト

配布プリント

参考書・参考資料等

松井茂樹ほか『初めての法律学〔第6版〕』有斐閣、窪田充見『契約法入門を兼ねた民法案内』弘文堂、永田眞三郎ほか『民法入門・総則 エッセンシャル民法〈1〉』有斐閣、安西明子ほか『民事訴訟法〔第3版〕』有斐閣、木棚照一『国際私法』成文堂

学生に対する評価

試験の点数で評価する。（100%）

授業科目名：国際政治史	教員の免許状取得のための 必修科目（高） 選択科目（中）	単位数： 2単位	担当教員名：島村 直幸 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会、高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 ・「法律学(国際法を含む。)、政治学(国際政治を含む。)」		
授業のテーマ及び到達目標 国際関係の歴史と現実について、関心と理解を深めることを講義の到達目標とする。			
授業の概要 講義では、国際関係と外交について、主要なテーマを一つずつ取り上げ、歴史と現実に対する理解を深める。 外交とは、近代以降の主権国家の間で展開されてきた対外政策の術であり、世界政府が存在しない「無政府状態（アナキー）」の国際社会では、第一義的には「国家の生存」のために「秩序の安定」を目的としてきた。しかし、現代の外交では、経済や開発、人権、環境といった問題領域や争点の重要性が、たしかに相対的により高まってきた。なぜなら、二度の世界大戦を経験し、核兵器が出現した現代の国際社会では、少なくとも大国間での戦争が勃発する蓋然性が著しく低下し、過去と比較すれば、安全保障や軍事力の重要性が相対的により低下してきたからである。 また同時に、国際的に相互依存が深化したことにより、戦争はますます起こりにくくなりつつある。国際社会で民主化や制度化がさらに進展していけば、戦争がやはり起こりにくくなる（はずである）という指摘もある。さらに、国際連合（国連）などの国際機関、多国籍企業、NGOや市民社会など、主権国家以外の行為主体（アクター）の重要性も、現代の外交ではたしかに無視できない。 しかし、国際システムが基本的に主権国家からまず構成され、システム原理が「無政府状態」であるという現実が根本から変化したわけではない。たとえば、国連はあくまでも主権国家の集まりであり、主権国家よりもより上位の権威、すなわち世界政府ではない。また、ヨーロッパ統合は、たしかに主権国家を乗り越える歴史的な実験を積み重ねてきたが、深刻な財政危機に直面し、今まさに歴史的な岐路に立たされている。			
授業計画 第1回：はじめに：国際秩序とは何か：国際秩序の本質について学ぶ。 第2回：「プーチンの戦争」と「インド太平洋」戦略：現状の国際秩序について学ぶ。 第3回：「ガザ戦争」とアメリカ政治外交：中東情勢について学ぶ。 第4回：大国間戦争後：大国間戦争後の国際秩序はいかに安定するかについて学ぶ。			

第5回：国際連盟から国際連合へ：国連が成立する過程について学ぶ。
 第6回：国連システム：国連の仕組みと役割について学ぶ。
 第7回：国連の国連軍・多国籍軍・平和維持活動（PKO）：国連の軍事的な役割について学ぶ。
 第8回：冷戦の歴史：冷戦の歴史を概観する。
 第9回：緊張緩和（デタント）の歴史：緊張緩和の成立と崩壊について学ぶ。
 第10回：日本の外交+中国をめぐる国際関係：日米中関係について学ぶ。
 第11回：朝鮮半島をめぐる国際関係+東南アジアをめぐる国際関係：北朝鮮とASEANを中心とした国際関係史について学ぶ。
 第12回：地球環境・人権・難民：地球環境と人権、難民の国際的な取り組みについて学ぶ。
 第13回：国際関係論+リアリズムとリベラリズム：国際関係論の基礎について学ぶ。
 第14回：ネオリアリズムとネオリベラリズム：最新の理論動向について学ぶ。
 第15回：グローバリズム+政策決定論：リアリズムとリベラリズム以外の理論を学ぶ

定期試験

テキスト

島村直幸『国際政治の<変化>を見る眼—理論・歴史・現状』晃洋書房、2019年

参考書・参考資料等

島村直幸『<抑制と均衡>のアメリカ政治外交—歴史・構造・プロセス』ミネルヴァ書房、2018年

島村直幸『<逆>から読み解く国際問題—トランプから中国問題、第四次産業革命まで』一藝社、2025年

増田正、丹波文生、半田英俊、島村直幸、吉田龍太郎、加藤秀治郎『政治学入門』一藝社、2020年

ジョセフ・S・ナイ（田中明彦・村田晃嗣訳）『国際紛争[原書第9版]』有斐閣、2013年

石井修『国際政治史としての二〇世紀』有信堂、2000年

佐々木卓也『冷戦』有斐閣、2011年

山田敦、和田洋典、倉科一希編『新版 国際関係学—地球社会を理解するために』有信堂、2025年

村田晃嗣・君塚直隆・石川卓・栗栖薫子・秋山信将『国際政治学をつかむ【新版】』有斐閣、2009年

野林健・大芝亮・納家政嗣・山田敦・長尾悟『国際政治経済学・入門[第3版]』有斐閣、2007年

山田高敬・大矢根聡編『グローバル社会の国際関係論』有斐閣、2006年

西谷真規子、山田高敬編著『新時代のグローバル・ガバナンス—制度・過程・行為主体』ミネルヴァ書房、2021年

高坂正堯『国際政治』中央新書、1966年

滝田賢治編『21世紀国際政治の展望』中央大学出版会、2017年

須藤季夫『国家の対外行動』東京大学出版会、2007年

篠田英朗『国際社会の秩序』東京大学出版会、2007年

飯田敬輔『国際政治経済』東京大学出版会、2007年

鈴木基史『平和と安全保障』東京大学出版会、2007年

猪口孝『国際関係論の系譜』東京大学出版会、2007年

細谷雄一『国際秩序』中公新書、2012年

細谷雄一『外交』有斐閣、2007年

花井等・石井貫太郎編『名著に学ぶ国際関係論[第2版]』有斐閣、2009年

学生に対する評価

定期試験（70点）と中間レポート（30点）を加算し、総合評価で算出する。中間レポートは、教科書の序章と終章を読み、A4で2枚に要約する。締め切りは5月末まで。

授業科目名：国際政治史	教員の免許状取得のための 必修科目（高） 選択科目（中）	単位数： 2単位	担当教員名：島村 直幸
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会、高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 ・「法律学(国際法を含む。)、政治学(国際政治を含む。)」		
授業のテーマ及び到達目標 国際関係の歴史と現実について、関心と理解を深めることを講義の到達目標とする。			
授業の概要 講義では、国際関係と外交について、主要なテーマを「経済・経営」の観点から一つずつ取り上げ、特に国際経済の構造や企業戦略が外交政策に与える影響を考察し、歴史と現実に対する理解を深める。 外交とは、近代以降の主権国家の間で展開されてきた対外政策の術であり、世界政府が存在しない「無政府状態（アナーキー）」の国際社会では、第一義的には「国家の生存」のために「秩序の安定」を目的としてきた。しかし、現代の外交では、経済や開発、人権、環境といった問題領域や争点の重要性が、たしかに相対的により高まってきた。なぜなら、二度の世界大戦を経験し、核兵器が出現した現代の国際社会では、少なくとも大国間での戦争が勃発する蓋然性が著しく低下し、過去と比較すれば、安全保障や軍事力の重要性が相対的により低下してきたからである。 また同時に、国際的に相互依存が深化したことにより、戦争はますます起こりにくくなりつつある。国際社会で民主化や制度化がさらに進展していけば、戦争がやはり起こりにくくなる（はずである）という指摘もある。さらに、国際連合（国連）などの国際機関、多国籍企業、NGOや市民社会など、主権国家以外の行為主体（アクター）の重要性も、現代の外交ではたしかに無視できない。 しかし、国際システムが基本的に主権国家からまず構成され、システム原理が「無政府状態」であるという現実が根本から変化したわけではない。たとえば、国連はあくまでも主権国家の集まりであり、主権国家よりもより上位の権威、すなわち世界政府ではない。また、ヨーロッパ統合は、たしかに主権国家を乗り越える歴史的な実験を積み重ねてきたが、深刻な財政危機に直面し、今まさに歴史的な岐路に立たされている。			
授業計画 第1回：はじめに：国際秩序とは何か：国際秩序の本質について学ぶ。 第2回：「プーチンの戦争」と「インド太平洋」戦略：現状の国際秩序について学ぶ。 第3回：「ガザ戦争」とアメリカ政治外交：中東情勢について学ぶ。			

- 第4回：大国間戦争後：大国間戦争後の国際秩序はいかに安定するかについて学ぶ。
- 第5回：国際連盟から国際連合へ：国連が成立する過程について学ぶ。
- 第6回：国連システム：国連の仕組みと役割について学ぶ。
- 第7回：国連の国連軍・多国籍軍・平和維持活動（PKO）：国連の軍事的な役割について学ぶ。
- 第8回：冷戦の歴史：冷戦の歴史を概観する。
- 第9回：緊張緩和（デタント）の歴史：緊張緩和の成立と崩壊について学ぶ。
- 第10回：日本の外交+中国をめぐる国際関係：日米中関係について学ぶ。
- 第11回：朝鮮半島をめぐる国際関係+東南アジアをめぐる国際関係：北朝鮮とASEANを中心とした国際関係史について学ぶ。
- 第12回：地球環境・人権・難民：地球環境と人権、難民の国際的な取り組みについて学ぶ。
- 第13回：国際関係論+リアリズムとリベラリズム：国際関係論の基礎について学ぶ。
- 第14回：ネオリアリズムとネオリベラリズム：最新の理論動向について学ぶ。
- 第15回：グローバリズム+政策決定論：リアリズムとリベラリズム以外の理論を学ぶ
- 定期試験

テキスト

島村直幸『国際政治の<変化>を見る眼—理論・歴史・現状』晃洋書房、2019年

参考書・参考資料等

島村直幸『<抑制と均衡>のアメリカ政治外交—歴史・構造・プロセス』ミネルヴァ書房、2018年

島村直幸『<逆>から読み解く国際問題—トランプから中国問題、第四次産業革命まで』一藝社、2025年

増田正、丹波文生、半田英俊、島村直幸、吉田龍太郎、加藤秀治郎『政治学入門』一藝社、2020年

ジョセフ・S・ナイ（田中明彦・村田晃嗣訳）『国際紛争[原書第9版]』有斐閣、2013年

石井修『国際政治史としての二〇世紀』有信堂、2000年

佐々木卓也『冷戦』有斐閣、2011年

山田敦、和田洋典、倉科一希編『新版 国際関係学—地球社会を理解するために』有信堂、2025年

村田晃嗣・君塚直隆・石川卓・栗栖薫子・秋山信将『国際政治学をつかむ【新版】』有斐閣、2009年

野林健・大芝亮・納家政嗣・山田敦・長尾悟『国際政治経済学・入門[第3版]』有斐閣、2007年

山田高敬・大矢根聡編『グローバル社会の国際関係論』有斐閣、2006年

西谷真規子、山田高敬編著『新時代のグローバル・ガバナンス—制度・過程・行為主体』ミネルヴァ書房、2021年

高坂正堯『国際政治』中央新書、1966年

滝田賢治編『21世紀国際政治の展望』中央大学出版会、2017年

須藤季夫『国家の対外行動』東京大学出版会、2007年

篠田英朗『国際社会の秩序』東京大学出版会、2007年

飯田敬輔『国際政治経済』東京大学出版会、2007年

鈴木基史『平和と安全保障』東京大学出版会、2007年

猪口孝『国際関係論の系譜』東京大学出版会、2007年

細谷雄一『国際秩序』中公新書、2012年

細谷雄一『外交』有斐閣、2007年

花井等・石井貫太郎編『名著に学ぶ国際関係論[第2版]』有斐閣、2009年

学生に対する評価

定期試験（70点）と中間レポート（30点）を加算し、総合評価で算出する。中間レポートは、教科書の序章と終章を読み、A4で2枚に要約する。締め切りは5月末まで。

授業科目名：国際政治学	教員の免許状取得のための 必修科目（高） 選択科目（中）	単位数： 2単位	担当教員名：渡辺 剛 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 ・「法律学(国際法を含む。)、政治学(国際政治を含む。)」		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>将来社会に出て、公務やビジネス等の実務に携わる際に必須となる、国際政治と国際関係に関する分析・理解能力を涵養すること、及び地政学をはじめとする安全保障に関する基本的理解の習得が主要目的である。</p> <p>更に、各種公務員試験や大学院入試に於ける国際関係科目で、自習が難しいとされる学説・理論分野で確実に得点を上げる事も、もう一つの到達目標である。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>グローバル化の進む現代社会では、様々なビジネスシーンや公的機関の業務に於いて、諸外国・国際社会との関わりは不可避となっている。大学卒業後にビジネスマンや公務員として第一線で活躍する為には、国際政治と国際関係、地政学・安全保障環境に関する基礎知識が要求される。本講義では、現実の国際政治を理解する上での、基本的な概念、学説や理論、それらを応用した具体的な国際情勢分析を講じる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンスとイントロダクション</p> <p>○本講義開始に当たっての基本的な情報提供と注意喚起を行う。また、学期開始時点での講義計画の修正と見通しについても説明する。</p> <p>○イントロダクション：国際社会の形成・基本構造と国際政治学の成り立ちについて概説する。</p> <p>第2回：主権国家と国民国家の基礎概念</p> <p>○国際社会の基本単位である主権国家の基本概念と歴的背景について説明する。また、近代国民国家と国民、ナショナリズムについても説明する。</p> <p>第3回：古典的リアリズム</p> <p>○国際政治学の基本学説たる現実主義・リアリズム学派の思想的・歴史的な背景、学説の変遷を説明する。</p> <p>第4回：ネオリアリズム</p> <p>○古典的リアリズムを改良・精緻化したネオリアリズムの思想的・歴史的な背景、学説の変遷を説明する。特に近年の国際紛争の分析への応用について論じる。</p>			

第5回：リベラリズム

○現実主義・リアリズム学派と並ぶ国際政治学二大潮流の一つである理想主義・リベラリズム学派の思想的・歴史的な背景、学説の変遷を説明する。

第6回：ネオリベラリズム

○従来のリベラリズムを改良・精緻化したネオリアリズムの思想的・歴史的な背景、学説の変遷を説明する。特に、近年の国際協力・協調制度との関係について論じる。

第7回：構造主義とマルクス主義

○いわゆる「左派」的な世界構造の見方、特に従属論や積極的平和論といった、南北問題・グローバルサウス問題、開発と格差、人間の安全保障について論じる。

第8回：構築主義と英国学派

近年の比較的新しい理論的選択肢として登場した構築主義(コンストラクティビズム)学派と英国学派について、思想的・歴史的な背景、学説の変遷を説明する。構築主義については、具体的な国家アイデンティティの変容、国際規範の変容の事例を用いて検討を行う。

第9回：外交政策決定過程

○外交政策の決定過程に関する古典理論を紹介し、幾つかの事例を紹介する。

第10回：安全保障の基礎概念

○安全保障に関する学問的な基礎概念を、類型別に整理して説明する。また、地政学的な視点についても取り上げる。

第11回：非伝統的安全保障とグローバルイシュー

○近年の非伝統的安全保障について、とりわけ経済安全保障とテロリズムについて詳説する。

○グローバルイシューが非伝統的安全保障に繋がることや、国際的取り組みや新たな紛争の火種について取り上げる。

第12回：武力紛争と国連・国際法、軍備管理

○国連や国際法による紛争調停やPKOの理想・実情・限界について解説する。

○国際法の規制を受ける兵器の種類と規制制度

第13回：戦争の要因と抑止力

○戦争が起こる要因に関する構造的・理論的な分析視角を紹介する。

○抑止に関する基本理論と具体的機能。

第14回：見えざる脅威

○近年注目を集める、権威主義国家によるシャープパワー・認知戦・影響力工作・グレーゾーン事態の創出について、具体的な事象を取り上げ説明する。

第15回：日本を取り巻く安全保障

○我国の広義の安全保障体制(軍備だけでなく経済安保、文化安保、食糧安保等々)の説明。

○我国の安全に関わる国際紛争の紹介。

テキスト

特に指定しないが、事前にUNIPA上で授業スライドを配布する。

参考書・参考資料等

吉川直人・野口和彦編著『国際関係理論 第2版』、勁草書房、2015年

ISBN : 978-4-326-30244-4

葛谷彩、小川浩之、春名展生編著『国際関係の系譜学』、晃洋書房、2022年

ISBN : 978-4-7710-3648-2

その他講義中に適宜指示する。

学生に対する評価

学期末の筆記試験(100%)に、平常点(授業への参加姿勢や小テストと課題)を加味して評価する。

試験は持込不可とする。

授業科目名：憲法Ⅱ（ 人権）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：大西 健司 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会、高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 ・「法律学(国際法を含む。)、政治学(国際政治を含む。)」		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>憲法が保障する権利に関する諸問題について講義します。学説や判例に関する基本的な知識各種の修得とともに、各種の権利が具体的な事例の中で持つ意味を自分なりに考えることができることを目指します。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>近代憲法の思想的淵源である近代立憲主義を踏まえつつ、憲法が保障する権利についての講義を行い、憲法の意義や役割、憲法によって保障された権利の射程や内容、限界について検討します。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：近代立憲主義と人権：近代立憲主義とは何か、憲法はなぜ人権を保障するのか等、人権論の基本問題を検討する。</p> <p>第2回：人権の観念とその分類：人権とは誰に何を求める権利なのか、人権はその性質によりどのように分類されうるのかを検討する。</p> <p>第3回：公共の福祉と人権：人権保障に限界はあるのか、人権の制約はどのような理由で正当化されるのか等、人権の限界を検討する。</p> <p>第4回：憲法上の権利の主体：人権を享有する「国民」とは誰か、その「国民」にはどのような存在が含まれるのかを検討する。</p> <p>第5回：憲法上の権利の射程：憲法上の権利は私人と私人との間でも保障されるのか、その保障の仕方は国家に対する場合とどのように異なるのかを検討する。</p> <p>第6回：包括的基本権：憲法13条により保障されるさまざまな権利の意義と射程を検討する。</p> <p>第7回：法の下での平等：平等とは何か、憲法が禁止する差別とは何かを確認しつつ、平等に関するさまざまな判例を検討する。</p> <p>第8回：思想・良心の自由：憲法が思想・良心の自由を保障する理由は何か、どのような方法でこれらの自由が制約されるのかを検討する。</p> <p>第9回：信教の自由と政教分離：憲法が信教の自由を保障する背景にはどのような歴史があるのか、信教の自由と政教分離の違いは何かを検討する。</p> <p>第10回：表現の自由①：憲法が表現の自由を保障する根拠は何か、表現の自由が憲法上の権利の中で「優越的な地位」を持つといわれる理由は何かを検討する。</p> <p>第11回：表現の自由②：表現の自由はどこまで及び、どこから制約されうるのか。判例を通じて</p>			

表現の自由の保障の限界を考察する。

第12回：経済的自由と財産権：経済的自由とはどのような権利なのか、憲法による財産権の保障は何を意味するのかを検討する。

第13回：社会権：生存権を中心に、社会権の保障の現状とその課題を検討する。

第14回：適正手続の保障：刑事手続の仕組みを概観しつつ、被疑者・被告人の権利保障の必要性と課題について検討する。

第15回：総括：これまでの授業内容を総括する。

定期試験

テキスト

授業は毎回配布するレジュメとスライドに基づいて行うため、指定教科書はありません。ただし、六法書（小型のものでかまいません）を必ず持参してください。

参考書・参考資料等

特になし。

学生に対する評価

平常点（20%）に加えて、最終回の試験（80%）で評価します。

ただし、6回以上欠席した学生および最終回の試験を受験しなかった学生はE評価（=評価不能）とします。

授業科目名：憲法Ⅱ（ 人権）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：大西 健司 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会、高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 ・「法律学(国際法を含む。)、政治学(国際政治を含む。)」		
授業のテーマ及び到達目標 憲法が保障する権利に関する諸問題について講義します。学説や判例に関する基本的な知識各種の修得とともに、各種の権利が具体的な事例の中で持つ意味を自分なりに考えることができることを目指します。			
授業の概要 近代憲法の思想的淵源である近代立憲主義を踏まえつつ、憲法が保障する権利についての講義を行い、憲法の意義や役割、憲法によって保障された権利の射程や内容、限界について検討します。 経済経営学科では、特に営業の自由や財産権の保障をめぐり、特済的視点も交えながら講義を行います。			
授業計画 第1回：近代立憲主義と人権：近代立憲主義とは何か、憲法はなぜ人権を保障するのか等、人権論の基本問題を検討する。 第2回：人権の観念とその分類：人権とは誰に何を求める権利なのか、人権はその性質によりどのように分類されるのかを検討する。 第3回：公共の福祉と人権：人権保障に限界はあるのか、人権の制約はどのような理由で正当化されるのか等、人権の限界を検討する。 第4回：憲法上の権利の主体：人権を享有する「国民」とは誰か、その「国民」にはどのような存在が含まれるのかを検討する。 第5回：憲法上の権利の射程：憲法上の権利は私人と私人との間でも保障されるのか、その保障の仕方は国家に対する場合とどのように異なるのかを検討する。 第6回：包括的基本権：憲法13条により保障されるさまざまな権利の意義と射程を検討する。 第7回：法の下での平等：平等とは何か、憲法が禁止する差別とは何かを確認しつつ、平等に関するさまざまな判例を検討する。 第8回：思想・良心の自由：憲法が思想・良心の自由を保障する理由は何か、どのような方法でこれらの自由が制約されるのかを検討する。 第9回：信教の自由と政教分離：憲法が信教の自由を保障する背景にはどのような歴史があるのか、信教の自由と政教分離の違いは何かを検討する。			

第10回：表現の自由①：憲法が表現の自由を保障する根拠は何か、表現の自由が憲法上の権利の中で「優越的な地位」を持つといわれる理由は何かを検討する。

第11回：表現の自由②：表現の自由はどこまで及び、どこから制約されるのか。判例を通じて表現の自由の保障の限界を考察する。

第12回：経済的自由と財産権：経済的自由とはどのような権利なのか、憲法による財産権の保障は何を意味するのかを検討する。

第13回：社会権：生存権を中心に、社会権の保障の現状とその課題を検討する。

第14回：適正手続の保障：刑事手続の仕組みを概観しつつ、被疑者・被告人の権利保障の必要性和課題について検討する。

第15回：総括：これまでの授業内容を総括する。

定期試験

テキスト

授業は毎回配布するレジュメとスライドに基づいて行うため、指定教科書はありません。ただし、六法書（小型のものでかまいません）を必ず持参してください。

参考書・参考資料等

特になし。

学生に対する評価

平常点（20%）に加えて、最終回の試験（80%）で評価します。

ただし、6回以上欠席した学生および最終回の試験を受験しなかった学生はE評価（＝評価不能）とします。

授業科目名：国際法 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：川村 真理 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会、高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 ・「法律学(国際法を含む。)、政治学(国際政治を含む。)」		
授業のテーマ及び到達目標 国際関係を規律する法である国際法の基礎知識を習得し、国際法の構造および機能を理解することを目標とする。			
授業の概要 本講義では、国際法の機能、国際社会の主たる構成員である領域主権国家の成立、国家機関、国家の権利・義務・責任など国際法秩序全般に関連する基礎的な知識を習得し、国際法構造を包括的に理解することをめざす。また、最新の事例をとりあげて、現代社会が直面する重要課題について、国際法に基づき自ら考え、その課題を明らかにする能力を養う。			
授業計画 第1回：イントロダクション：国際法とは何か。国際法の歴史的展開と特徴：古代・中世の社会に妥当する国際法、17世紀の近代国際法のはじまり、現代国際社会までの国際法の発展。 第2回：国際法の成立形式：法源、慣習国際法、条約、法の一般原則、補助手段(学説等)、国連総会決議や様々な法的拘束力のない規範、ソフトロー。 第3回：条約：条約の締結手続、二国間条約と多数国間条約および正式の条約と簡易条約の違い、条約の留保・効力・解釈。 第4回：国際法と国内法の関係：国際法秩序と国内法秩序の関係に関する学説、国際法の国内適用、国際法と国内法の相互作用。 第5回：国家の成立：国家の成立と要件、自決権(内的自決・外的自決、国家承認(宣言的效果説・創設的效果説)、政府承認。 第6回：国家の変動と国家承継：領域主権の法的性質、領域権原、国家承継(包括承継・クリーンスレート)、条約についての国家承継、財産についての国家承継。 第7回：国家機関：国家免除、外交関係・領事関係、軍艦・軍用航空機・軍隊の地位、国家元首・首相・外務大臣の特権免除。 第8回：国家の基本的権利義務：「国家主権」の具体的内容、平等権、自衛権、内政不干渉の義務、国家管轄権の諸類型と国家管轄権行使。 第9回：国家責任：国家責任の成立、帰属関係、行為の違法性、国家責任の解除(損害賠償の形態) ・国際請求の許容要件・外交的保護。 第10回：国家領域および国際領域：国家領域の範囲、国境画定、国際河川・国際運河等の国際管理			

、南極の領域制度、南極条約体制。

第11回：海洋法：海洋法の歴史的展開と全体像、領海・接続水域・内水・国際海峡の定義と範囲および船舶航行に関する制度。

第12回：海洋法—資源管理制度を中心に—：排他的経済水域・大陸棚・公海・深海底の定義と範囲および船舶航行の制度、資源管理制度、海洋法に関わる紛争解決制度。

第13回：境界画定：日本の島の領有・境界画定問題（竹島・尖閣諸島・北方領土）、世界の島の領有・境界画定に関する紛争解決。

第14回：領空：領空主権、防空識別圏、国際民間航空輸送サービスに関わる制度、航空犯罪。

第15回：宇宙空間：宇宙条約・宇宙救助返還協定・宇宙損害責任条約・宇宙物体登録条約・月協定・月の天然資源開発・宇宙基地・宇宙利用の展開と課題（デブリ・軍事利用禁止等）

定期試験

テキスト

中谷和弘・植木俊哉・河野真理子・森田章夫・山元良『国際法』第5版（有斐閣 2024年）。

参考書・参考資料等

加藤信行・植木俊哉・森川幸一・真山全・酒井啓亘・立松美也子編著 『ビジュアルテキスト 国際法』第3版（有斐閣 2022年）。

植木俊哉・中谷和弘編集代表 『国際条約集』2024年版（有斐閣 2024年）。

森川幸一・兼原敦子・酒井啓亘・西村弓編 『国際法判例百選』第3版（有斐閣 2021年）。

学生に対する評価

平常点30%、授業内試験70%により総合的に評価する。

授業科目名：国際法Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：川村 真理 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会、高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 ・「法律学(国際法を含む。)、政治学(国際政治を含む。)」		
授業のテーマ及び到達目標 国際関係を規律する法である国際法の基礎知識を習得し、国際法の構造および機能を理解することを目標とする。			
授業の概要 本講義では、人権、平和といったグローバルイシューに関連する法規範を理解する。また、国際紛争の平和的解決について理解を深める。講義において、最新の事例をとりあげて、現代社会が直面する重要課題について、国際法に基づき自ら考え、その課題を明らかにする能力を養う。			
授業計画 第1回：イントロダクション：グローバル化による重大な人権侵害、武力紛争、テロといったマイナスの要因の拡散に対する国際法と国際制度の進展と課題。 第2回：国際法における個人の地位（1）国籍：国籍の定義と意義、国籍付与の方式（出生時国籍付与、帰化）、国籍の抵触に関する調整。 第3回：国際法における個人の地位（2）外国人・出入国管理：出入国管理、外国人の権利・義務、領域国の外国人の保護義務。 第4回：人権の国際的保障の展開：人権の国際的保障の歴史的展開、国連体制下における人権の国際的保障の展開、国際人権条約の特徴。 第5回：人権の国際的実施措置：人権条約上の履行確保の制度、国家報告制度、国家通報制度、個人通報制度、その他の制度。 第6回：難民の保護：難民問題と国際社会、難民条約および議定書、国連難民高等弁務官事務所の取り組み。 第7回：日本の出入国管理及び難民認定法（入管法）と国際法：日本の出入国管理・難民認定制度、再定住等の難民保護、外国人の在留制度、入管法と国際法の関係性。 第8回：戦争の違法化・自衛権：国連憲章51条の自衛権の定義と解釈、個別的自衛権と集団的自衛権、自衛権行使と現代社会における課題。 第9回：集団安全保障：戦争と戦争の規制の歴史、武力行使の許容範囲、国連の集団安全保障体制における軍事的措置および非軍事的措置。 第10回：平和維持活動（PKO）：PKO活動とはなにか、PKOの国連憲章上の根拠、PKOの			

歴史的変遷と特徴、PKOと日本。

第11回：人道法：武力紛争と国際法の全体像、交戦法規、紛争の犠牲者保護、害敵手段の規制（国際法上禁止される兵器等）。

第12回：国際刑事法・国際刑事裁判所：犯罪の国際化、犯罪人引渡、個人の国際犯罪とその処罰、国際刑事裁判所。

第13回：紛争の平和的解決（1）交渉・周旋・仲介・審査・調停・仲裁裁判：紛争の平和的解決義務、非裁判手続、仲裁裁判。

第14回：紛争の平和的解決（2）国際司法裁判所：国際司法裁判所設立までの歴史的展開、国際司法裁判所の構成、管轄権、裁判手続、判決、勧告的意見。

第15回：国際刑事裁判所、国際司法裁判所等の判例にみる現代国際社会の課題と国際法。

定期試験

テキスト

中谷和弘・植木俊哉・河野真理子・森田章夫・山本良『国際法』第5版（有斐閣 2024年）。

参考書・参考資料等

加藤信行・植木俊哉・森川幸一・真山全・酒井啓亘・立松美也子編著 『ビジュアルテキスト 国際法』第3版（有斐閣 2022年）。

植木俊哉・中谷和弘編集代表 『国際条約集』2024年版（有斐閣 2024年）。

森川幸一・兼原敦子・酒井啓亘・西村弓編 『国際法判例百選』第3版（有斐閣 2021年）。

学生に対する評価

平常点30%、授業内試験70%により総合的に評価する。

授業科目名：アメリカ 政治外交論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：島村 直幸 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会、高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 ・「法律学(国際法を含む。)、政治学(国際政治を含む。)」		
授業のテーマ及び到達目標 アメリカ政治外交と国際関係の歴史と現実について、関心と理解を深めることを講義の到達目標とする。またアメリカ政治外交と国際関係について、自分の頭で考え、自分自身の意見を持ち、議論できるレベルまで学生の意識を高めることがもう一つの到達目標である。			
授業の概要 21世紀はじめの国際秩序は、中国の台頭やロシア・ウクライナ戦争の勃発を受け、アメリカ中心の単極構造が相対化されていくと予測されている。近代以降の主権国家システムの変容を予測する議論までである。アメリカ政治外交の現状をいかに分析し、将来をいかに展望できるのか。 講義では、まずアメリカ外交の伝統を取り上げ、次いで第二次世界大戦後の冷戦期のアメリカ外交史を考察する。イギリスの歴史家E. H. カーが指摘したように、複雑な現在の問題をより深く理解するためには、過去の歴史を学び、過去と現在とを”対話”させる必要がある。アメリカ外交の歴史を学ぶ場合も、例外ではない。 また大統領とアメリカ議会、二大政党制など、アメリカ政治の仕組みについて議論したい。アメリカ政治は、アメリカ合衆国憲法によって、「権力の分立」と「抑制と均衡」の原則が厳格に適応されている。民主主義国家のアメリカ外交は、内政の動きと切り離して議論することができない。なぜなら、大統領とアメリカ議会の間では、内政だけでなく、外交でも「抑制と均衡」が機能することが期待されているからである。			
授業計画 第1回：はじめに：アメリカ政治外交の基礎知識について学ぶ。 第2回：2022年中間選挙とアメリカ政治の分断：現代アメリカ政治の分断について学ぶ。 第3回：「トランプ化」する共和党と郊外で躍進するリベラル+「テロとの戦い」とアメリカ政治外交：21世紀のアメリカの政治外交について学ぶ。 第4回：アメリカ外交の伝統：建国から20世紀までのアメリカ外交を概観する。 第5回：米ソ冷戦の開始とアメリカ外交：第二次世界大戦直後の国際秩序の変化とアメリカ外交について学ぶ。 第6回：米ソ冷戦の激化とアメリカ外交：朝鮮戦争の勃発までの米ソ冷戦とアメリカ外交について学ぶ。			

- 第7回：アイゼンハワー＝ダレスの冷戦戦略：1950年代前半のアメリカ外交について学ぶ。
- 第8回：米ソ冷戦の常態化とアメリカ外交：50年代後半のアメリカ外交について学ぶ。
- 第9回：ケネディ政権の冷戦戦略：1960年代前半のアメリカ外交について学ぶ。
- 第10回：ヴェトナム戦争とアメリカ外交：1960年代後半までのアメリカ外交について学ぶ。
- 第11回：デタントと成立と崩壊：1970年代前半のアメリカ外交について学ぶ。
- 第12回：冷戦の終結とその後：冷戦の終結のプロセスと冷戦後の主要な議論について学ぶ。
- 第13回：アメリカ合衆国憲法とアメリカの政治制度：アメリカ政治のしくみについて学ぶ。
- 第14回：大統領とアメリカ議会：大統領の権限やアメリカ議会の二院制について学ぶ。
- 第15回：現代アメリカの政党の変容：イデオロギーの分極化などについて学ぶ。定期試験

テキスト

島村直幸『＜抑制と均衡＞のアメリカ政治外交—歴史・構造・プロセス』ミネルヴァ書房、2018年

参考書・参考資料等

- 島村直幸『国際政治の＜変化＞を見る眼—理論・歴史・現状』晃洋書房、2019年
- 島村直幸『＜逆＞から読み解く国際問題—トランプから中国問題、第四次産業革命まで』一藝社、2025年
- 増田正、丹波文生、半田英俊、島村直幸、吉田龍太郎、加藤秀治郎『政治学入門』一藝社、2020年
- 石井修『国際政治史としての二〇世紀』有信堂、2000年
- 君塚直隆、細谷雄一、永野隆行編『イギリスとアメリカ—世界秩序を築いた四百年』勁草書房、2016年
- 佐々木卓也『冷戦』有斐閣、2011年
- 佐々木卓也編『戦後アメリカ外交史[新版]』有斐閣、2009年
- 佐々木卓也編著『ハンドブック アメリカ外交』ミネルヴァ書房、2011年
- 有賀貞・宮里政玄編『概説アメリカ外交史 [新版]』有斐閣、1998年
- 石井修・滝田賢治編『現代アメリカ外交キーワード』有斐閣、2003年
- 村田晃嗣『現代アメリカ外交の変容』有斐閣、2009年
- 久保文明・砂田一郎・松岡泰・森脇俊雅『アメリカ政治』有斐閣、2006年
- 久保文明編『アメリカの政治』弘文堂、2005年
- 砂田一郎『オバマは何を変えるか』岩波新書、2009年
- 村田晃嗣『レーガン』中公新書、2011年
- 久保文明・中山俊宏・渡辺将人『オバマ・アメリカ・世界』NTT出版、2012年
- 杉田米行編『アメリカを知るための18章』大学教育出版、2013年
- 読売新聞国際部『トランプ劇場』中央公論新社、2016年

学生に対する評価

定期試験（70点）と中間レポート（30点）を加算し、総合評価で算出する。中間レポートは、第2章と終章を読み、A4で2枚に要約する。締め切りは5月末まで。

授業科目名：アメリカ 政治外交論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：島村 直幸 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会、高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 ・「法律学(国際法を含む。)、政治学(国際政治を含む。)」		
授業のテーマ及び到達目標 アメリカ政治外交と国際関係の歴史と現実について、関心と理解を深めることを講義の到達目標とする。またアメリカ政治外交と国際関係について、自分の頭で考え、自分自身の意見を持ち、議論できるレベルまで学生の意識を高めることがもう一つの到達目標である。			
授業の概要 講義では、国際関係と外交について、主要なテーマを「経済・経営」の観点から一つずつ取り上げ、特に国際経済の構造や企業戦略が外交政策に与える影響を考察し、歴史と現実に対する理解を深める。 外交とは、近代以降の主権国家の間で展開されてきた対外政策の術であり、世界政府が存在しない「無政府状態（アナーキー）」の国際社会では、第一義的には「国家の生存」のために「秩序の安定」を目的としてきた。しかし、現代の外交では、経済や開発、人権、環境といった問題領域や争点の重要性が、たしかに相対的により高まってきた。なぜなら、二度の世界大戦を経験し、核兵器が出現した現代の国際社会では、少なくとも大国間での戦争が勃発する蓋然性が著しく低下し、過去と比較すれば、安全保障や軍事力の重要性が相対的により低下してきたからである。 また同時に、国際的に相互依存が深化したことにより、戦争はますます起こりにくくなりつつある。国際社会で民主化や制度化がさらに進展していけば、戦争がやはり起こりにくくなる（はずである）という指摘もある。さらに、国際連合（国連）などの国際機関、多国籍企業、NGOや市民社会など、主権国家以外の行為主体（アクター）の重要性も、現代の外交ではたしかに無視できない。 しかし、国際システムが基本的に主権国家からまず構成され、システム原理が「無政府状態」であるという現実が根本から変化したわけではない。たとえば、国連はあくまでも主権国家の集まりであり、主権国家よりもより上位の権威、すなわち世界政府ではない。また、ヨーロッパ統合は、たしかに主権国家を乗り越える歴史的な実験を積み重ねてきたが、深刻な財政危機に直面し、今まさに歴史的な岐路に立たされている。			
授業計画 第1回：はじめに：アメリカ政治外交の基礎知識について学ぶ。 第2回：2022年中間選挙とアメリカ政治の分断：現代アメリカ政治の分断について学ぶ。			

第3回：「トランプ化」する共和党と郊外で躍進するリベラル+「テロとの戦い」とアメリカ政治外交：21世紀のアメリカの政治外交について学ぶ。

第4回：アメリカ外交の伝統：建国から20世紀までのアメリカ外交を概観する。

第5回：米ソ冷戦の開始とアメリカ外交：第二次世界大戦直後の国際秩序の変化とアメリカ外交について学ぶ。

第6回：米ソ冷戦の激化とアメリカ外交：朝鮮戦争の勃発までの米ソ冷戦とアメリカ外交について学ぶ。

第7回：アイゼンハワー＝ダレスの冷戦戦略：1950年代前半のアメリカ外交について学ぶ。

第8回：米ソ冷戦の常態化とアメリカ外交：50年代後半のアメリカ外交について学ぶ。

第9回：ケネディ政権の冷戦戦略：1960年代前半のアメリカ外交について学ぶ。

第10回：ヴェトナム戦争とアメリカ外交：1960年代後半までのアメリカ外交について学ぶ。

第11回：デタントと成立と崩壊：1970年代前半のアメリカ外交について学ぶ。

第12回：冷戦の終結とその後：冷戦の終結のプロセスと冷戦後の主要な議論について学ぶ。

第13回：アメリカ合衆国憲法とアメリカの政治制度：アメリカ政治のしくみについて学ぶ。

第14回：大統領とアメリカ議会：大統領の権限やアメリカ議会の二院制について学ぶ。

第15回：現代アメリカの政党の変容：イデオロギーの分極化などについて学ぶ。定期試験

テキスト

島村直幸『＜抑制と均衡＞のアメリカ政治外交—歴史・構造・プロセス』ミネルヴァ書房、2018年

参考書・参考資料等

島村直幸『国際政治の＜変化＞を見る眼—理論・歴史・現状』晃洋書房、2019年

島村直幸『＜逆＞から読み解く国際問題—トランプから中国問題、第四次産業革命まで』一藝社、2025年

増田正、丹波文生、半田英俊、島村直幸、吉田龍太郎、加藤秀治郎『政治学入門』一藝社、2020年

石井修『国際政治史としての二〇世紀』有信堂、2000年

君塚直隆、細谷雄一、永野隆行編『イギリスとアメリカ—世界秩序を築いた四百年』勁草書房、2016年

佐々木卓也『冷戦』有斐閣、2011年

佐々木卓也編『戦後アメリカ外交史[新版]』有斐閣、2009年

佐々木卓也編著『ハンドブック アメリカ外交』ミネルヴァ書房、2011年

有賀貞・宮里政玄編『概説アメリカ外交史[新版]』有斐閣、1998年

石井修・滝田賢治編『現代アメリカ外交キーワード』有斐閣、2003年

村田晃嗣『現代アメリカ外交の変容』有斐閣、2009年

久保文明・砂田一郎・松岡泰・森脇俊雅『アメリカ政治』有斐閣、2006年

久保文明編『アメリカの政治』弘文堂、2005年

砂田一郎『オバマは何を変えるか』岩波新書、2009年

村田晃嗣『レーガン』中公新書、2011年

久保文明・中山俊宏・渡辺将人『オバマ・アメリカ・世界』NTT出版、2012年

杉田米行編『アメリカを知るための18章』大学教育出版、2013年

読売新聞国際部『トランプ劇場』中央公論新社、2016年

学生に対する評価

定期試験（70点）と中間レポート（30点）を加算し、総合評価で算出する。中間レポートは、第2章と終章を読み、A4で2枚に要約する。締め切りは5月末まで。

授業科目名：社会保障論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：松井 孝太 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会、高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 ・「法律学(国際法を含む。)、政治学(国際政治を含む。)」		
授業のテーマ及び到達目標 本講義では、社会保障制度の仕組みを基礎から学ぶことで、日本が直面する社会保障上の課題を理解するとともに、分野横断的な視点から自ら分析する力を身に付けることを目標とする。			
授業の概要 本講義では、社会保障の基礎と日本の社会保障制度の仕組みを国際比較の観点を交えて学ぶ。			
授業計画 第1回：イントロダクション：社会保障の主な給付の仕組みと内容の類型について学ぶ。 第2回：年金（1）：日本の公的年金制度の概要について学ぶ。 第3回：年金（2）：年金制度をめぐる政策論争や最近の時事問題について学ぶ。 第4回：医療（1）：日本の公的医療保険制度の概要について学ぶ。 第5回：医療（2）：日本の医療提供体制の特徴や課題について各国比較を通して学ぶ。 第6回：介護：日本の介護保険制度の概要や地域包括ケアシステムについて学ぶ。 第7回：中間まとめ：第1回から第6回までの内容を振り返り要点を確認する。 第8回：雇用保険：雇用保険制度の概要や雇用に関する最近の時事問題について学ぶ。 第9回：労災保険：労災保険制度の概要や労働災害に関する最近の時事問題について学ぶ。 第10回：社会福祉：社会福祉の概要と課題について、子育て支援等の時事問題を交えて学ぶ。 第11回：生活保護：公的扶助の意義と日本の生活保護制度の概要について学ぶ。 第12回：社会保障と財政：少子高齢化が日本の社会保障財政に与える影響について学ぶ。 第13回：社会保障の歴史：世界と日本の社会保障の歴史的な発展経緯について学び、 第14回：社会保障の国際比較：日本の社会保障の特徴について各国比較を交えて学ぶ。 第15回：全体のまとめ：第8回から第14回までの内容を振り返り要点を確認する。			
定期試験			
テキスト 椋野美智子・田中耕太郎著『はじめての社会保障 福祉を学ぶ人へ（第22版）』2025年、有斐閣 ISBN 978-4-641-22249-6			
参考書・参考資料等 特になし			
学生に対する評価 定期試験100%			

授業科目名：社会保障論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：松井 孝太 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会、高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 ・「法律学(国際法を含む。)、政治学(国際政治を含む。)」		
授業のテーマ及び到達目標 本講義では、社会保障制度の仕組みを基礎から学ぶことで、日本が直面する社会保障上の課題を理解するとともに、分野横断的な視点から自ら分析する力を身に付けることを目標とする。			
授業の概要 本講義では、社会保障の基礎と日本の社会保障制度の仕組みについて、主に経済的・経営的な視点から学ぶ。			
授業計画 第1回：イントロダクション：社会保障の主な給付の仕組みと内容の種類について学ぶ。 第2回：年金（1）：日本の公的年金制度の概要について学ぶ。 第3回：年金（2）：年金制度をめぐる政策論争や最近の時事問題について学ぶ。 第4回：医療（1）：日本の公的医療保険制度の概要について学ぶ。 第5回：医療（2）：日本の医療提供体制の特徴や課題について各国比較を通して学ぶ。 第6回：介護：日本の介護保険制度の概要や地域包括ケアシステムについて学ぶ。 第7回：中間まとめ：第1回から第6回までの内容を振り返り要点を確認する。 第8回：雇用保険：雇用保険制度の概要や雇用に関する最近の時事問題について学ぶ。 第9回：労災保険：労災保険制度の概要や労働災害に関する最近の時事問題について学ぶ。 第10回：社会福祉：社会福祉の概要と課題について、子育て支援等の時事問題を交えて学ぶ。 第11回：生活保護：公的扶助の意義と日本の生活保護制度の概要について学ぶ。 第12回：社会保障と財政：少子高齢化が日本の社会保障財政に与える影響について学ぶ。 第13回：社会保障の歴史：世界と日本の社会保障の歴史的な発展経緯について学び、 第14回：社会保障の国際比較：日本の社会保障の特徴について各国比較を交えて学ぶ。 第15回：全体のまとめ：第8回から第14回までの内容を振り返り要点を確認する。			
定期試験			
テキスト 椋野美智子・田中耕太郎著『はじめての社会保障 福祉を学ぶ人へ（第22版）』2025年、有斐閣 ISBN 978-4-641-22249-6			
参考書・参考資料等 特になし			

学生に対する評価 定期試験100%

授業科目名：ベーシック経済	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：三浦 秀之 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会、高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学(国際経済を含む。)」		
授業のテーマ及び到達目標 経済に関する基礎的な知識を身につけるとともに、直近の経済的ニュースを通して、日本経済をめぐる問題について理解を深める。			
授業の概要 経済学の入門講義です。グローバル化の進展により、日本や世界各国における経済事情は移り変わりが激しくなっている。日本においても多くの経済的課題に直面している。法律政治学科の学生がこれら複雑に入り組んだ経済的事象を理解するためには、経済学的な考え方を学ぶとともに、経済政策における課題を包括的に捉えることが重要である。本講義では、日本経済が抱える様々な諸問題を取り上げ、「なぜそうした課題があるのか、どのような問題があるのか、政策的にそれら課題をどのように解決しようとしているのか」などを多面的に見る。また、経済政策の背景にある法律や政治的な要因についても考察する。授業では特に直近の経済的ニュースについて取り上げる。			
授業計画 第1回：イントロダクション：経済学とは何か、経済学の存在意義などについて学ぶ 第2回：市場の機能：市場メカニズムをつうじて効率的な資源配分をいかにして実現しているかについて学ぶ 第3回：市場メカニズムの限界：市場の機能がうまく働かないときがいかなる場合なのかについて学ぶ 第4回：GDPとは何か：その国の経済力をいかにして測るのか、ある一国で生産された財・サービスの総額である国内総生産の定義などについて学ぶ 第5回：景気循環と経済成長：経済活動が良くなる時もあれば悪くなる時もあり、そのメカニズムについて学ぶ 第6回：財政：国・地方公共団体の経済活動である財政をみながら税金と政府の役割を学ぶ 第7回：おカネの流れ：市場経済における金融の役割を学ぶことによって、世の中のおカネの流れについて理解する 第8回：振り返りとまとめ			
テキスト			

古沢泰治・塩路悦朗（2018）『ベーシック経済学』有斐閣。

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

試験50%、平常点30%、コメントペーパー20%によって総合的に評価します。

授業科目名：ベーシック経済	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：1単位	担当教員名：三浦 秀之 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会、高等学校 公民)		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学(国際経済を含む。)」		
授業のテーマ及び到達目標 経済に関する基礎的な知識を身につけるとともに、直近の経済的ニュースを通して、日本経済をめぐる問題について理解を深める。			
授業の概要 経済学の入門講義です。グローバル化の進展により、日本や世界各国における経済事情は移り変わりが激しくなっている。日本においても多くの経済的課題に直面している。これら複雑に入り組んだ経済的事象を理解するためには、経済学的な考え方を学ぶとともに、経済政策における課題を包括的に捉えることが重要である。本講義では、日本経済が抱える様々な諸問題を取り上げ、「なぜそうした課題があるのか、どのような問題があるのか、政策的にそれら課題をどのように解決しようとしているのか」などを多面的に見る。授業では特に直近の経済的ニュースについて取り上げる。			
授業計画 第1回：イントロダクション：経済学とは何か、経済学の存在意義などについて学ぶ 第2回：市場の機能：市場メカニズムをつうじて効率的な資源配分をいかにして実現しているかについて学ぶ 第3回：市場メカニズムの限界：市場の機能がうまく働かないときがいかなる場合なのかについて学ぶ 第4回：GDPとは何か：その国の経済力をいかにして測るのか、ある一国で生産された財・サービスの総額である国内総生産の定義などについて学ぶ 第5回：景気循環と経済成長：経済活動が良くなる時もあれば悪くなる時もあり、そのメカニズムについて学ぶ 第6回：財政：国・地方公共団体の経済活動である財政をみながら税金と政府の役割を学ぶ 第7回：おカネの流れ：市場経済における金融の役割を学ぶことによって、世の中のおカネの流れについて理解する 第8回：振り返りとまとめ			
テキスト 古沢泰治・塩路悦朗（2018）『ベーシック経済学』有斐閣。			

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

試験50%、平常点30%、コメントペーパー20%によって総合的に評価します。

授業科目名：ベーシック経営	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：糟谷 崇 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会、高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学(国際経済を含む。)」		
授業のテーマ及び到達目標 この講義は、企業経営の基本を学ぶ科目である。① 新聞記事、ビジネス雑誌・ビジネス関連書籍で頻出している経営学やビジネスの専門用語を理解できるようになること。② 日本の経済・経営のトピックスおよびビジネスの最新事例について理解できるようなる。③ 経営学の理論を学習するために必要となる基礎的知識を習得すること。			
授業の概要 本講義は、現代社会における企業の役割・目的・責任について法的小よび政治的観点から基礎的知識を身につけることを目的としています。あわせて、企業を取り巻く法制度や政策、さらに経済・社会との関わりを総合的に理解し、ビジネス活動が社会に与える影響や企業活動の規制・ガバナンス等について基本的な枠組みを学びます。これにより、企業を巡る現代的課題に対して法学・政治学的視点から分析できる素養を養うことを目指します。			
授業計画 第1回 企業のしくみ①：会社って誰の物 会社の所有権について考える。 第2回 企業のしくみ②：経営者とはどんな人 経営者の資質について考える。 第3回 生産のしくみ：モノづくり 生産システムについて考える。 第4回 流通・販売のしくみ：流通について サプライチェーンについて考える。 第5回 組織のしくみ：やる気を引き出す モチベーションについて考える。 第6回 労働のしくみ：給与ってどう決まる？ 給与体系について考える。 第7回 これからの企業経営について①：新しい企業経営 新しいビジネスについて考える。 第8回 これからの企業経営について②：新しい企業経営 現代の経営課題について考える。			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 『世界標準の経営理論』 入山章栄 ダイアモンド社 ISBN-13 : 978-4478109571			
学生に対する評価 レポート課題 (24%) x4回+講義ノートの提出 (4%) 計100%			

授業科目名：ベーシック経営	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：糟谷 崇 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会、高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学(国際経済を含む。)」		
授業のテーマ及び到達目標 この講義は、企業経営の基本を学ぶ科目である。① 新聞記事、ビジネス雑誌・ビジネス関連書籍で頻出している経営学やビジネスの専門用語を理解できるようになること。② 日本の経済・経営のトピックスおよびビジネスの最新事例について理解できるようなる。③ 経営学の理論を学習するために必要となる基礎的知識を習得すること。			
授業の概要 企業の役割・目的・責任といった企業に関する基礎的知識およびビジネスの全体像を把握するために必要不可欠となる企業を取り巻く環境についての基本的な理解を得ることを目的とした講義である。			
授業計画 第1回 企業のしくみ①：会社って誰の物 会社の所有権について考える。 第2回 企業のしくみ②：経営者とはどんな人 経営者の資質について考える。 第3回 生産のしくみ：モノづくり 生産システムについて考える。 第4回 流通・販売のしくみ：流通について サプライチェーンについて考える。 第5回 組織のしくみ：やる気を引き出す モチベーションについて考える。 第6回 労働のしくみ：給与ってどう決まる？ 給与体系について考える。 第7回 これからの企業経営について①：新しい企業経営 新しいビジネスについて考える。 第8回 これからの企業経営について②：新しい企業経営 現代の経営課題について考える。			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 『世界標準の経営理論』 入山章栄 ダイヤモンド社 ISBN-13 : 978-4478109571			
学生に対する評価 レポート課題 (24%) x4回+講義ノートの提出 (4%) 計100%			

授業科目名：ベーシック会計	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：高田 京子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会、高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学(国際経済を含む。)」		
授業のテーマ及び到達目標 会計分野にかかわる基本的な用語を学び、社会における会計の役割と必要性を理解する。			
授業の概要 企業が経済活動を行うためには、利害関係者に対して自らの活動を報告する必要がある。本講義では、企業の報告システムである会計について、社会とのかかわりを意識しつつ学ぶ。			
授業計画 第1回：財務諸表の役割と種類、貸借対照表と損益計算書の構造、および、構成要素 第2回：会計上の現金の性格、通貨、小切手、預金の種類 第3回：掛取引、手形および電子記録債権債務のしくみ 第4回：棚卸資産の定義と分類、費用化の基本的な考え方、取得原価 第5回：固定資産の定義と分類、減価償却、有価証券の定義と分類および評価 第6回：負債の定義と分類、貸借対照表における評価、資本と純資産の概念と分類、構成要素 第7回：収益と費用の定義、財産法および損益法による損益計算の概念 第8回：第1回～第7回の振り返りとまとめ、定期試験			
テキスト 特に指定しない。レジュメを配布する。			
参考書・参考資料等 佐藤 信彦他編著『スタンダードテキスト財務会計論Ⅰ（第17版）—基本論点編』2024年、中央経済社、ISBN：978-4-502-50141-8、¥5,500 他			
学生に対する評価 定期試験の成績60%、平常点40%で評価する。			

授業科目名：ベーシック会計	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：高田 京子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会、高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学(国際経済を含む。)」		
授業のテーマ及び到達目標 会計分野にかかわる基本的な用語を学び、社会における会計の役割と必要性を理解する。			
授業の概要 企業が行う経営活動を報告する体系である会計について、社会とのかかわりから学ぶ。			
授業計画 第1回：財務諸表の役割と種類、貸借対照表と損益計算書の構造、および、構成要素 第2回：会計上の現金の性格、通貨、小切手、預金の種類 第3回：掛取引、手形および電子記録債権債務のしくみ 第4回：棚卸資産の定義と分類、費用化の基本的な考え方、取得原価 第5回：固定資産の定義と分類、減価償却、有価証券の定義と分類および評価 第6回：負債の定義と分類、貸借対照表における評価、資本と純資産の概念と分類、構成要素 第7回：収益と費用の定義、財産法および損益法による損益計算の概念 第8回：第1回～第7回の振り返りとまとめ、定期試験			
テキスト 特に指定しない。レジュメを配布する。			
参考書・参考資料等 佐藤 信彦他編著『スタンダードテキスト財務会計論Ⅰ〈第17版〉—基本論点編』2024年、中央経済社、ISBN：978-4-502-50141-8、¥5,500 他			
学生に対する評価 定期試験の成績60%、平常点40%で評価する。			

授業科目名：日本経済論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：小田 信之 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会、高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学(国際経済を含む。)」		
授業のテーマ及び到達目標 日本経済に関する知識を多面的に修得したうえ、経済の構造や政策等を考察する力を養う。			
授業の概要 日本経済の現代史を振り返った後、法律・政治との関連を意識しつつ、経済の現状と課題、経済の制度的側面、経済政策などを学ぶ。			
授業計画 第1回：日本経済の現代史（1） 大戦後の経済復興、高度経済成長期、円高不況期 第2回：日本経済の現代史（2） バブル経済期、長期不況期、構造改革など 第3回：日本経済の現代史（3） リーマン・ショック、失われた20年、アベノミクス、人口減少 第4回：日本の企業活動 産業構造、日本型企业システム、グローバル化とIT化 第5回：日本の労働市場（1） 労働市場の特徴、若年層の就労 第6回：日本の労働市場（2） 非正規雇用の問題、女性の就労、高齢者の就労 第7回：経済成長 成長理論、日本経済の成長のための論点 第8回：構造改革・規制改革（1） 航空産業の事例、電力産業の例 第9回：構造改革・規制改革（2） 住宅市場の事例、農業の例、医療産業の例 第10回：構造改革・規制改革（3） 金融産業（特に、銀行業） 第11回：日本の金融政策 日本銀行の組織と政策運営、非伝統的金融政策 第12回：日本の財政政策 財政政策の基本構造（歳入、歳出等）、租税と公債、政府債務 第13回：日本の社会保障制度（1） 全体像、公的年金制度 第14回：日本の社会保障制度（2） 医療保険制度 第15回：日本における経済格差の現状 欧米との比較分析、経済格差の動きと影響 定期試験			
テキスト なし（必要な資料を授業内で配布）			
参考書・参考資料等 『新 入門・日本経済』（浅子和美・飯塚信夫・篠原総一[編]）、有斐閣、2024年11月刊			
学生に対する評価 定期試験70%、平常点・課題30%の割合を目安として、総合的に判断する。			

授業科目名：日本経済論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：小田 信之 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会、高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学(国際経済を含む。)」		
授業のテーマ及び到達目標 日本経済に関する知識を多面的に修得したうえ、経済の構造や政策等を考察する力を養う。			
授業の概要 日本経済の現代史を振り返った後、経済の現状と課題、経済の制度的側面、経済政策を学ぶ。			
授業計画 第1回：日本経済の現代史（1） 大戦後の経済復興、高度経済成長期、円高不況期 第2回：日本経済の現代史（2） バブル経済期、長期不況期、構造改革など 第3回：日本経済の現代史（3） リーマン・ショック、失われた20年、アベノミクス、人口減少 第4回：日本の企業活動 産業構造、日本型企业システム、グローバル化とIT化 第5回：日本の労働市場（1） 労働市場の特徴、若年層の就労 第6回：日本の労働市場（2） 非正規雇用の問題、女性の就労、高齢者の就労 第7回：経済成長 成長理論、日本経済の成長のための論点 第8回：構造改革・規制改革（1） 航空産業の事例、電力産業の例 第9回：構造改革・規制改革（2） 住宅市場の事例、農業の例、医療産業の例 第10回：構造改革・規制改革（3） 金融産業（特に、銀行業） 第11回：日本の金融政策 日本銀行の組織と政策運営、非伝統的金融政策 第12回：日本の財政政策 財政政策の基本構造（歳入、歳出等）、租税と公債、政府債務 第13回：日本の社会保障制度（1） 全体像、公的年金制度 第14回：日本の社会保障制度（2） 医療保険制度 第15回：日本における経済格差の現状 欧米との比較分析、経済格差の動きと影響 定期試験			
テキスト なし（必要な資料を授業内で配布）			
参考書・参考資料等 『新 入門・日本経済』（浅子和美・飯塚信夫・篠原総一[編]）、有斐閣、2024年11月刊			
学生に対する評価 定期試験70%、平常点・課題30%の割合を目安として、総合的に判断する。			

授業科目名：国際政治 経済学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：三浦 秀之 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会、高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学(国際経済を含む。)」		
授業のテーマ及び到達目標 政治と経済の相互作用に着目し、国際政治経済学の理論的枠組みを用いながら、現代社会の複雑に入り組んだ課題を考察できるようになること。			
授業の概要 国際社会はアナーキーである。つまり、国内社会と異なり、中央政府が存在しないのである。しかしながら、そのことは国際社会に秩序が存在しないことを意味するのではない。国際社会は様々な制度を構築することにより、国境を越える経済的に問題に対処してきたのである。本講義では、国際政治経済学の基礎を体系的に学ぶことを目指す。具体的には、近代以降の国家間の経済関係(特に貿易や投資の自由化)の政治的側面に焦点を当て、概観していく。			
授業計画 第1回：イントロダクション 第2回：国際政治経済の見方:国際政治経済学の理論と歴史について学ぶ 第3回：力の構造と国際経済体制:パワーと国際経済の関連性について学ぶ 第4回：冷戦とブレトンウッズ体制：戦後の国際秩序がいかにして力の構造を背景にしなが国際経済体制を構築したのかについて学ぶ 第5回：安全保障と経済：安全保障と経済がお互いのいかなる相互作用が生じているのかについて学ぶ 第6回：保護貿易をめぐる政治と経済：国家がいかなる理由で貿易を保護しようとするのか政治と経済のつながりをみながら学ぶ 第7回：金融グローバル化の構図：金融がいかにしてグローバル化の影響を受けているのかについて、その光と影について学ぶ 第8回：科学技術と現代国際関係：グローバリゼーションの進展をもとに各国の科学技術がいかにして発展し、イノベーションを促しているのかについて学ぶ 第9回：移民をめぐる政治と経済：グローバル化の進展により国境の障壁が低くなったことによる移民の増加によるともなうメリットとデメリットについて学ぶ 第10回：経済発展と人権、民主化：経済発展にともない途上国における人権と民主化がいかにして発展していくのか学ぶ 第11回：地球環境をめぐる政治経済：地球環境をめぐる課題がいかにしてグローバルレベルで話し			

合われているのかについて学ぶ

第12回：グローバル・レベルの国際秩序の模索：貿易と金融をめぐる課題がいかんしてグローバル・レベルで展開され、制度化されているのかについて学ぶ

第13回：リージョナル・レベルの国際秩序の模索：貿易と金融をめぐる課題がいかんしてリージョナル・レベルで展開され、制度化されているのかについて学ぶ

第14回：ナショナル・レベルからの国際秩序の模索：貿易と金融をめぐる課題がいかんしてナショナル・レベルで展開され、制度化されているのかについて学ぶ

第15回：総括：これまでの講義をもとに、今後の国際政治経済秩序について議論する

定期試験

テキスト

野林健、大芝亮、納家政嗣、山田敦、長尾悟著（2007年）『国際政治経済学・入門 第3版』有斐閣。

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

期末試験50%、レポート50%によって総合的に評価します。

授業科目名：ミクロ経済学	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：斉藤 崇 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会、高等学校 公民)		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学(国際経済を含む。)」		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ ミクロ経済学の基礎：消費者や生産者の行動や市場メカニズムについて学ぶ			
到達目標 (1) 消費者(家計)や生産者(企業)の行動について理解する。 (2) 市場メカニズムについて理解する。 (3) 現実経済について、経済学の視点から理解できるようになる。			
授業の概要			
<p>私たちの身のまわりで起こっている社会現象は、さまざまな視点で捉えることができるが、そうした視点の1つとして経済学の考え方やメカニズムについて学んでおくことはとても重要である。この授業では、経済学分野の基礎でもあるミクロ経済学に関する入門的な内容を取り扱う。ミクロ経済学では、消費者や生産者といった経済主体の行動や、市場メカニズムについての分析などについて学んでいく。</p> <p>経済学の考え方やメカニズムについて学んでいくためには、専門的な用語の意味や、論理的な思考、グラフを用いた視覚的な理解についても必要となる。そのため授業では、論理的・抽象的な内容も多く取り上げられる。こうした考え方や視点は、現実経済のさまざまな状況について理解するうえでのヒントを与えてくれることも多い。</p> <p>経済のしくみは、法律や政治とも深く関わっています。たとえば、市場のルールを決める法律や、政府の経済政策が、人々や企業の行動に大きな影響を与える。こうした視点からも、経済学を学ぶことは、社会のしくみを幅広く理解するうえで大切である。</p> <p>この授業を通じて、経済学の考え方を身に付けるとともに、現実の社会現象や国内外の政策等についての関心も高めていってもらいたいと考えている。</p>			
授業計画			
第1回：イントロダクション：経済学はどのような学問か、ミクロ経済学とマクロ経済学			
第2回：需要曲線と供給曲線(1) 需要と供給その1：需要曲線と供給曲線、需要と供給の一致			
第3回：需要曲線と供給曲線(2) 需要と供給その2：価格変化に対する需要量の変化、需要曲線のシフトと市場均衡の変化			
第4回：需要曲線と供給曲線(3) 需要曲線と消費者の行動その1：需要曲線とは、需要の価格弾力性、			

価格差別

第5回：需要曲線と供給曲線(4) 需要曲線と消費者の行動その2：支払い意思額と需要量、需要曲線のシフト要因

第6回：確認テストおよび需要曲線と供給曲線(5) 供給曲線と生産者の行動その1：供給曲線とは、供給の価格弾力性

第7回：確認テスト返却・解説および需要曲線と供給曲線(6) 供給曲線と生産者の行動その2：生産にかかる費用と供給曲線、供給曲線のシフト、価格転嫁

第8回：市場のはたらき(1) 市場における価格調整メカニズムその1：市場における価格決定、超過需要、超過供給、価格調整メカニズム

第9回：市場のはたらき(2) 市場における調整価格メカニズムその2：市場メカニズムのもとでの資源配分、市場メカニズムのメリット

第10回：市場のはたらき(3) さまざまな市場その1：財・サービスどうしの関係、代替的な関係、補完的な関係

第11回：確認テストおよび市場のはたらき(4) さまざまな市場その2：さまざまなタイプの価格差別、大人料金と子供料金、時間差をつけた価格差別、製品の多様化

第12回：確認テスト返却・解説および市場のはたらき(5) 市場の失敗その1：環境汚染のもとでの市場均衡、私的費用と社会的費用、外部性

第13回：市場のはたらき(6) 市場の失敗その2：市場の失敗とは、公共財の供給

第14回：市場のはたらき(7) 市場の失敗その3：独占市場・寡占市場、市場メカニズムの利点と限界のまとめ

第15回：全体のまとめ：ミクロ経済学に関するまとめ

定期試験

テキスト

自作の冊子型テキストを配布し、それに沿って授業をおこなう。

参考書・参考資料等

授業を通じての参考書は次の2つである。

伊藤元重（2015）『入門経済学』、第4版、日本評論社

伊藤元重（2021）『ビジネス・エコノミクス』、第2版、日本経済新聞出版

これ以外の参考文献については、授業のなかで適宜紹介する。

学生に対する評価

学期末試験50%、確認テスト30%、小レポート20%によって総合的に評価する。

授業科目名：ミクロ経済学	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：斉藤 崇 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会、高等学校 公民)		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学(国際経済を含む。)」		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ ミクロ経済学の基礎：消費者や生産者の行動や市場メカニズムについて学ぶ			
到達目標 (1) 消費者(家計)や生産者(企業)の行動について理解する。 (2) 市場メカニズムについて理解する。 (3) 現実経済について、経済学の視点から理解できるようになる。			
授業の概要			
<p>私たちの身のまわりで見ることのできるさまざまな経済現象を理解するうえで、経済学の考え方やメカニズムについて学んでおくことはとても重要である。この授業では、経済学分野の基礎でもあるミクロ経済学に関する入門的な内容を取り扱う。ミクロ経済学では、消費者や生産者といった経済主体の行動や、市場メカニズムについての分析などについて学んでいく。</p> <p>経済学の考え方やメカニズムについて学んでいくためには、専門的な用語の意味や、論理的な思考、グラフを用いた視覚的な理解についても必要となる。そのため授業では、論理的・抽象的な内容も多く取り上げられる。こうした考え方や視点は、現実経済のさまざまな状況について理解するうえでのヒントを与えてくれることも多い。この授業を通じて、経済学の考え方を身に付けるとともに、現実の経済現象についての関心も高めていってもらいたいと考えている。</p>			
授業計画			
第1回：イントロダクション：経済学はどのような学問か、ミクロ経済学とマクロ経済学			
第2回：需要曲線と供給曲線(1) 需要と供給その1：需要曲線と供給曲線、需要と供給の一致			
第3回：需要曲線と供給曲線(2) 需要と供給その2：価格変化に対する需要量の変化、需要曲線のシフトと市場均衡の変化			
第4回：需要曲線と供給曲線(3) 需要曲線と消費者の行動その1：需要曲線とは、需要の価格弾力性、価格差別			
第5回：需要曲線と供給曲線(4) 需要曲線と消費者の行動その2：支払い意思額と需要量、需要曲線のシフト要因			
第6回：確認テストおよび需要曲線と供給曲線(5) 供給曲線と生産者の行動その1：供給曲線とは、			

供給の価格弾力性

第7回：確認テスト返却・解説および需要曲線と供給曲線(6) 供給曲線と生産者の行動その2：

生産にかかる費用と供給曲線、供給曲線のシフト、価格転嫁

第8回：市場のはたらき(1) 市場における価格調整メカニズムその1：市場における価格決定、超過

需要、超過供給、価格調整メカニズム

第9回：市場のはたらき(2) 市場における調整価格メカニズムその2：市場メカニズムのもとでの資源

配分、市場メカニズムのメリット

第10回：市場のはたらき(3) さまざまな市場その1：財・サービスどうしの関係、代替的な関係、

補完的な関係

第11回：確認テストおよび市場のはたらき(4) さまざまな市場その2：さまざまなタイプの価格差別

、大人料金と子供料金、時間差をつけた価格差別、製品の多様化

第12回：確認テスト返却・解説および市場のはたらき(5) 市場の失敗その1：環境汚染のもとでの

市場均衡、私的費用と社会的費用、外部性

第13回：市場のはたらき(6) 市場の失敗その2：市場の失敗とは、公共財の供給

第14回：市場のはたらき(7) 市場の失敗その3：独占市場・寡占市場、市場メカニズムの利点と

限界のまとめ

第15回：全体のまとめ：ミクロ経済学に関するまとめ

定期試験

テキスト

自作の冊子型テキストを配布し、それに沿って授業をおこなう。

参考書・参考資料等

授業を通じての参考書は次の2つである。

伊藤元重（2015）『入門経済学』、第4版、日本評論社

伊藤元重（2021）『ビジネス・エコノミクス』、第2版、日本経済新聞出版

これ以外の参考文献については、授業のなかで適宜紹介する。

学生に対する評価

学期末試験50%、確認テスト30%、小レポート20%によって総合的に評価する。

授業科目名：マクロ経済学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：西 孝 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会、高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学(国際経済を含む。)」		
授業のテーマ及び到達目標 マクロ経済学の入門講義である。経済コースにおけるさまざまな応用科目の基礎理論を身に付けるとともに、新聞やテレビの経済ニュースを、その背後のメカニズムとともに理解できるようになる。			
授業の概要 マクロ経済学の制度的側面を中心に講義する。具体的には、現在の国民所得統計に基づき、国内総生産を始めとする諸概念についてその仕組みを学ぶ。また貨幣と通貨制度についても、その仕組みとともに、それらが経済全体に及ぼす影響について論ずる。さらに、経済活動に対する法的規制や政治的背景についても分析し、これらがマクロ経済に与える影響を理解する。			
授業計画 第1回：イントロダクション： マクロ経済学とは何か。ミクロ経済学との違い。 マクロ経済学の存在意義。 第2回：国内総生産と三面等価①： 経済の全体的活動水準をいかに測るか。 その代表的尺度としての国内総生産の定義を学ぶ。 第3回：国内総生産と三面等価②： 国内総生産に関連する諸概念である国民総生産や市場価格表示の国民所得について学ぶ。 第4回：集計量間の諸関係： 貯蓄と投資の関係を明らかにし、経済を全体として縛っている関係について学ぶ。 第5回：事後的関係から理論へ： マクロ経済モデルを構築する準備を行う。さまざまな単純化の仮定とその意味、およびモデルの構成について学ぶ。 第6回：有効需要の原理： 総生産量がどのように決まるかに関する仮説の代表的なものとして、有効需要の原理とその意味について学ぶ。 第7回：消費関数： 民間消費支出の大きさがどのように決まるかに関する仮説として、消費関数の性質を学ぶ。 第8回：投資関数： 民間投資支出の大きさがどのように決まるかに関する仮説として、投資関数の性質を学ぶ。 第9回：政策変数の取り扱い・IS曲線： 財・サービス市場に関するその他の要素について仮説を導入し、その仕上げとしてIS曲線を導出し、その性質を学ぶ。			

第10回：貨幣の定義： 貨幣の性質と現在の統計に現れるさまざまな貨幣の概念について学ぶ。

第11回：預金創造と貨幣供給： 銀行を通じて預金通貨が供給されるメカニズムについて学ぶ。

第12回：貨幣需要関数・LM曲線： 貨幣需要がどのように決まるかに関する仮説として、貨幣需要関数を導入する。LM曲線を導出し、その性質を学ぶ。

第13回：IS-LMモデル： マクロ経済モデルが完成する。その性質について学ぶ。

第14回：財政・金融政策の効果： IS-LMモデルを用いて、政府による財政・金融政策の効果について学ぶ。

第15回：失業とインフレーション： マクロ経済モデルの拡張として、労働市場における失業の概念、物価統計の意味などについて学ぶ。

定期試験

テキスト

西 孝 『イントロダクション マクロ経済学講義』 改訂第2版、日本評論社

参考書・参考資料等

教科書に記載されている。

学生に対する評価

筆記試験に基づいて評価する。(100%)

授業科目名：マクロ経済学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：西 孝 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会、高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学(国際経済を含む。)」		
授業のテーマ及び到達目標 マクロ経済学の入門講義である。経済コースにおけるさまざまな応用科目の基礎理論を身に付けるとともに、新聞やテレビの経済ニュースを、その背後のメカニズムとともに理解できるようになる。			
授業の概要 経済の全体的な活動水準を測る尺度としての国内総生産と、それに関連する集計量の意味を学ぶ。加えて、好況や不況といった形でそれらが全体的として変動するメカニズム、およびそれに対する政府の財政・金融政策について論ずる。			
授業計画 第1回：イントロダクション： マクロ経済学とは何か。ミクロ経済学との違い。 マクロ経済学の存在意義。 第2回：国内総生産と三面等価①： 経済の全体的活動水準をいかに測るか。 その代表的尺度としての国内総生産の定義を学ぶ。 第3回：国内総生産と三面等価②： 国内総生産に関連する諸概念である国民総生産や市場価格表示の国民所得について学ぶ。 第4回：集計量間の諸関係： 貯蓄と投資の関係を明らかにし、経済を全体として縛っている関係について学ぶ。 第5回：事後的関係から理論へ： マクロ経済モデルを構築する準備を行う。さまざまな単純化の仮定とその意味、およびモデルの構成について学ぶ。 第6回：有効需要の原理： 総生産量がどのように決まるかに関する仮説の代表的なものとして、有効需要の原理とその意味について学ぶ。 第7回：消費関数： 民間消費支出の大きさがどのように決まるかに関する仮説として、消費関数の性質を学ぶ。 第8回：投資関数： 民間投資支出の大きさがどのように決まるかに関する仮説として、投資関数の性質を学ぶ。 第9回：政策変数の取り扱い・IS曲線： 財・サービス市場に関するその他の要素について仮説を導入し、その仕上げとしてIS曲線を導出し、その性質を学ぶ。 第10回：貨幣の定義： 貨幣の性質と現在の統計に現れるさまざまな貨幣の概念について			

学ぶ。

第11回：預金創造と貨幣供給： 銀行を通じて預金通貨が供給されるメカニズムについて学ぶ。

第12回：貨幣需要関数・LM曲線： 貨幣需要がどのように決まるかに関する仮説として、貨幣需要関数を導入する。LM曲線を導出し、その性質を学ぶ。

第13回：IS-LMモデル： マクロ経済モデルが完成する。その性質について学ぶ。

第14回：財政・金融政策の効果： IS-LMモデルを用いて、政府による財政・金融政策の効果について学ぶ。

第15回：失業とインフレーション： マクロ経済モデルの拡張として、労働市場における失業の概念、物価統計の意味などについて学ぶ。

定期試験

テキスト

西 孝 『イントロダクション マクロ経済学講義』 改訂第2版、日本評論社

参考書・参考資料等

教科書に記載されている。

学生に対する評価

筆記試験に基づいて評価する。(100%)

授業科目名：国際経済学	教員の免許状取得のための 必修科目（高） 選択科目（中）	単位数： 2単位	担当教員名：西 孝 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会、高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学(国際経済を含む。)」		
授業のテーマ及び到達目標 国際収支表と為替レートの経済学について講義する。国際経済に関わる新聞やテレビ・ニュースの内容を、その背後のメカニズムとともに理解できるようになることを目標とする。			
授業の概要 国際経済学の制度的側面を中心に講義する。具体的には、国境を超える経済取引を記録する仕組みとしての国際収支表について学び、加えて外国為替市場の制度と仕組みについて学ぶ。また、為替レートと国際通貨制度の現状についても論ずる。さらに、国際経済取引に関する法的規制や政治的背景についても分析し、これらが国際経済に与える影響を理解する。			
授業計画 第1回：イントロダクション： なぜ「国際」経済学が必要なのか。国境や国家の重要性。国による通貨の違い。 第2回：国際収支①： 国際収支表の定義。計上に関する諸原則と、そこから導かれる一般的性質を学ぶ。 第3回：国際収支②： 各収支の内容について。特にそれらが黒字や赤字になることの意味について学ぶ。 第4回：国際収支の発展段階説： 国際収支表に関する理解を深めるエクササイズとして、国際収支の発展段階説を紹介する。 第5回：経常収支と貯蓄・投資： 国際収支表に表れる諸状況と国内経済との関係を理解する。 第6回：国際資金決済のメカニズム： 異なる通貨の国同士が行う対外的支払のメカニズムについて学ぶ。 第7回：外国為替市場： 実際に行われている外国為替取引のさまざまな形態を紹介する。 第8回：為替レート決定の理論： 為替レートの変動について、長期、短期、および超短期の視野について学ぶ。 第9回：物価と為替レート①： 為替レート決定の長期理論として、購買力平価説を学ぶ。 第10回：物価と為替レート②： 購買力平価説の応用として、実質為替レート概念や内外価格差について学ぶ。			

第11回：利子率と為替レート①： 為替レート決定の短期理論として、利子平価条件について学ぶ。

第12回：利子率と為替レート②： 利子平価条件を図解を用いて、その理解を深める。

第13回：予想と為替レート： 為替レートの超短期的変動の理論として、予想と為替レートの関係について学ぶ。

第14回：通貨危機とバブル： 予想と為替レートの応用問題として、通貨危機やバブルのメカニズムについて学ぶ。

第15回：全体のまとめ： 今学期の授業内容とそこで得られた知見について、総括を行う。

定期試験

テキスト

講義プリントおよび

西 孝『イントロダクション マクロ経済学講義』改訂第2版、日本評論社

参考書・参考資料等

講義プリントおよび教科書に記載されている。

学生に対する評価

筆記試験に基づいて評価する。(100%)

授業科目名：国際経済学	教員の免許状取得のための 必修科目（高） 選択科目（中）	単位数： 2単位	担当教員名：西 孝 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会、高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学(国際経済を含む。)」		
授業のテーマ及び到達目標 国際収支表と為替レートの経済学について講義する。国際経済に関わる新聞やテレビ・ニュースの内容を、その背後のメカニズムとともに理解できるようになることを目標とする。			
授業の概要 本講義では、国境を越えた経済取引の実態について、国際収支表の読み方、および外国為替市場の諸制度について学ぶ。加えて、為替レートが円高になったり、円安になったりするメカニズムについても解説する。			
授業計画 第1回：イントロダクション： なぜ「国際」経済学が必要なのか。国境や国家の重要性。国による通貨の違い。 第2回：国際収支①： 国際収支表の定義。計上に関する諸原則と、そこから導かれる一般的性質を学ぶ。 第3回：国際収支②： 各収支の内容について。特にそれらが黒字や赤字になることの意味について学ぶ。 第4回：国際収支の発展段階説： 国際収支表に関する理解を深めるエクササイズとして、国際収支の発展段階説を紹介する。 第5回：経常収支と貯蓄・投資： 国際収支表に表れる諸状況と国内経済との関係を理解する。 第6回：国際資金決済のメカニズム： 異なる通貨の国同士が行う対外的支払のメカニズムについて学ぶ。 第7回：外国為替市場： 実際に行われている外国為替取引のさまざまな形態を紹介する。 第8回：為替レート決定の理論： 為替レートの変動について、長期、短期、および超短期の視野について学ぶ。 第9回：物価と為替レート①： 為替レート決定の長期理論として、購買力平価説を学ぶ。 第10回：物価と為替レート②： 購買力平価説の応用として、実質為替レート概念や内外価格差について学ぶ。 第11回：利子率と為替レート①： 為替レート決定の短期理論として、利子平価条件に			

ついて学ぶ。

第12回：利子率と為替レート②： 利子平価条件を図解を用いて、その理解を深める。

第13回：予想と為替レート： 為替レートの超短期的変動の理論として、予想と為替レート
の関係について学ぶ。

第14回：通貨危機とバブル： 予想と為替レートの応用問題として、通貨危機やバブルの
メカニズムについて学ぶ。

第15回：全体のまとめ： 今学期の授業内容とそこで得られた知見について、総括を行う。

定期試験

テキスト

講義プリントおよび

西 孝『イントロダクション マクロ経済学講義』改訂第2版、日本評論社

参考書・参考資料等

講義プリントおよび教科書に記載されている。

学生に対する評価

筆記試験に基づいて評価する。(100%)

授業科目名：社会学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：永田 大輔 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会、高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学(国際経済を含む。)」		
授業のテーマ及び到達目標 ポストフォーディズムの生産と消費の結びつきや親密圏との関係について議論を行う。 授業で取り扱った事例を他の事例にも応用できるような視点を持てるようにする。			
授業の概要：本講義はとりわけ「消費」と「労働」と呼ばれる社会生活の中でも重要なトピックに注目するとともに、社会学独自の視点である「文化」の概念から両者の関係を紐解くこととする。本講義ではとりわけポストフォーディズムと呼ばれるような状況の中で生産と労働の関係がどのように結びついていったかに着目し、現在働くうえでも重要な意味を持つことを具体的なフィールド資料をもとに議論する。			
授業計画 第1回：イントロダクション・働くことと「分業」 第2回：大量生産とフォーディズム 第3回：ポストフォーディズムという労働モデル 第4回：「やりたい仕事」と「やりがい搾取」 第5回：「新自由主義」と労働慣行 第6回：サラリーマンという表象 第7回：「消費」と「労働」のあいだ 第8回：仕事で自己実現する/されること 第9回：夢を追うことと生活を維持すること 第10回：仕事にとって「やりたいこと」とは何か 第11回：「親密性」を商品化する 第12回：ネットワーク的な組織と親密性 第13回：労働を通じた連帯と文化を通じた連帯 第14回：強制された自発性と競争社会 第15回：連帯以外の多様な「批判」			
テキスト 永田大輔・松永伸太郎・中村香住編『消費と労働の文化社会学―やりがい搾取以降の「批判」を考える』ナカニシヤ出版			

参考書・参考資料等
特になし
学生に対する評価
平常課題40% レポート60%

授業科目名：哲学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：大石 学 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会、高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学」 ・「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		
授業のテーマ及び到達目標 哲学のさまざまな問題について、自分の頭で考えること、これが本講義のテーマにして目標にはかならない。折にふれてこれまでの哲学史を振り返りはするが、それはあくまで、自分の頭で考えるための材料を求めるためであって、それ以上ではない。			
授業の概要 本講義は、じっさいに哲学するといういとなみをつうじて、「哲学」とはどういう学問かを「体得する」ことを目的とする。			
授業計画 第1回：イントロダクション 本講義についての概略的説明 第2回：予備的考察 「哲学」とはなにか、なんでないか——「考える」を考える 第3回：「知る」ということ 「私」は「なに」を知るのか、「私」とは誰かについて考える 第4回：承前+他者の心 「他者」とは誰であるか、「私」とは誰であるか(問いのつづき) 第5回：承前+心と身体 「心」とはなにか、心と身体との関係について考える 第6回：承前+ことばと記号 ことばの機能。ことばがなにかを意味するとはいかなることか 第7回：承前 ひきつづき、ことばの機能について考える 第8回：前半のまとめ 前半の議論の振りかえりと、扱いきれなかった論点についての説明 第9回：自由意志 自由意志とはなにか、その存在の有無について考える 第10回：承前+正と不正 正不正の基準について、そもそもかかる基準はあるのか 第11回：承前+正義——私益と公益 正義とはなにか。不平等は(どこまでなら)許容されるか 第12回：承前+死について 死とはいかなるものか、死の体験/言語化(不)可能性 第13回：承前+生の意味 生の意味とはなにか、生に意味はあるか 第14回：承前 生は(無)意味であるか否か(つづき) 第15回：総まとめ 本講義の総括 定期試験			
テキスト ネーゲル『哲学ってどんなこと?——とって短い哲学入門』岡本裕一郎/若松良樹訳、昭和堂、1993年			

参考書・参考資料等

講義中に適宜指示する

学生に対する評価

成績評価方法：定期試験（50%）、毎回のリアクション・ペーパー（50%）

授業科目名：倫理学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：大石 学 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会、高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学」 ・「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		
授業のテーマ及び到達目標 よく生きることを考えることが本講義のテーマにして目標である。このことを念頭に置きつつ、倫理学のさまざまな問題について考える。			
授業の概要 本講義では「現代社会が抱える諸問題に「倫理学」はいかに答え（う）るか」を考える。それらに対する対処法を、従来の思想家たちの思考をてがかりにしながら考える。			
授業計画 第1回：イントロダクション 本講義についての概略的説明。「倫理学」とはなにか 第2回：人類愛からする嘘？ 「嘘つきは泥棒のはじまり」ということについて 第3回：命の重さ ひとの命はほんとうに地球より重いのか、動物と比べてどうか 第4回：エゴイズム 「エゴイズム」はほんとうに悪なのか。「利他主義」は可能か 第5回：幸福の計算——功利主義 幸福は計算できるか、幸福を測る指標は存在するのか 第6回：人格性と対応能力 「人格」とはなにか、ひとを「ひと」たらしめるものはなにか 第7回：「……である」と「……べきである」 前者から後者は導出可能か 第8回：正義の原理と相対性 「正義」は社会や文化、時代によって異なるか 第9回：思いやりと道徳 「思いやり」は道徳に必要か 第10回：正直者は損をする？ 「正直」は美德か、正直者はほんとうに報われるか 第11回：愚行権 ひととは愚かなことを行なうことが許されるか 第12回：義務 「義務」とはなにか 第13回：世代間倫理 次世代を考慮するとはいかなることか、なぜ考慮すべきなのか 第14回：正義の変異性 正義は時代や地域や民族によって異なるか 第15回：総まとめ 本講義の総括			
定期試験			
テキスト 加藤尚武『現代倫理学入門（講談社学術文庫）講談社、1997年			
参考書・参考資料等 講義中に適宜指示する			

学生に対する評価

定期試験（50%）、毎回のリアクション・ペーパー（50%）

授業科目名：心理学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：山下 竜一 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(高等学校 公民)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本講義では、心理学の誕生から現代までの全体像を概観することがテーマである。基礎的な心理学ともいえる学習心理学・認知心理学・社会心理学・発達心理学などの心理学から得られた知識や研究方法、あるいは臨床心理士・公認心理師の資格のベースとなるような、人間の深層心理を扱う心理学やカウンセリング、心理検査など、臨床心理学をベースとした心理学など、多様な心理学の差異について理解することを目標としている。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本講義は、心理学の全体像を概観し、心理学に関する入門的な知識を得て、心理学に基づいた考え方を理解することを目的とします。学問と言うと、日常生活からほど遠い、研究者の営みのように感じる方がいるかもしれませんが、ただ、心理学はみなさんにとってもなじみのある学問でもあります。例えば、日常生活で「ストレス」、「コミュニケーション」などという言葉を使ったことはありませんか？これらはすべて心理学では重要なテーマです。この授業では、単に心理学の専門用語を暗記するのではなく、心理学の考え方を紹介し、身近な出来事や社会の問題についても心理学から考えていきます。この授業を終えた後も、心理学の用語や考え方を使って、みなさんが生活をより良く送れるようになることを目指します。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション 本講義の講義内容、課題の説明などを行います</p> <p>第2回.ストレスとは何か ストレスとは何か、ストレスへの対処法などを学びます</p> <p>第3回 学習心理学① / パーソナリティ心理学① 前半の講義では、古典的条件づけなどを学びます 後半の講義では、数々のパーソナリティ理論を紹介します</p> <p>第4回 学習心理学② / パーソナリティ心理学② 前半の講義では、オペラント条件づけなどを学び 後半の講義では、数々のパーソナリティ理論を紹介します</p> <p>第5回.認知心理学（記憶） / パーソナリティ心理学③ 前半の講義では、認知心理学から記憶のメカニズムを学びます 後半の講義では、数々のパーソナリティ理論を紹介します</p> <p>第6回.認知心理学（知覚・認知） / 深層心理学①の紹介</p>			

前半の講義では、認知心理学から知覚・認知を学びます

後半の講義では、深層心理学への入門としてフロイトの理論を学びます

第7回. 発達心理学①/深層心理学②の紹介

前半の講義では、発達心理学から人間の発達を学びます

深層心理学への入門としてユングの理論を紹介します

第8回. 発達心理学②/深層心理学③の紹介

前半の講義では、発達心理学・進化心理学の観点から人間の発達を学びます

後半の講義では、精神分析・ユング派の理論を紹介します

第9回. 発達心理学③/ 深層心理学④の紹介

前半の講義では、乳幼児の認知の発達などを紹介します

後半の講義では、日本の臨床心理学を簡単に紹介します

第10回. 発達心理学④/ 日本の臨床心理学①

前半の講義では、発達心理学を

後半の講義では、日本の臨床心理学の現在を簡単に紹介します

第11回. 社会心理学①/ 聞き上手になるために

前半の講義では、社会心理学を、後半の講義では、ロジャースのカウンセリング理論などを紹介しながら、普段の生活の中での聞き上手になるためのヒントを話そうと思います

第12回. 社会心理学②/ 日本の臨床心理学②

前半の講義では、社会心理学を、後半の講義では、日本の臨床心理学の実践などを紹介します

第13回. 社会心理学③/ 健康心理学①

前半の講義では、社会心理学を、後半の講義では、健康心理学の知識を紹介します

第14回. 社会心理学④/ 健康心理学②

前半の講義では、社会心理学を、後半の講義では、健康心理学の知識を紹介します

第15回. これまでに学んだことの総復習[講義・質疑応答]

これまでに学んだことを総復習し、心理学について改めて考える。

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

道又爾ら (2011). 知のアーキテクチャを探る 有斐閣アルマ

河合隼雄/河合俊雄 (編) (2009). ユング心理学入門 岩波現代文庫

藤山直樹 (2008). 集中講義・精神分析④—精神分析とは何か フロイトの仕事 岩崎学術出版社

藤山直樹 (2010). 集中講義・精神分析⑤—精神分析とは何か フロイトの仕事 岩崎学術出版社

開一夫・齋藤慈子 (2018). ベーシック発達心理学 東京大学出版会

池田謙一ら(2010). 社会心理学 有斐閣

ジョアンヌ・R・スミス ら(著), 樋口匡貴ら(翻訳), 社会心理学・再入門—ブレークスルーを生んだ12の研究 新曜社

岩宮恵子(2013). 好きなものにはワケがある 宮崎アニメと思春期のころ ちくまプリー新書

ジェームス・ヒルマン(1982)自殺と魂 創元社

武野俊弥(2017) ユング派精神療法の実践 創元社

中井久夫(1982) 分裂病と人類 東京大学出版会

学生に対する評価

課題レポート100%

授業科目名： 社会科教育法	教員の免許状取得のための 必修科目（中）	単位数： 2単位	担当教員名：今田 敏弘 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ 「主体的・対話的で深い学び」と、学びの深まりの鍵となる教科の「見方・考え方」を育成できる授業力をもつこと。そのために必要な中学校社会の指導内容・方法に関する基本的な理解と実践力をもつこと。			
授業の概要 中学校社会科の指導に必要な社会科学習の意義、目標、学習内容、学習方法、情報機器及び教材の活用を含めた指導技術等について体験的、実践的に学ぶ。 （アクティブ・ラーニングとし、予習と授業後の振り返りを前提に、原則として、授業前半は講義・質疑、授業後半はグループ討議・発表・マイクロティーチング・研究協議・コメントとする。）			
授業計画 第1回：中学校社会科発足とその歴史（講義・質疑・グループ討議・コメント） 【戦後社会科がどのように発足し、どのような歩みをしてきたのかを理解する。】 第2回：社会科の目標と教科の構造（講義・質疑・グループ討議・コメント） 【社会科の目標と構造について、新学習指導要領をもとに理解する。これを踏まえ、中学生の時に受講した授業を振り返り、優れた点と課題を考察する。】 第3回：地理的分野の目標（講義・質疑・グループ討議・コメント） 【地理的分野の目標、「社会的事象の地理的な見方・考え方」について理解し、具体的な単元指導例について考察する。】 第4回：地理的分野の学習内容（講義・質疑・グループ討議・コメント） 【地理的分野の学習内容について理解し、具体的な単元指導例について考察する。】 第5回：地理的分野の学習方法（講義・マイクロティーチング・研究協議） 【授業力6要素、主体的・対話的で深い学びについて理解する。情報機器及び教科の活用について事例を通し考察する。略式学習指導案を作成し、マイクロティーチング・研究協議を行う。】 第6回：歴史的分野の目標（講義・質疑・グループ討議・コメント） 【歴史的分野の目標、「社会的事象の歴史的な見方・考え方」について理解し、具体的な単元指導例について考察する】 第7回：歴史的分野の学習内容（講義・質疑・グループ討議・コメント）			

【歴史的分野の学習内容について理解し、具体的な単元指導例について考察する。】

第8回：歴史的分野の学習方法（講義・マイクロティーチング・研究協議）

【授業力6要素、主体的・対話的で深い学びや情報機器及び教材の活用等を配慮した略式学習指導案を作成し、マイクロティーチング・研究協議を行う。】

第9回：地理的分野における地域の扱い（講義・質疑・演習・コメント）

【単元「地域調査の手法」「地域の在り方」から、学校周辺（三鷹市）の教材を作成する。】

第10回：歴史的分野における地域の扱い（講義・質疑・教材の発表・コメント）

【単元「身近な地域の歴史」から、学校周辺（三鷹市）の教材を作成する。】

第11回：地理的分野の授業計画（講義・発表・研究協議）

【課題として作成してきた年間授業計画を基に、任意の単元の授業計画について発表・研究協議を行う。】

第12回：歴史的分野の授業計画（講義・発表・研究協議）

【課題として作成してきた年間授業計画を基に、任意の単元の授業計画について発表・研究協議を行う。】

第13回：地理的分野の評価（講義・発表・演習・コメント）

【評価規準について理解し、これを踏まえ、すでに作成した学習指導案へ評価規準を入れ、指導-評価の一体化を学ぶ。】

第14回：歴史的分野の評価（講義・質疑・演習・コメント）

【すでに作成した略式学習指導案に評価規準を入れ、指導-評価の一体化を学ぶ。】

第15回：主体的・対話的で深い学び（講義・論述）

【主体的・対話的で深い学びについて、その理念と具体像を考察し、論述する。】

定期試験は実施しない。

再試験なし。

テキスト

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編

参考書・参考資料等

中央教育審議会答申

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 国立教育政策研究所中学校歴史的分野教科書 東京書籍

新しい社会 歴史 東京書籍

社会科 中学生地理 世界の姿と日本の国土 帝国書院

中学校社会科地図 帝国書院

学生に対する評価

授業への取組姿勢（時事ニュースへの取組み、グループ討議、質問・意見における思考の深化

など) 20%、課題30%、筆記試験 (小テストを含む) 50%を総合して評価する。論述課題に関しては、事前に評価規準としてのルーブリックを提示する

授業科目名： 社会科・公民科教育法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：今田 敏弘、羽 田 真 担当形態：複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 社会 ・公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)		
授業の到達目標及びテーマ 「主体的・対話的で深い学び」と、学びの深まりの鍵となる教科の「見方・考え方」を育成できる授業力をもつ。そのために必要な中学校社会公民的分野と高等学校公民科の学習内容・方法に関する基本的な理解と実践力を身に付ける。			
授業の概要 中学校社会科・高等学校公民科の指導に必要な社会科の意義、目標、指導内容、指導方法、情報機器及び教材の活用を含む指導技術等について体験的、実践的に指導する。（アクティブ・ラーニングとし、予習と授業後の振り返りを前提に、授業前半は講義・質疑、授業後半はグループ討議・発表・マイクロティーチング・研究協議・コメントとする。）			
授業計画 第1回：中学校公民的分野の目標（講義・質疑・グループ討議・コメント）担当：今田 【公民的分野の目標、「現代社会の見方・考え方」について理解し、具体的な単元指導例について考察する。】 第2回：中学校公民的分野の学習内容（講義・質疑・グループ討議・コメント）担当：今田 【公民的分野の学習内容について理解し、具体的な単元指導例について考察する。】 第3回：中学校公民的分野の学習方法（講義・質疑・研究協議）担当：今田 【授業力6要素、主体的・対話的で深い学びや情報機器及び教材の活用等の指導の工夫を配慮した略式学習指導案を作成し、マイクロティーチング・研究協議を行う。】 第4回：中学校公民的分野の「よりよい社会を目指して」（講義・質疑・グループ討議・コメント）担当：今田 【持続可能な社会形成を目指し、身近な地域の学習とも関連させながら、単元構成を考察する。】 第5回：中学校公民的分野の授業計画（講義・マイクロティーチング・研究協議）担当：今田 【課題として作成してきた年間授業計画を基に、任意の単元の授業計画について発表・研究協議を行う。】 第6回：中学校公民的分野の評価（講義・質疑・グループ討議・コメント）担当：今田 【評価規準について理解し、これを踏まえ、すでに作成した略式学習指導案へ評価規準を入れ			

、指導-評価の一体化を学ぶ。】

第7回：中学校公民的分野の模擬授業担当：今田

【代表者が模擬授業を行い、全員で研究協議を行う。】

第8回：小中高の関連と高等学校公民科（講義・質疑・グループ討議・コメント）担当：今田、羽田

【小中高における公民科の位置づけと意義や目標について理解する。これを踏まえ、高校生の時に受講した授業を振り返り、優れた点と課題について考察する。】

第9回：公民科の目標や構造（講義・質疑・グループ討議・コメント）担当：今田、羽田

【高等学校公民科の目標や構造について理解し、単元指導例について考察する。】

第10回：「公共」の目標と学習内容（講義・質疑・グループ討議・コメント）担当：今田、羽田

【「公共」の目標と学習内容について理解し、略式学習指導案を作成し、マイクロティーチング・研究協議を行う】

第11回：「倫理」の目標と学習内容（講義・質疑・グループ討議・コメント）担当：今田、羽田

【「倫理」の目標と学習内容について理解し、具体的な単元事例について考察する。】

第12回：「政治・経済」の目標と学習内容（講義・質疑・グループ討議・コメント）担当：今田、羽田

【「政治・経済」の目標と学習内容について理解し、具体的な単元事例を示し、考察する。】

第13回：公民科の学習評価（講義・質疑・グループ討議・コメント）担当：今田、羽田

【国立政策教育研究所の「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料を参照し、「公共」の略式学習指導案に評価規準を書き込む。】

第14回：公民科指導計画の作成（講義・質疑・グループ討議・コメント）担当：今田、羽田

【高等学校公民科の科目の年間授業計画（単元ごとの指導目標、各時間の配当時間・学習目標・内容）を作成する。】

第15回：まとめ（講義・論述）担当：今田、羽田

【社会科教員の資質と能力について論述する。】

定期試験は実施しない。

再試験なし。

テキスト

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編

高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 公民編

中央教育審議会答申

国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に起案する参考資料 中学校 社会
国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に起案する参考資料 高等学校
帝国書院 「中学生の公民」
第一学習社 「高等学校 新公共」

学生に対する評価

ニュース記事への取組み姿勢や授業への取組み姿勢（グループ討議における思考の深化など）
20%、課題30%、筆記試験（小テストを含む）50%を総合して評価する。論述課題に関しては、事前に評価規準としてのルーブリックを提示する。

授業科目名： 社会科指導法	教員の免許状取得のための 必修科目（中）	単位数： 2単位	担当教員名：今田 敏弘 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>「主体的・対話的で深い学び」と、学びの深まりの鍵となる教科の「見方・考え方」を育成できる授業力をもつ。そのために必要な中学校社会の指導内容・方法に関する実践力を、3年生前期の社会科教育法における学びを踏まえ高める。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>中学校社会科の指導に必要な授業法の研究及び実践。当該科目の授業法、学習指導案作成、模擬授業実践、情報機器及び教材の活用等を含めた相互批評などを総合的に行なう。（アクティブ・ラーニングとし、原則として予習と授業後の振り返りを前提に、授業前半は講義・質疑、授業後半はグループ討議・発表・模擬授業・研究協議・コメントとする。）</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：社会的な見方・考え方（講義・研究協議・コメント）</p> <p>【学習指導要領改訂を展望し、「主体的・対話的で深い学び」と、学びの深まりの鍵となる教科の「社会的な見方・考え方」を育成できる授業や情報機器及び教材の活用等に対する指導方法の工夫について考察する。】</p> <p>第2回：世界と日本の地域構成の授業法（講義・マイクロティーチング（以下、MTと表示）・研究協議・コメント）</p> <p>【「地域構成」の単元構成を行い、1単位時間のMT・研究協議を行う。】</p> <p>第3回：世界の様々な地域の授業法（講義・MT・研究協議・コメント）</p> <p>【「世界各地の人々の生活と環境」の単元構成を行い、1単位時間のMT・研究協議を行う。】</p> <p>第4回：世界の諸地域の授業法（講義・MT・研究協議・コメント）</p> <p>【「世界の諸地域」の単元構成を行い、1単位時間のMT・研究協議を行う。】</p> <p>第5回：日本の様々な地域の授業法（講義・MT・研究協議・コメント）</p> <p>【「日本の地域的特色と地域区分」の単元構成を行い、1単位時間のMT・研究協議を行う。】</p> <p>第6回：日本の様々な地域の授業法（講義・MT・研究協議・コメント）</p> <p>【「日本の諸地域」の単元構成を行い、1単位時間のMT・研究協議を行う。】</p> <p>第7回：歴史との対話の授業法（講義・MT・研究協議・コメント）</p> <p>【「私たちと歴史」の単元構成を行い、1単位時間のMT・研究協議を行う。】</p> <p>第8回：近世までの日本とアジアの授業法（講義・MT・研究協議・コメント）</p> <p>【「古代までの日本」の単元構成を行い、1単位時間のMT・研究協議を行う。】</p> <p>第9回：近世までの日本とアジアの授業法（講義・MT・研究協議・コメント）</p>			

【「中世の日本」の単元構成を行い、1単位時間のMT・研究協議を行う。】

第10回：近世までの日本とアジアの授業法（講義・MT・研究協議・コメント）

【「近世の日本」の単元構成を行い、1単位時間のMT・研究協議を行う。】

第11回：近現代の日本と世界の授業法（講義・MT・研究協議・コメント）

【「近代の日本と世界」の単元構成を行い、1単位時間のMT・研究協議を行う。】

第12回：近現代と日本と世界の授業法（講義・MT・研究協議・コメント）

【「現代の日本と世界」の単元構成を行い、1単位時間のMT・研究協議を行う。】

第13回：模擬授業（模擬授業・研究協議・コメント）

【中学校社会科地理的分野】

第14回：模擬授業（模擬授業・研究協議・コメント）

【中学校社会科歴史的分野】

第15回：まとめ（講義・論述）

【「主体的・対話的で深い学び」という観点について、情報機器及び教材の活用の工夫等に触れながら、自己の授業力を振り返り、成果と課題について論述する。】

定期試験は実施しない。

再試験なし。

テキスト

文部科学省 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編

参考書・参考資料等

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 社会 国立教育政策研究所

新しい社会 歴史 東京書籍

社会科 中学生地理 世界の姿と日本の国土 帝国書院

中学校社会科地図 帝国書院

学生に対する評価

模擬授業への取組姿勢（グループ討議における思考の深化など）50%、課題20%、筆記試験（小テストを含む）30%を総合して評価する。論述課題に関しは、事前に評価規準としてのルーブリックを提示する。

授業科目名： 社会科・公民科指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：今田 敏弘、羽田 誠
			担当形態：複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 社会・公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)		
授業の到達目標及びテーマ 「主体的・対話的で深い学び」と、学びの深まりの鍵となる教科の「見方・考え方」を育成できる授業力をもつこと。そのために必要な中学校社会公民的分野及び高等学校公民科の指導内容・方法に関する実践力を、3年生後期の社会科・公民科教育法における学びを踏まえ高めること。			
授業の概要 中学校社会科・高等学校公民科の指導に必要な授業法の研究及び実践。当該科目の授業法、学習指導案、模擬授業実践、情報機器及び教材の活用等を含め相互批評などを総合的に行なう。アクティブ・ラーニングとし、予習と授業後の振り返りを前提に、授業前半は講義・質疑、授業後半はグループ討議・発表・マイクロティーチング・研究協議・コメントとする。）			
第1回：中学校社会科公民的分野の目標（講義）担当：今田 【中学校社会公民的分野の目標を考察する。また、情報機器及び教材の活用等の指導方法の工夫について理解する。】			
第2回：私たちと現代社会の授業法（講義・MT・研究協議・コメント）担当：今田 【「現代社会を捉える枠組み」の単元構成を行い、1単位時間のMT・研究協議を行う。】			
第3回：私たちと経済の授業法（講義・MT・研究協議・コメント）担当：今田 【「市場の働きと経済」を単元構成し、1単位時間のMT・研究協議を行う。】			
第4回：私たちと経済の授業法（講義・MT・研究協議・コメント）担当：今田 【「国民の生活と政府の役割」の単元構成を行い、1単位時間のMT・研究協議を行う。】			
第5回：私たちと政治の授業法（講義・MT・研究協議・コメント）担当：今田 【「人間の尊重と日本国憲法の基本的原則」の単元構成を行い、1単位時間のMT・研究協議を行う。】			
第6回：私たちと政治の授業法（講義・MT・研究協議・コメント）担当：今田 【「民主政治と政治参加」の単元構成を行い、1単位時間のMT・研究協議を行う。】			
第7回：私たちと国際社会諸課題の授業法（講義・MT・研究協議・コメント）担当：今田 【「世界平和と人類の福祉の増大」の単元構成を行い、1単位時間のMT・研究協議を行う。】			
第8回：公共の科目の性格と目標（講義）担当：今田、羽田 【公共の目標を考察する。】			
第9回：公共の授業法（講義・MT・研究協議・コメント）担当：今田、羽田			

【「公共の扉」の単元構成を行い、1単位時間のMT・研究協議を行う。】

第10回：公共の授業法（講義・MT・研究協議・コメント）担当：今田、羽田

【「自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たちの単元構成を行い、1単位時間のMT・研究協議を行う。】

第11回：公共の授業法（講義・マイクロティーチング（以下、MTと表示）・研究協議・コメント）担当：今田、羽田

【「持続可能な社会づくりの主体となる私たち」の単元構成を行い、1単位時間のMT・研究協議を行う。】

第12回：倫理の授業法（講義・マイクロティーチング（以下、MTと表示）・研究協議・コメント）担当：今田、羽田

【「現代に生きる自己の課題と人間としての在り方生き方」の単元構成を行い、1単位時間のMT・研究協議を行う。】

第13回：倫理の授業法（講義・MT・研究協議・コメント）担当：今田、羽田

【「現代の諸課題と倫理」の単元構成を行い、1単位時間のMT・研究協議を行う。】

第14回：政治・経済の授業法（講義・MT・研究協議・コメント）担当：今田、羽田

【「現代日本における政治・経済の諸課題」の単元構成を行い、1単位時間のMT・研究協議を行う。】

第15回：まとめ（講義・論述）担当：今田、羽田

【「主体的・対話的で深い学び」という観点について情報機器及び教材の活用等に触れながら、自己の授業力を振り返り、成果と課題をまとめる。】

定期試験は実施しない

再試験はなし。

テキスト

文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編』

文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 公民編』

参考書・参考資料等

国立教育政策研究所

「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」高等学校 公民

国立教育政策研究所

「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」中学校 社会

帝国書院「中学生の公民」

第一学習社「高等学校 新公共」

学生に対する評価

授業への取組姿勢（グループ討議における思考の深化など）20%、課題50%、小テスト30%を総合して評価する。論述課題に関しては、事前に評価規準としてのルーブリックを提示する。

授業科目名：道徳教育 指導論	教員の免許状取得のための 必修科目（中） 選択科目（高）	単位数： 2単位	担当教員名：齋藤 智志 担当形態：単独
科 目	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目（中） ・大学が独自に設定する科目（高） 		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	道徳の理論及び指導法（中）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>①道徳教育の歴史、基礎的な理論、代表的な実践法を理解する。</p> <p>②道徳の授業指導案が書ける。</p> <p>③道徳の授業ができる。</p>			
授業の概要			
<p>まず従来の道徳教育の理論と実践を批判的に検討し、次にそれを踏まえて学習指導案を作成し、模擬授業を行い、受講者でその内容を検討し合う。</p> <p>以上のプロセスを通じて、道徳教育の実践的な指導方法の修得を目指す。</p> <p>※中一種・養護一種取得希望者は必修。高一種免のみの場合「教科又は教職に関する科目」に利用可。</p>			
授業計画			
<p>【第1回】自分の道徳学習歴とその内容を振り返る——「道徳の授業がおもしろい／おもしろくない」とはどのような事態か？ また、あなたにとっての道徳的問題とは何か？：自分の道徳教育歴とその内容を振り返ってもらうとともに、以上を切り口として「道徳とは何か」を考える。（授業形態：講義・質疑応答）</p>			
<p>【第2回】道徳の教科化によって道徳教育の質は向上するか？：標記のテーマについてグループディスカッションを行い、班ごとに意見をまとめ、全体で共有・議論する。以上の作業を通して「道徳教育とは何か？」を考える。合わせて、道徳科の点数によらない学習評価のあり方を理解する。（授業形態：グループディスカッション・全体討議・講義）</p>			
<p>【第3回】『学習指導要領』の中の道徳と、学校の中の道徳教育：『学習指導要領 特別の教科道徳編』を読解するとともに、学校の中での道徳教育の実際を概観することで、学校の教育活動全体における道徳教育および道徳科の位置づけ・必要性・目標・内容や、道徳教育の指導計画を理解する。合わせて、現代的な道徳課題（いじめ、情報モラル等）についても理解を深める。（授業形態：講義・質疑応答）</p>			
<p>【第4回】道徳を教える／教わるとは、いかなる営みか？ ——道徳教育の歴史と理論：歴史に関しては教育思想における道徳教育と戦後日本の道徳教育を、理論に関しては道徳性心理学的</p>			

研究と社会学的研究を扱う。(授業形態：講義・質疑応答)

【第5回】道徳科用教材の実際と、その批判的検討：道徳科教科書や教材を活用した授業実践例を検討することで、道徳科における教材の重要性を理解する。(授業形態：講義・グループディスカッション)

【第6回】学習指導案の実際と、その批判的検討・その1：徳目主義、心情主義など：徳目主義と心情主義の融合形等による授業実践例を検討し、その特徴を理解する。(授業形態：講義・グループディスカッション)

【第7回】学習指導案の実際と、その批判的検討・その2：モラルジレンマなど：モラルジレンマ等による授業実践例を検討し、その特徴を理解する。(授業形態：講義・グループディスカッション)

【第8回】学習指導案の実際と、その批判的検討・その3：プラグマティック・アプローチなど：プラグマティック・アプローチ等による授業実践例を検討し、その特徴を理解する。(授業形態：講義・グループディスカッション)

【第9回】班による学習指導案の作成：これまでの講義内容と議論に基づきながら、(1)授業のねらいや指導過程が明確であること、(2)適切な授業方法や教材を選択していること、(3)生徒の主体的な授業参加が可能であること、の3点を主眼に置いた学習指導案を班単位で作成する。(授業形態：グループワーク)

【第10回】班作成学習指導案の実際と検討・第1回目：班の代表者が模擬授業を行い、それを全員で検討する。(授業形態：模擬授業・相互検討)

【第11回】班作成学習指導案の実際と検討・第2回目：班の代表者が模擬授業を行い、それを全員で検討する。授業者には第1回目で出された反省を踏まえた、より完成度の高い授業が、観察者には第1回目よりも深い評価と改善の視点が求められる。(授業形態：模擬授業・相互検討)

【第12回】班作成学習指導案の実際と検討・第3回目：班の代表者が模擬授業を行い、それを全員で検討する。授業者には第1回目・第2回目で出された反省を踏まえた、さらに完成度の高い授業が、観察者には第1回目・第2回目よりもさらに深い評価と改善の視点が求められる。(授業形態：模擬授業・相互検討)

【第13回】個人作成学習指導案の実際と検討・第1回目：個人で作成した学習指導案に基づいて模擬授業を行い、それを全員で検討する。(授業形態：模擬授業・相互検討)

【第14回】個人作成学習指導案の実際と検討・第2回目：個人で作成した学習指導案に基づいて模擬授業を行い、それを全員で検討する。授業者には第1回目で出された反省を踏まえた、より完成度の高い授業が、観察者には第1回目よりも深い評価と改善の視点が求められる。(授業形態：模擬授業・相互検討)

【第15回】個人作成学習指導案の実際と検討・第3回目、ならびに全体の総括：個人で作成した学習指導案に基づいて模擬授業を行い、それを全員で検討する。授業者には第1回目・第2回

目で出された反省を踏まえた、さらに完成度の高い授業が、観察者には第1回目・第2回目よりもさらに深い評価と改善の視点が求められる。最後に全体を振り返り、成果と課題を自覚する。(授業形態：模擬授業・相互検討・講義)

【定期試験】実施しない。

テキスト

教科書：①『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』（文部科学省）

②『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』（文部科学省）

課題図書（必携）：林純次『残念な教員——学校教育の失敗学』、光文社新書

参考書・参考資料等

参考書：①柳沼良太『問題解決型の道徳授業——プラグマティック・アプローチ』、明治図書

②深澤久『道徳授業原論』、日本標準

学生に対する評価

授業時間内外に課されるあらゆる学習活動を対象とし、理解・修得・熟考・意欲の程度を見て総合的に判断する。具体的には、以下の配分とする。

①個人作成学習指導案：40%、

②授業中の諸活動とその成果（グループワーク、班作成学習指導案、相互評価等）：45%、

③授業への取り組み具合（課題図書コメントを含む）15%

授業科目名：日本国憲法	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：大西 健司 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・日本国憲法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>日本国憲法をテーマに、総論・人権・統治の各分野について講義します。日本国憲法の成り立ちや、その背景思想である近代立憲主義を理解した上で、人権規定の基礎的な解釈論や判例法理を修得することを目指します。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>日本国憲法の思想的淵源である近代立憲主に遡りながら近代憲法の意義と役割とを確認しつつ、個々の条文の解釈論や判例に関する基礎的知識の修得を目指します。この授業では、憲法総論と基本的人権を中心に扱います。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：憲法の基礎：憲法とは何か、法律とはどのように異なるのか。日本国憲法の基礎としての近代立憲主義とはいかなるものか。</p> <p>第2回：日本国憲法の制定：明治憲法を経て、日本国憲法は何をきっかけにどのような経緯で制定されたのか。</p> <p>第3回：平和主義：日本国憲法における平和主義とはどのようなものか。他国の憲法との違いは何か。</p> <p>第4回：象徴天皇制：象徴とは何か。天皇を象徴とすることの意味は何か。憲法上、天皇はどのような権限を有しているのか。</p> <p>第5回：人権総論：人権はどのような歴史を経て誕生したのか。人権とはどのような観念か。また、人権は絶対不可侵なのか。人権はどのような理由で、どこまで制約され得るのか。</p> <p>第6回：包括的基本権：包括的基本権とはどのような権利なのか。その中にはどのような人権が含まれているのか。</p> <p>第7回：法の下での平等：法の下に平等であるとは何を意味するのか。憲法が禁止する差別とは何か。</p> <p>第8回：思想・良心の自由：憲法が思想・良心の自由を保障する理由は何か。どのような方法でこれらの自由が制約されるのか。</p> <p>第9回：信教の自由・政教分離：憲法が信教の自由を保障する背景にはどのような歴史があるのか。信教の自由と政教分離の違いは何か。</p> <p>第10回：表現の自由：憲法が表現の自由を保障する理由は何か。表現の自由は社会においてどのような役割を果たすのか。</p> <p>第11回：社会権：社会権とはいかなる人権か。生存権をめぐる現代的課題とは何か。</p>			

第12回：国会：国会議員が「国民を代表する」ことの意味とは何か。憲法が定める選挙の意義と仕組みはいかなるものか。

第13回：内閣：行政権とは何か。議院内閣制に基づく内閣の地位とはどのようなものか。

第14回：裁判所：司法権とは何か。違憲立法審査権の歴史とその現代的意義とは何か。

第15回：総括：これまでの授業内容を総括する。

定期試験

テキスト

授業は毎回配布するレジュメとスライドに基づいて行うため、指定教科書はありません。

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

平常点（20％）に加えて、最終回の試験（80％）で評価します。

ただし、6回以上欠席した学生および最終回の試験を受験しなかった学生はE評価（＝評価不能）とします。

授業科目名：健康と体育	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：平澤 愛 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>《一般目標(GIO)》 現代社会におけるスポーツおよび身体活動の重要性を理解し、心身ともに健康なライフスタイルの実践ができることを到達目標とする。</p> <p>《個別目標(SBOs)》 ①「健康」と「体力」の概念を理解し、スポーツおよび身体活動を行うことの意義を説明できる。 ②スポーツおよび身体活動が身体に及ぼす影響と健康への功罪について述べることができる。 ③他者と協力してスポーツ活動の実践ができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>心身の健康維持・増進のための「体力づくり」について講義と身体活動を伴う演習を交互に行いながら、健康とスポーツ・身体活動に関する理論的基礎と実践力を身につける。講義では、主に運動生理学およびバイオメカニクス的な知見から、スポーツや身体活動がヒトの身体に及ぼす影響や効果を概説する。一方、演習では自分自身の体力(持久力・筋力・瞬発力)を把握し、効果的に体力を高めるためのスポーツ・身体活動の実践を通して運動習慣を身につけることの重要性を理解する。知識および運動スキルの獲得に留まらず、個人のメンタルコントロールやコミュニケーション能力などの社会的スキルの向上も目指す。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業の概要とイントロダクション 生涯に渡って心身ともに健康な生活を送るために必要となる体力と運動習慣について学ぶ</p> <p>第2回：現代社会の健康づくりの現状とスポーツ・健康 現代の健康問題について取り上げ、その予防と対策について学ぶ。運動による健康づくりの重要性について理解を深める</p> <p>第3回：人体の構造と身体活動 運動の種類による骨格筋の収縮と骨格筋を収縮させるためのエネルギー供給機構について学ぶ</p> <p>第4回：生活習慣病と身体活動 現代の健康問題について取り上げ、その予防と対策について学ぶ。運動による健康づくりの重要性について理解を深める</p> <p>第5回：トレーニングの科学的基礎 有酸素運動と無酸素運動について理解をする。体力を高めるために必要となるトレーニングの種</p>			

類、頻度、強度について学ぶ

第6回：体力測定

筋力、筋持久力、柔軟性などの体力を実際に測定し、自己の体力レベルを認識し、今後の課題を見つける

第7回：持久力の測定

運動負荷を変えた際の心拍数の変化から簡易的に持久力を測定することから、自己の持久力を知る

第8回：持久力を高める運動の実践

持久力を高めるための運動種目と運動強度を演習を通して学ぶ。また、運動時の心拍数を記録することから効率的なトレーニング方法を学ぶ

第9回：体力づくりとスポーツの実践①

様々なスポーツ種目の実践を通して、ルール、技術、戦術を学び、スポーツスキルを高める

第10回：体力づくりとスポーツの実践①

様々なスポーツ種目の実践を通して、ルール、技術、戦術を学び、スポーツスキルを高める

第11回：体力づくりとスポーツの実践②

様々なスポーツ種目の実践を通して、ルール、技術、戦術を学び、スポーツスキルを高める

第12回：体力づくりとスポーツの実践③

様々なスポーツ種目の実践を通して、ルール、技術、戦術を学び、スポーツスキルを高める

第13回：体力づくりとスポーツの実践④

様々なスポーツ種目の実践を通して、ルール、技術、戦術を学び、スポーツスキルを高める

第14回：体力づくりとスポーツの実践⑤

様々なスポーツ種目の実践を通して、ルール、技術、戦術を学び、スポーツスキルを高める

第15回：まとめ

生涯に渡って心身ともに健康な生活を送るために必要となることを体力と運動の面から考える
レポート提出

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

授業資料は適宜配布する

学生に対する評価

授業内課題提出（60%）、レポート課題（40%）

授業科目名：英語 I Listening & Speaking A	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：ウォン チュン ムイ 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>リスニングとスピーキングの上達を目的に以下を目標とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適切な語彙と文法を使って、自分の考えや意見を表現できること。 ・リスニング、発音、ノートテイキングにおけるスキルの向上。 ・一般的なトピックについて、パートナーと短い会話ができること。 			
<p>授業の概要</p> <p>語彙の構築、文法規則の復習、発音の練習に焦点を当て、リスニングとスピーキングのスキルを紹介します。また、さまざまなトピックについてパートナーと短い会話を練習し、リスニングのコツを練習します。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業紹介、Showbieのダウンロード・使用方法についての説明、ユニット1 People（文法のルールを復習し、仕事、国に関連する単語を学ぶ。）</p> <p>第2回：ユニット 1 People（自己紹介を聞き、様々な質問を聞く練習。）</p> <p>第3回：ユニット 1 People（形容詞や名詞を使って、人や仕事について説明する練習。）</p> <p>第4回：ユニット 2 A Day in the Life（文法のルールを復習し、日々の活動やパーティー、お祝いに関する単語を学ぶ。）</p> <p>第5回：ユニット 2 A Day in the Life（宇宙飛行士の日常生活についてのラジオ番組を聞き、日常生活や自由時間について話す練習。）</p> <p>第6回：ユニット 2 A Day in the Life（世界の特別な日やお祝い事について会話する。）</p> <p>第7回：復習テスト1（ユニット1、2） / ユニット3 Going Places（復習テスト1を行い、旅行準備に関する文法ルールと単語を学ぶ。）</p> <p>第8回：ユニット 3 Going Places（旅行に関する会話を聞き、リスニングを練習。）</p> <p>第9回：ユニット 3 Going Places（旅行に関する質問を聞き答える練習。）</p> <p>第10回：ユニット 3 Going Places（文法のルールを従って、アドバイスに関する会話の練習。）</p> <p>第11回：ユニット4 Food（文法のルールを復習し、食べ物に関する単語を学ぶ。）</p> <p>第12回：ユニット 4 Food（食事とレシピに関する単語の発音とリスニングの練習。）</p> <p>第13回：ユニット 4 Food（リスニングアクティビティを通して、食事に関する単語や注文の仕方を学ぶ。）</p> <p>第14回：ユニット 4 Food（文法ルールに従い学んだ単語を使って、食事に関する会話する。）</p>			

第15回：復習テスト2（ユニット3と4） / 期末復習 [リスニングとスピーキング]

テキスト

[World English, Third/Spark Edition](#) <レベル1>

Student Book with Spark Access + e-Book（一年間アクセス）

By Cengage Learning

ISBN 9798214085256

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

宿題 40%； 授業への参加とリスニングとスピーキングの練習 30%； 復習テスト 30%

授業科目名：情報リテ ラシーA	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：坪下 幸寛、西 田 豊、大森 拓哉
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操 作		
授業のテーマ及び到達目標			
<p><到達目標></p> <p>Word、PowerPointの基本操作を身につけ、情報社会における情報発信をするスキルを修得する。</p> <p><推奨到達目標></p> <p>一般的なWord PowerPointの操作を、マニュアルを参照することなく行える。</p>			
授業の概要			
<p>社会人に求められる能力の一つに、「Office の操作と活用する能力」が挙げられます。現在は、WordやPowerPointによる情報の発信、Excelを用いたデータの分析が国際的な常識となっています。この授業では、Word、PowerPointの基礎的な操作を身につけるとともに、実践的な課題を通して、様々な問題を解決する能力やプレゼンテーションの能力を養います。</p>			
<p>第1回：Word<入力と修正></p> <p>内容：文字の入力や修正、キーボードの配列、文書ファイルの保存等を学ぶ。</p> <p>第2回：Word<リーフレットの作成1></p> <p>内容：書式（フォントの設定、中央揃え、均等割り付けなど）、作表を学ぶ。</p> <p>第3回：Word<リーフレットの作成2></p> <p>内容：図の取り扱い（画像の挿入、図形の利用）を学ぶ。</p> <p>第4回：Word<レポートの作成></p> <p>内容：レポートの意義やルール、引用や脚注文書校正の機能について学ぶ。</p> <p>第5回：PowerPoint<プレゼンについて></p> <p>内容：プレゼンテーションの目的と意義。スライド作成の手順について学ぶ。</p> <p>第6回：PowerPoint<スライドの作成></p> <p>内容：発表会に向けたスライド作成を行う。</p> <p>第7回：PowerPoint<発表会1></p> <p>内容：各自で作成したスライドを用いて、プレゼンを行う。</p> <p>第8回：PowerPoint<発表会2></p> <p>内容：各自で作成したスライドを用いて、プレゼンを行う。</p>			
テキスト			
「イチからしっかり学ぶ！Office基礎と情報モラル」（ISBN：978-4-908434-79-2）			

参考書・参考資料等

データサイエンス入門第2版 ISBN978-4-7806-0730-7 学術図書出版社

教養としてのデータサイエンス（データサイエンス入門シリーズ） ISBN: 978-4-0652-3809-7
講談社

学生に対する評価

平常点（小テストの成績60%）と課題の成績（40%）による。

授業科目名：情報リテ ラシーB	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：坪下 幸寛、西 田 豊、大森 拓哉
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操 作		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p><到達目標></p> <p>一般的なExcelの操作を、マニュアルを参照することなく行える。</p> <p>Excelを用いて、与えられたデータに応じた適切なグラフが作図できるようになる。</p> <p>社会におけるデータやAI利活用および留意事項について概説できる。</p> <p>外部団体（国又は地方公共団体や他大学等（自大学等を設置する法人が運営する他の大学等を除く）、産業界等）における実課題や実データを取得し、加工や解析から推論を立て、その結果を他者に共有・伝達するプロセスについて理解する。</p> <p><推奨到達目標></p> <p>機械学習や深層学習の利活用について概説できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>社会人に求められる能力の一つに「Office の操作と活用する能力」が挙げられます。現在は、WordやPowerPointによる情報の発信、Excelを用いたデータの分析が国際的な常識となっています。この授業では、Excelの基礎的な操作を身につけるとともに、実践的な課題を通して、様々な問題を解決する能力を養います。さらに、データ駆動型社会への転換の中で必須となっているデータサイエンスの基礎知識の習得を行います。</p>			
<p>授業計画</p> <p>前半ではデータサイエンスの講義を行い、後半はExcelの実習を行う。</p> <p>第1回：データサイエンス 1-1 1-2 / Excel<表の作成1></p> <p>前半：データサイエンス 1-1. 社会で起きている変化 1-2. 社会で活用されているデータ 後半：Excel<表の作成1> 表計算ソフトの利点、Excelの概念、データの入力と修正を学ぶ。</p> <p>第2回：データサイエンス1-3 1-4 / Excel<表の作成2></p> <p>前半：データサイエンス 1-3. データ・AIの活用領域 1-4. データ・AI利活用のための技術 後半：Excel<表の作成2> フォント、表示形式、枠線、罫線、行の高さや列の幅、印刷などについて学ぶ。</p> <p>第3回 データサイエンス 1-5 1-6 / Excel<表の作成3></p> <p>前半：データサイエンス 1-5. データ・AI利活用の現場 1-6. データ・AI利活用の最新動向</p>			

後半: Excel<表の作成3>フォント、表示形式、枠線、罫線、行の高さや列の幅、印刷などについて学ぶ。

第4回 データサイエンス 2-1 / Excel<計算式1>

前半: データサイエンス 2-1-1. データの要約 2-1-2. データの集め方

後半: Excel<計算式1>ビジネスで用いられる計算式を中心に、その設定と利用方法を学ぶ。

第5回 データサイエンス 2-1-3 2-1 / Excel<計算式2>

前半: データサイエンス 2-1-3. データどうしの関係性 2-2. データを説明する

後半: Excel<計算式2>ビジネスで用いられる計算式を中心に、その設定と利用方法を学ぶ。

第6回 データサイエンス 3-1 / Excel<関数1>

前半: データサイエンス 3-1-1 データ・AIを扱う上での留意事項 3-1-2. データ・AI活用に潜むリスク: 事例紹介

後半: Excel<関数1>基本的な関数と扱い方について学ぶ。

第7回 データサイエンス 3-2 / Excel<関数2>

前半: データサイエンス 3-2. データを守る上での留意事項

後半: Excel<関数2>基本的な関数と扱い方について学ぶ。

第8回 Excel<グラフ作成>

内容: Excel<グラフ作成>様々なデータについて、適したグラフの選択と作成方法について学ぶ。

テキスト

「イチからしっかり学ぶ! Office基礎と情報モラル」 (ISBN: 978-4-908434-79-2)

参考書・参考資料等

データサイエンス入門第2版 ISBN978-4-7806-0730-7 学術図書出版社

教養としてのデータサイエンス (データサイエンス入門シリーズ) ISBN: 978-4-0652-3809-7
講談社

学生に対する評価

平常点 (小テストの成績60%) と課題の成績 (40%) による。

授業科目名：情報社会論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：渡辺 剛 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>現代社会を取り巻く、ICT関連の広汎な諸問題を学問領域毎に紹介する。授業の到達目標は以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ICTとの発展の歴史的背景やICTのもたらす社会的変化を理解する 2 情報社会における経済・法律・政治・国際関係・福祉政策・経営・会計に関わる諸問題を理解する 3 情報社会におけるリテラシー・スキルの必要性を理解する 			
<p>授業の概要</p> <p>20世紀以降の情報通信技術（ICT）の発展・普及によって、今日ではコンピュータや情報通信ネットワークの利用を抜きに、経済・政治・文化・生活を議論することはできない。本講義では、ICT活用による社会変容によって生じた社会の諸問題について、様々な視点から講義をおこない、「情報社会」に多数、存在する論点について、理解し考察することを目的としている。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科目趣旨、概要説明、進め方等 <p>第2回：第二回：技術発展と社会の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科学技術の発展が社会の変化に与えた影響 <p>第3回：第三回：市場・生産・消費の変容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT技術の台頭が市場の様相、生産形態、消費行動に与えた影響 <p>第4回：コンピュータと情報技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎理論/アルゴリズムとプログラミング、コンピュータ/システム構成要素、・ソフトウェア / ハードウェア <p>第5回：通信技術とインターネット</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネットワークの仕組み、通信技術、インターネットのサービス <p>第6回：メディアと情報社会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT技術の普及とメディアとの関係 <p>第7回：会計システムの発達</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PCの普及による会計のシステムや制度をとりまく変化 <p>第8回：地方政府とDX</p>			

<ul style="list-style-type: none"> ・情報社会化による電子政府・投票の動き、地方政府のあり方の変化 <p>第9回：介護・福祉とICT</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTを応用した介護・福祉の諸相 <p>第10回：情報社会と知的財産権</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知的財産を巡る法律学的諸側面 <p>第11回：情報社会におけるセキュリティ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティ技術、知的財産権/セキュリティ関連法規、ガイドライン・情報倫理 <p>第12回：認知戦争・経済安全保障</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サイバー空間を通じた認知戦争とICT分野における経済安全保障 <p>第13回：日本防衛とサイバー対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の国防における対サイバー戦の現状 <p>第14回：情報技術がもたらすビジネスの変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTがビジネスをどのように変容させてきたのか <p>第15回：情報社会をめぐる政策動向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報社会化を推進或いは規制する政策及びルールの見通し
<p>テキスト</p> <p>特に指定しない。</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>特定の書籍を指定はしないが、ITパスポート受験参考書・テキスト類に目を通しておくことを推奨する。授業内容の理解を大いに助けてくれるであろう。</p> <p>その他、各回授業で必要に応じて紹介。</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>各回の講義動画の視聴 50%</p> <p>各回に設定された課題 50%</p>

授業科目名：教育原理 (教育課程を含む)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：齋藤 智志 茂野 賢治 担当形態：複数
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 ・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。） 		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>【1】 授業のテーマ</p> <p>①教育の基礎的概念の修得：教育の基礎的概念を身につけるとともに、教育を成立させる諸要素やそれらの相互関係を理解することで、教育の本質について思考を深める。</p> <p>②教育に関する歴史と思想の理解：教育の歴史と思想に関する基礎的知識、ならびにそれに反映している多様な教育理念を身につけるとともに、それらと実際の教育や学校との関わり、ならびに歴史的経緯の中での教育や学校の変遷を理解する。</p> <p>③教育課程の意義と編成方法、ならびにカリキュラム・マネジメントの理解：学校教育における教育課程の役割・機能・意義を理解し、教育課程編成の基本原理ならびに学校独自の教育実践に即した教育課程編成の方法を身につけるとともに、教科や学年を横断してカリキュラムを把握することによって学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。</p> <p>【2】 到達目標</p> <p>①教育の基礎的概念の修得</p> <p>a) 教育や教育学の基礎的概念、ならびに教育の本質や目的を理解している。</p> <p>b) 子ども、教員、家庭、学校などの教育を成立させる諸要素、ならびにそれらの相互関係を理解している。</p> <p>②教育に関する歴史と思想の理解</p> <p>a) 家族と社会による教育の歴史、ならびに近代教育制度の成立と展開を理解している。</p> <p>b) 現代社会における教育課題を歴史的観点から理解している。</p> <p>c) 家庭や子供、ならびに学校や学習に関する教育の思想を理解している。</p> <p>d) 代表的な教育家の思想を理解している。</p> <p>③教育課程の意義と編成方法、ならびにカリキュラム・マネジメントの理解</p> <p>a) 『学習指導要領』の性格と位置づけ、改訂の歴史と主たる改訂内容、ならびに改訂の歴史的 - 社会的背景を理解している。</p> <p>b) 教育課程編成の意義・目的や社会的機能・役割、ならびに教育課程編成の基本原理を理解しているとともに、生徒・学校・地域の実態を踏まえて、教科・領域や単元・学期・学年を横</p>			

断した、広域的 - 長期的視野から教育課程や指導計画を立てることの重要性を理解し、実際に横断的な教育内容の選択・配列の例を示すことができる。

c) 『学習指導要領』に規定するカリキュラム・マネジメントの意義や重要性、ならびにカリキュラム評価の基礎的な考え方を理解している。

授業の概要

本科目は、大きく二つの領域を学習することを目的とする。第一は、教育の理念・歴史・思想に関する領域であり、第二は教育課程およびカリキュラム・マネジメントに関する領域である。以上の目的を果たすために本授業は、(1)教育の理念や基本的概念を学ぶパート、(2)教育や学校についての歴史と思想を学ぶパート、(3)教育課程の意義や編成方法、ならびにカリキュラム・マネジメントを学ぶパートの大きく3つに分かれる。

近代最大の哲学者イマヌエル・カントは、「人間は教育されなければならない唯一の被造物である」と言った。そうだとすれば、教育の本質を考えることは、そのまま人間の本質を考えることにもつながるはずである。そして教師が人間を育てる職業である以上、教育と人間の本質を根本的に考えることは、教師としての各人の〈核〉を形成するにあたって不可欠な学びとなる。本授業の(1)と(2)は、主としてそのためになされる。

また教師になれば、日々の教育実践を遂行するために、教育課程の編成に参加しなければならない。なぜなら、教師各人が理想とする教育も、それ具体化しようとするれば、教科等の教育内容を媒介にする必要があるからである。その意味で、教育課程の理解はきわめて重要である。本授業の(3)は、主としてその点を主題とする。

なお、本科目の授業形態は基本的には講義であるが、参加者の問題意識を喚起し、深い学びを促進するために、発言を求める機会をできるだけ設ける予定である。

授業計画

【第1回】担当：齋藤 これまでの学校教育を振り返る——あなたにとって学校教育とは何であったか？：教師になろうとする者が教育に関して現時点で持つべき反省的視点を身につけるとともに、教育を成立させる諸要素（子供、教師、家庭、学校など）とそれらの相互関係について考察する。

【第2回】担当：齋藤 教育の意味と目的——教育の目的としての〈善さ〉：教育者は被教育者を〈善く〉しようとしているが、そもそも〈善い〉とは何か。この点を探究する。

【第3回】担当：齋藤 被教育者としての子ども——子ども観の変遷：思想史的な観点から、子ども観の歴史的変遷や代表的な子ども理解を学ぶ。

【第4回】担当：齋藤 パラドックスとしての教育：教育が内包する様々なパラドックスのうち、特に近代教育学におけるパラドックスを考察する。

【第5回】担当：齋藤 歴史・社会・思想の中の教育・その1——源流思想：ソクラテスの教育思想を中心に、古代ギリシアの教育の実際や理念を学ぶ。なお、第5回から第13回までは、

各時代の教育課題とそれへの応答としての教育思想を比較参照枠としながら、現代社会における教育課題の歴史的理解を深める。この回では、変化が激しく先の見通せない時代における教育的課題を考察する。

コアカリキュラム（教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想）に定める到達目標の（2）3）の内容に対応

【第6回】担当：齋藤 歴史・社会・思想の中の教育・その2——近代教育思想の源流：「近代教育の父」と称されるコメニウスの教育思想や教育実践を学ぶ。またそれを参照軸として、近代から現代に至る教育システム成立の歴史的背景と教育システムの現代的課題を考察する。

コアカリキュラム（教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想）に定める到達目標の（2）3）の内容に対応

【第7回】担当：齋藤 歴史・社会・思想の中の教育・その3——子どもの発見（前半）：教育対象としての子どもを発見したと評され、近代教育思想に大きな影響を与えたルソーの教育思想を2回にわたって学ぶ。またそれを参照軸として、教師の子ども観形成がなぜ現代の教育において重要なのかを考察する。

コアカリキュラム（教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想）に定める到達目標の（2）3）の内容に対応

【第8回】担当：齋藤 歴史・社会・思想の中の教育・その4——子どもの発見（後半）：引き続き、ルソーの教育思想を学ぶ。またそれを参照軸として、教師の子ども観が現代の教育活動に与える肯定的影響と否定的影響の両面を考察する。

コアカリキュラム（教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想）に定める到達目標の（2）3）の内容に対応

【第9回】担当：齋藤 歴史・社会・思想の中の教育・その5——学校という場での教育実践：自ら学園を運営し、近代の「科学的教育学」への道を切り開いたペスタロッチと、やはり自ら学園を運営し、最終的に幼稚園を作ったフレーベルの教育思想や実践を学ぶ。またそれを参照軸として、教育技術のどのような工夫・改善が現代の学校教育に求められているかを考察する。コアカリキュラム（教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想）に定める到達目標の（2）3）の内容に対応

【第10回】担当：齋藤 歴史・社会・思想の中の教育・その6——科学的教育学の創始：先人の教育実践に対する反省に基づいて科学的教育学を形成したと評され、日本の近代教育にも大きな影響を与えたヘルバルトの教育思想や実践を学ぶ。また、その功罪を考察したうえで、これからの教育においてその罪の方の要素をどう改善してゆくべきかを検討する。

コアカリキュラム（教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想）に定める到達目標の（2）3）の内容に対応

【第11回】担当：齋藤 歴史・社会・思想の中の教育・その7——経験の再構築としての教育：教育を実験科学と捉えるとともに、学校の民主的組織化を訴えることで、日本の近代教育に

も大きな影響を与えた、現代教育思想家の代表者であるデューイの教育思想や実践を学ぶ。また、それが日本の教育においてどこまで実現してきたかを考察したうえで、これからの教育にどのように生かすべきかを検討する。

コアカリキュラム（教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想）に定める到達目標の
（2）3）の内容に対応

【第12回】担当：齋藤 歴史・社会・思想の中の教育・その8——日本：明治・大正期の日本における西洋教育思想受容の内実、ならびに教育制度の成立と展開を学ぶ。具体的には、ヘルバルト学派やデューイの思想と実践が近代日本でどのように受容されてきたのか、その成果と問題点は何であったのか、それに対する反省から何を学び、何を今後の教育に生かすべきかといった点を、第10回・第11回の授業内容も念頭に置きながらさらに深める。

コアカリキュラム（教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想）に定める到達目標の
（2）3）の内容に対応

【第13回】担当：齋藤・茂野 『学習指導要領』の変遷と改訂：『学習指導要領』改定の歴史的・社会的背景を追いながら以下の点を学ぶことで、『学習指導要領』を有効に読み解き、活用するための視点を獲得する。その際特に、教育課程編成に着目する。

- a) 『学習指導要領』の性格・内容・位置づけ、およびそこで規定されている教育課程編成の意義と目的
- b) 『学習指導要領』の歴史的変遷と改訂の内容
- c) 新学習指導要領が生徒に求める資質・能力（生きる力）と、それを育む教育活動を可能にするために教師に求められる事項（カリキュラム・マネジメントの充実）

【第14回】担当：齋藤・茂野 教育課程編成の意義と基本原理：以下の点の学習を通して、学校での教育活動の有効な遂行を可能にする教育課程はどのように編成されるべきかを学ぶ。教育課程編成の意義と目的、社会的機能と役割

- b) 教育課程の編成主体
- c) 教育課程編成の基本原理
- d) カリキュラムの諸類型と類系ごとの特質や問題点
- e) カリキュラム概念の新たな展開

【第15回】担当：齋藤・茂野 教育課程の横断的編成とカリキュラム・マネジメント：現代の重要な教育課題として挙げられるのが〈学んだことを生かして何ができるようになるのか〉ということであるが、この点から必要となるのが教育課程の横断的編成であり、これからの教師にはそうした教育課程編成を通して教育活動の質の向上を可能にするカリキュラム・マネジメント能力がいつそう強く求められている。この回では、以下の点の学習を通して、創意工夫を凝らした教育課程編成を実行するための視点を獲得する。

- a) 生徒・学校・地域の実態を踏まえた教育課程編成の重要性
- b) 教科・領域や単元・学期・学年を横断し、広域的・長期的視野から教育課程を立てること

の重要性

- c) 横断的な教育内容の選択・配列の具体例
- d) 『学習指導要領』に規定するカリキュラム・マネジメントの意義や重要性
- e) カリキュラム評価の基礎的な考え方
- f) カリキュラム・マネジメントを教師の成長の場として捉えるという視点

【定期試験】実施しない。

テキスト

教科書：『小学校学習指導要領解説 総則編』（文部科学省）

『中学校学習指導要領解説 総則編』（文部科学省）

『高等学校学習指導要領解説 総則編』（文部科学省）

課題図書（必携）：宮口幸治『ケーキの切れない非行少年たち』、新潮新書

参考書・参考資料等

参考書：教育六法（例えば、『ハンディ 教育六法』最新年度版、北樹出版）

その他は講義中に紹介する。

学生に対する評価

あらゆる学習活動・課題を成績評価の対象とし、理解・修得・熟考・意欲の程度を見て総合的に判断する。具体的には、以下の配分とする。

- ① 初回レポート：5% ②課題図書レポート：15% ③第5回～第11回を対象とした課題：20%
- ④最終課題Ⅰ：20% ⑤最終課題Ⅱ：40%

授業科目名：教職総論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：高橋 伸明、 茂野 賢治
			担当形態：複数
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>これからの教育はAI時代に向かって大きな変革期を迎えている。21世紀のグローバル化、ICT化に対応した子供たちの様々なスキル育成に対応する必要がある。これからの教師は、これまでの不易とされてきた資質能力に加え、人生100年時代を想定して、自律的に学ぶ姿勢や時代の変化に適応していくキャリアステージに応じた資質能力の基礎を高めていく必要がある。こうした教師を育成する導入となる本科目は、現代における教職の意義、教員の役割、教員の職務内容を修得すると共に、各自が自らの教職の適性を考察する内容とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>教職へのガイダンス、教職の意義、学校教育と法、学校組織、教職員の教育活動、職務・役割、求められる資質等について考察する。（情報編集力を育成するために授業形態はアクティブ・ラーニング形式を取る。予習と授業後の振り返りを前提に、授業前半は講義・質疑、授業後半はグループ討議・発表・コメントとする。）</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：学校教育とは（講義・グループワーク・発表・コメント） 近代公教育の理念と日本国憲法・教育基本法をもとに公教育の本質を学び、学校教育の現状について考察する。我が国の今日の学校教育や教職の社会的意義について理解を促す。公教育の目的と教員の存在意義の理解も深める。</p> <p>第2回：教職の意義と使命（講義・質疑・グループワーク・発表・コメント） 法規小テスト（日本国憲法・教育基本法）、近代公教育の理念と教職の意義・使命について考察する。教職の職業的特徴を他の職業と比較しながら理解を促す。</p> <p>第3回：時代の変化と学校・教員（講義・質疑・グループワーク・発表・コメント） 21世紀を生きる子供達に必要なコンピテンシーと学校・教員の役割について考察する。教育の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割について理解を促す。</p> <p>第4回：学校の組織と運営（講義・質疑・グループワーク・発表・コメント） 現状の学校組織と運営の課題について考察し、チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性について理解を促す。</p> <p>第5回：教員の役割（講義・質疑・グループワーク・発表・コメント） 自分の出会った教師を念頭に理想の教師像を念頭に、教えの専門家・学びの専門家とは何か考察しながら</p>			

ら、今日の教員に求められる基礎的な資質能力について理解を促す。

第6回：教員の職位と服務（講義・質疑・グループワーク・発表・コメント）

法規小テスト（地方公務法）、教師の職務の特殊性と信頼される教師像について考察する。今日の教員に求められる基礎的な資質能力について再度理解を促す。

第7回：教員の職務と研修と身分保障（講義・質疑・グループワーク・発表・コメント）

法規小テスト（教育公務員特例法）、教員の職務の全体像を俯瞰しつつ、専門職としての教員の研修の意義と身分保障について考察する。これにより教員の服務上・身分上の義務について理解を促す。

第8回：組織の一員としての教員（講義・質疑・グループワーク・発表・コメント）

チーム学校の一員として子供の課題に対応することの具体ケースについて考察する。これによりチームとして組織的に諸課題に対応することの重要性について再度理解を促す。

第9回：学級担任の職務と研修の必要性（講義・質疑・グループワーク・発表・コメント）

学級経営と学級担任の役割について考える。学級の荒れや学級崩壊の実態を調べ、その原因を考察する。併せて、教員研修の必要性について理解を促す。

第10回：教員の悩みと生きがい（講義・質疑・グループワーク・発表・コメント）

法規小テスト（いじめ防止対策推進法）、教員の悩みと子供の教師に期待するもの。いじめ問題等を参考に考察する。教員研修の意義を再度理解させる。

第11回：教員のライフサイクル（講義・質疑・グループワーク・発表・コメント）

法規小テスト（学校教育法）、教員のライフサイクルと学び続ける姿勢について考察する。

第12回：教員に必要な資質と能力（講義・模擬授業・コメント）

授業づくりを通して、教員に必要な資質・能力として大切な授業力について考察する。

第13回：教員養成と教員採用の仕組み（講義・質疑）

自らの学習の在りようを振り返り今後の学習について考察する。教員採用の仕組みについて理解する。

第14回：各自の教職適性を考える（講義・模擬授業・コメント）

授業づくりを通して、教職としての適性と克服すべき課題及びその方策について考察する。改めて学校教育や教職の社会的意義について理解を深めさせる。

第15回：あるべき教員像を求めて（講義・論述）

本講座の総括として、あるべき教員像について、その理念と具体像を考察し、論述する。最後に1年間を振り返って、教職の重要性についてを軸に討論を交わす。定期試験は実施しない。

テキスト 文部科学省『学習指導要領中学校編』『学習指導要領高等学校編』

参考書・参考資料等 大学図書出版『18歳からの学びを拓く』

学生に対する評価

授業への取組姿勢（グループ討議における思考の深化など）20%、課題50%、小テスト30%を総合して評価する。論述課題に関しては、事前に評価規準としてのルーブリックを提示する。

授業科目名：教育社会学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：渡辺 恵 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>この授業のテーマは現代の学校教育に関する社会的、制度的事項に関する基礎的な知識と課題を習得することである。到達目標は、①子どもの生活環境の今日的な特徴を把握した上で、指導上の課題を理解すること、②社会的状況の変化とそれに伴う教育改革、学校の指導上の動向と課題を理解すること、③学校運営協議会や学校安全の取り組みを事例に、学校の運営や指導における地域との連携・協力の実際を理解すること、の3点である。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>学校の教育活動や運営は制度に基づき実施されている。その一方で、教育制度は社会の在りようと深く関わる。そこで、学校の教育活動や運営を方向づけ、かつ支える現行の教育制度の仕組みを学ぶ。その上で、社会の変化に伴い生じる教育課題をみていく。授業では、教育関係法規、教育行政の構造と役割といった基本的な知識を踏まえつつ、義務教育制度、「学力」に関わる教育政策、学校と地域の連携、学校安全等を取りあげ、運用における課題を検討し、その取り組みの実際について考えていく。加えて、教育社会学的な観点から、社会の変化に伴い子どもを取り巻く生活環境にどのような変化が生じているのか、その現状と指導上の課題を考えていく。なお、授業は講義形式を中心とするが、個人ワーク（事前課題を含む）やそれらを基にしたグループでの意見交換も行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：公教育制度の理念／ガイダンス 授業のガイダンス及び公教育制度の成立を踏まえつつ、公教育の原理と理念について学ぶ。</p> <p>第2回：教育関係法規 教育関係法規には、どのようなものがあるのか。また、主要な法規を読み解きながら、学校の営みとどのように関わるのかを学ぶ。</p> <p>第3回：教育行政の仕組みと役割 教育行政がどのような仕組みからなり、どのような役割を持つのかを学ぶ。その上で、学校の営みに対する教育行政の関わりとそこでの課題を検討する。</p> <p>第4回：教育制度にみる「学校」 教育法規上の位置づけ学びつつ、何を「学校」と捉えるか、その要素を考える。また、「学校」の設置者や高等学校の教育課程等の基本的な知識を把握する。</p> <p>第5回：義務教育制度 義務教育制度の理念と運用のされ方を学び、今日の義務教育制度の意義と課題を学ぶ。</p>			

第6回：義務教育の教育機会を失う子ども

不登校や外国籍の子どもの教育の現状と問題点を知る。

第7回：多様な学びの場

「学校」以外における学び場の特徴と課題を学ぶ。

第8回：「学力」

学校が伝達する「学力」とはどのようなものなのか。どのような能力や資質を学校は評価してきているのかを考える。

第9回：学校の組織と運営

学校運営の構造と職制に関する基本的な知識を踏まえつつ、学校運営における地域との連携・協働が行われている学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）の仕組み、意義や課題について学ぶ。

第10回：学校と地域との連携-地域学校協働活動

地域を拠点とした学校教育への連携・協働を支える仕組みを学びつつ、地域との連携が学校教育活動にもたらす効果と課題を学ぶ。

第11回：学校安全①

学校管理下における事故の現状について把握するとともに、学校安全に関わる法規や指針からその目的を理解し、学校安全に向けた体制について学ぶ。

第12回：学校安全②

学校安全計画や安全教育に関わる基本的な知識を学ぶ。その上で、安全教育の取り組み事例を検討する。

第13回：子どもを取り巻く環境①-子どもの生活状況-

子育て家庭の今日的な特徴と子どもの生活状況を把握しそこでの教育的課題を考えていく。

第14回：子どもを取り巻く環境②-家庭における困難さを抱える子どもを考える-

家庭における困難さを抱える子どもの生活状況に焦点を当て、子どもの成長・発達における課題と、学校・教師の対応を考える。

第15回：まとめと評価

試験と解説を通して、総括する。

テキスト

授業時に資料を配布またはユニパの「授業資料」にファイルをアップする。

参考書・参考資料等

- ・久富善之・長谷川裕編『教育社会学』学文社
- ・志水宏吉監修 若槻健・西田芳正編『教育社会学への招待』大阪大学出版会
- ・岩井八郎・近藤博之編『現代教育社会学』有斐閣
- ・川口洋誉・中山弘之編著『改訂版 未来を創る教育制度論』北樹出版

学生に対する評価

平常点（事前課題及び授業後確認問題）：30%、試験：70%

授業科目名：教育心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：下島 裕美 担当形態：単独
科目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>《一般目標(GIO)》</p> <p>幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。</p> <p>《個別目標(SBOs)》</p> <p>①幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解している。</p> <p>②乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を理解している。</p> <p>③様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解している。</p> <p>④主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解している。</p> <p>⑤幼児、児童及び生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解している。</p>			
<p>授業の概要 教育には人間の理解が必要である。本講義では、人間の発達の特徴や学習に関する基礎的な理論、「やる気」になるメカニズム、対人関係のメカニズムについて理解することを通じて、受講者それぞれに教育のあり方について考えてもらいたい。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：教育心理学とは 教育心理学の役割と意義について学ぶ。</p> <p>第2回：発達のしくみと道筋 人間の心とからだはどのように変化していくのか学ぶ。</p> <p>第3回：認知の発達 考える力はどのように育つのか学ぶ。</p> <p>第4回：知能検査と発達障害 知能の測定方法と発達障害について学ぶ。</p> <p>第5回：人間関係と社会性の発達 子どもは人間関係のなかでどのように成長するか学ぶ。</p> <p>第6回：条件づけと観察学習</p>			

<p>子どもの行動はどうやって身につくか学ぶ。</p> <p>第7回：記憶と思考</p> <p>知識をしっかりと身につけるにはどうすればよいか学ぶ。</p> <p>第8回：動機づけ</p> <p>意欲を高めるにはどうすればよいか学ぶ。</p> <p>第9回：学習指導</p> <p>児童生徒の学びをどのように導けばよいか学ぶ。</p> <p>第10回：教育評価</p> <p>児童生徒をどのように評価すればよいか学ぶ。</p> <p>第11回：学級集団</p> <p>クラスはどのようにしてまとまるか学ぶ。</p> <p>第12回：自己とパーソナリティ</p> <p>自分らしさとは何か学ぶ。</p> <p>第13回：学校不適応</p> <p>子どもの不適応をどう理解し対応すればよいか学ぶ。</p> <p>第14回：まとめ1</p> <p>第15回：まとめ2</p>
<p>テキスト</p> <p>実践につながる教育心理学(改訂版) (黒田祐二／編著、北樹出版)</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>授業中に適宜資料を配布する。</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>授業内課題(60%)、最終レポート(40%)</p>

授業科目名：特別支援教育論	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：田中 顕一 担当形態：単独
科目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
<p>授業のテーマ及び到達目標：</p> <p>【1】 授業のテーマ</p> <p>①特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の理解：特別支援教育に関わる「障害」という概念の学びを通して、対象児の障害の特性や心身の発達の視点から理解する。</p> <p>②特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の教育課程及び支援の方法の理解：特別の支援を必要とする対象児に対する教育課程や支援の方法を、「合理的配慮」の視点を踏まえた具体的な事例を通して理解する。</p> <p>③障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援の理解：対象児の社会的な背景を理解するとともに、学習上又は生活上の困難とその対応について具体例を通して理解する。</p> <p>【2】 到達目標</p> <p>①特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の理解</p> <p>a) 「障害」という概念の歴史的な変遷や諸外国の特別支援教育の現状を踏まえ、インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解している。</p> <p>b) 保育園や幼稚園、通常の学級に在籍する発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心理面、学習面、行動面の特性や学習の過程を療育や教育の現場での具体例を通して理解している。</p> <p>c) 視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難について、「障害者差別解消法」の趣旨や「合理的配慮」の視点を踏まえた具体的内容を通して、基礎的な知識を身に付けている。</p> <p>②特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の教育課程及び支援の方法の理解</p> <p>a) 保育園や幼稚園、通常の学級に在籍する発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法について、実際の指導場面での現状を学び、障害種等に対応した例示をすることができる。</p> <p>b) 「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容を、「合理的配慮」を踏まえた実際の指導場面での現状を学ぶことによって、理解している。</p> <p>c) 特別支援教育に関する教育課程の枠組みを小学校、中学校、高等学校の学習指導要領と特別支援学校学習指導要領とを比較検討する学習を通して、個に配慮した個別の指導計画の必要性や合わせて作成する個別の教育支援計画について、作成意義と方法を理解している。</p> <p>d) 特別支援教育コーディネーター、関係機関や家庭と連携しながら支援体制を構築すること</p>			

の必要性を、「合理的配慮」を踏まえた実際の指導場面での現状を学ぶことによって、理解している。

③障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援の理解

- a) 外国籍や母国語、貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒が存在する現実を実際の指導場面での現状を学ぶことによって、学習上又は生活上の困難や組織的対応の必要性を理解している。

授業の概要：

特別の支援や配慮を必要としている幼児、児童、生徒のための教育である特別支援教育について概説し、発達支援について合理的配慮を踏まえ講述する。次に、特別の支援や配慮について心理面、学習面、行動面から講述する。また、障害種別の教育的対応や学校保健活動について事例を紹介する中で具体的に講義を進める。実際に2次的障害からいじめや不登校になった事例や養護教諭として必要な保健室経営、養護教諭の役割、病気の子どもへの対応など対象児への具体的な支援や配慮について紹介する中で、学校教育の果たすべき役割について講述する。さらに、特別支援教育の指導内容について、教育の場、就学の場、関係機関の連携についての理解を深めながら、教育課程の編成課程を通して詳述する。一方、就学前の教育支援や卒業後の生活や就労について、障害の気づきや余暇活動の取組を紹介する中で講述する。最後に、外国籍、母国語、貧困の問題等を抱えて義務教育を受けている実態について講述する。全般的には講義、グループワークが中心になるが演習や発表なども適宜行っていく。特に、特別支援教育にあっては、「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」の作成は必須の事項であるので、受講者一人ひとりが作成できるように授業を行う。

授業計画

第1回：障害とは？（人権と教育、新しい障害観、インクルーシブ教育システム）

「障害」という概念の歴史的変遷を踏まえ、新しい障害観を学び、インクルーシブ教育システム、特に、域内の教育資源の組み合わせ（スクールクラスター）の現状と課題を考察する。（授業形態：講義、グループワーク、質疑応答）

第2回：特別支援教育の歴史と制度（歴史的展開、諸外国及び日本の制度）

明治期からの現代までの特別支援教育（特殊教育）を概観するとともに、現代の諸外国の制度や国内の関係する法令について学ぶ。（授業形態：講義、グループワーク、質疑応答）

第3回：特別の配慮を必要とする幼児、児童、生徒の学習や行動の特性について（心理面、学習面、行動面）

対象児の心理的特性、学習面の特性、行動面の特性を明らかにし、その対応方法の基礎を学ぶ。（授業形態：講義、グループワーク、質疑応答）

第4回：特別の配慮を必要とする幼児、児童、生徒の学習や行動の特性について（実践例）

対象児の心理面、学習面、行動面の特性の理解を踏まえ、療育や教育の現場での実

- 践例を示し、その対応方法を学ぶ。(授業形態：講義、グループワーク、質疑応答)
- 第5回：視覚障害児教育の理解と教育的対応-安心して生活ができる学校教育の在り方-
視覚障害児の特性を学ぶとともに、療育や教育の現場での実践例を示し、その対応方法を学ぶ。(授業形態：講義、グループワーク、質疑応答)
- 第6回：聴覚障害児教育の理解と教育的対応-安心して生活ができる学校教育の在り方-
聴覚障害児の特性を学ぶとともに、療育や教育の現場での実践例を示し、その対応方法を学ぶ。(授業形態：講義、グループワーク、質疑応答)
- 第7回：肢体不自由児教育の理解と教育的対応-安心して生活ができる学校教育の在り方-
肢体不自由児の特性を学ぶとともに、療育や教育の現場での実践例を示し、その対応方法を学ぶ。(授業形態：講義、グループワーク、質疑応答)
- 第8回：病弱・虚弱児教育の理解と教育的対応-安心して生活ができる学校教育の在り方-
病弱・虚弱児の特性を学ぶとともに、療育や教育の現場での実践例を示し、その対応方法を学ぶ。(授業形態：講義、グループワーク、質疑応答)
- 第9回：発達障害児教育の理解と教育的対応-安心して生活ができる学校教育の在り方-
発達障害児の特性を学ぶとともに、療育や教育の現場での実践例を示し、その対応方法を学ぶ。(授業形態：講義、グループワーク、質疑応答)
- 第10回：教育課程の編成（学習指導要領の内容、就学基準、通級による指導、自立活動）
特別支援教育に関わる学習指導要領の概説し、その内容、就学の基準、通級による指導、自立活動などを学ぶ。(授業形態：講義、グループワーク、質疑応答)
- 第11回：教育課程の編成（個別の指導計画の作成、個別の教育支援計画の作成）
個別の指導計画と個別の教育支援計画の違いを理解する。また、作成上参考となる「合理的配慮」の内容を理解し、それぞれの計画を実際に作成する。(授業形態：講義、グループワーク、質疑応答、レポート作成)
- 第12回：学校、保護者、関係機関との連携を踏まえた支援の在り方
特別支援教育を進める上で特に必要とされる関係機関等との連携について、特別支援コーディネーターの仕事内容を理解する中で学ぶとともに、「虐待」の事例を通して連携の重要性を学ぶ。(授業形態：講義、グループワーク、質疑応答)
- 第13回：障害児保育と障害者の生活と就労
就学前と卒業後の対象児の姿を保育と就労の視点（障害の気づき、早期教育、早期療育、障害受容、一般就労、福祉就労、地域生活、余暇活動）から学ぶ。(授業形態：講義、グループワーク、質疑応答)
- 第14回：病気や障害のある児童、生徒に対する保健室からのアプローチと協働での支援
病気や障害のある児童、生徒にかかわる学校保健活動や保健室経営の概要、養護教諭の役割を理解する。その上で、学校内外の関係者が協働で支援するための方法について事例を通して考える。(授業形態：講義、グループワーク、質疑応答)
- 第15回：外国籍、貧困の問題等により特別の教育ニーズのある幼児、児童、生徒の教育支援

外国籍や母国語、貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒が存在する現実を学ぶ。また、対象児の学習上又は生活上の困難を理解するとともに、課題解決のための組織的対応の必要性を学ぶ。(授業形態：講義、グループワーク、質疑応答)

定期試験

テキスト

- ①特別支援学校学習指導要領解説総則等編（文部科学省）
- ②特別支援学校学習指導要領解説自立活動編（文部科学省）
- ③生徒指導提要（文部科学省）

参考書・参考資料等

- 「新しい教育課程と学習活動Q&A」全国特別支援学校知的障害教育校長会編著（東洋館出版）
- 「自閉症スペクトラム児・者の理解と支援」日本自閉症スペクトラム学会編（教育出版）
- 「ICF国際生活機能分類」世界保健機関（中央法規）

学生に対する評価

レポート（個別の指導計画及び個別の教育支援計画の作成等）（100%）

授業科目名：総合的な学習の時間の指導法／総合的な探究の時間の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：渡辺 恵
			担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	総合的な学習（探究）の時間の指導法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>①総合的な学習の時間の教育課程における位置づけを理解する。②学校現場で実施されている授業実践について知り、その実現のための基礎的能力を身に付ける。③総合的な学習の授業計画と運営ができる。の3点である。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>総合的な学習（探究）の時間における横断的・総合的な学習や児童生徒の興味・関心等に基づいた教育活動の展開に必要な基礎知識を学ぶ。総合的な学習に関する学習材開発・カリキュラム開発やその実施の中で、よく指摘されている課題を概観し、具体的な解決の方策を探究する。また、様々な先進校の事例を分析しながら、実際のカリキュラム開発や学習展開の実際を検討していく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：「総合的な学習の時間」の意義と原理【講義・質疑応答】 小・中学校における総合的な学習の時間の導入の背景を踏まえ、そのねらいと意義、評価の考え方について学ぶ。</p> <p>第2回：「総合的な探究の時間」の意義と原理【講義・質疑応答】 新学習指導要領の改訂を踏まえ、高等学校における総合的な探究の時間の変更点、及びそのねらいと意義、評価の考え方について学ぶ。</p> <p>第3回：「総合的な学習（探究）の時間」の現状と課題【事例検討及びグループでの意見交換】 各自の経験を振り返り、各学校の取り組みを検討する。総合的な学習の時間の意義についての理解を深めるとともに、課題を把握する。</p> <p>第4回：「総合的な学習（探究）の時間」の指導方法【講義・質疑応答】 指導計画作成に向けて、指導の考え方や手法について学ぶ。</p> <p>第5回：「総合的な学習（探究）の時間」の指導計画作成（1）【事例検討及びグループでの意見交換】 指導計画の事例を調べたものをもとに、テーマ設定が学校や地域の実態をどのように関連しているか、また、指導内容が他教科等とどのように関連しているかを学ぶ。</p> <p>第6回：「総合的な学習（探究）の時間」の指導計画作成（2）【グループワーク】 指導計画作成を通じて、総合的な学習の時間に育成する資質・能力及び評価基準とその方法を検討する。</p>			

<p>第7回：「総合的な学習（探究）の時間」の指導計画作成(3)【グループワーク】</p> <p>「課題の設定」、「情報の収集」、「整理・分析」、「まとめ・表現」に応じた学習の過程を検討する。</p> <p>第8回：「総合的な学習（探究）の時間」のまとめ－実践上の留意点の検討【グループ発表】</p> <p>第5回から7回で作成した単元計画の内容を発表し合い、実践上の留意点を検討するとともに、これまでの講義内容を総括する。</p> <p>定期試験は実施しない。</p>
<p>テキスト</p> <p>特に指定しない。必要に応じて印刷資料を配付する。</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編 文部科学省 ・ 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編 文部科学省 ・ 高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総合的な探究の時間編 文部科学省 <p>『[解説] 実践 総合的な学習の時間の指導法』美谷島正義、和田孝代表著者 開隆</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>授業時の個人課題(60%)およびグループ課題 (40%)</p>

授業科目名：特別活動 指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：山中 洋介 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別活動の指導法		
<p>【授業のテーマ】 学習指導要領における特別活動が集団活動であることから、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の3観点をおさえて学校がチームとして、組織立って取り組む意義とその実践的な指導方を習得する。</p> <p>【到達目標】 ①特別活動における集団活動を通して、人間関係形成上必要な協調性や協働の意義を理解している。 ②教育課程上の特別活動と道徳・各教科・総合的な学習との時間との関連を通して深く学び、自己実現を図る意義を理解している。 ③特別活動における各活動・諸行事を通して、自主性の醸成や社会参画への意識を理解している。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>特別活動は実践的な集団活動や体験的な活動を通して豊かな人間性を育み、良好な人間関係の上に成り立つ学校生活を築き、チームとして組織的に活動する上で公共の精神や社会性を育てていくものである。特によりよい人間関係を築く力、社会に参画する態度や自主性と自らの判断に基づく自治的能力の育成を重視するものである。そのために、学校が組織的且つ計画的に進めていく過程で、教師としてどのように集団活動を支援していくかという理解を深めつつ講義を進めていく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：特別活動はどんな学習活動か（講義・ワークシート記入・質疑応答・演習） 【特別活動における集団活動の特質や学習形態・展開方法について学ぶ】</p> <p>第2回：特別活動の教育上の特性（講義・ワークシート記入・質疑応答・演習） 【特別活動の歴史的変遷と今後の学校教育における特別活動の特質について学ぶ】</p> <p>第3回：特別活動の目標と主な内容（講義・ワークシート記入・質疑応答・演習） 【特別活動の目標と学級（ホームルーム）活動・児童（生徒）会活動・クラブ活動・学校行事等について学ぶ】</p> <p>第4回：特別活動と教育課程上の位置づけ（講義・ワークシート記入・第1回復習確認小(RQ)テスト） 【各教科・道徳・外国語活動・総合的な学習の時間と特別活動との関係について学ぶ】</p> <p>第5回：特別活動で教師に求められる力量（講義・ワークシート記入・質疑応答・演習） 【特別活動における教師の指導としての諸活動と技法について学ぶ】</p> <p>第6回：特別活動と学級経営一学級集団の心理学（講義・ワークシート記入・質疑応答・演習） 【特別活動の学級活動における集団作りについて学ぶ】</p>			

第7回：特別活動の全体計画と指導計画（講義・ワークシート記入・第2回復習確認小(RQ)テスト)

【小・中学校における特別活動の全体計画と年間指導計画について学ぶ】

第8回：学級活動・ホームルーム（講義・ワークシート記入・質疑応答・演習）

【小学校・中学校における学級活動の目標・学習過程・内容・指導計画と高等学校のホームルーム活動について学ぶ】

第9回：学級活動の指導の実際（講義・ワークシート記入・質疑応答・演習）

【小学校学級活動における学級会・学年オリエンテーション、中学校学級活動におけるクラス会議・キャリア教育と荒れの見られる集団で行う学級活動の指導のポイントについて学ぶ】

第10回：児童会・生徒会活動（講義・ワークシート記入・第3回復習確認小(RQ)テスト）

【生徒会活動の成立と展開、目標と内容、指導計画、指導の注意点について学ぶ】

第11回：児童会・生徒会活動の指導の実際（講義・ワークシート記入・質疑応答・演習）

【児童会活動の指導計画・指導内容・指導の実際と荒れの見られる集団で行う児童会活動の指導のポイント、生徒会活動の指導計画・指導内容・指導の実際と荒れの見られる集団で行う生徒会活動の指導のポイントについて学ぶ】

第12回：学校行事（講義・ワークシート記入・第4回復習確認小(RQ)テスト）

【学校行事の目標学習過程、学校行事の内容、学校行事の指導計画における考え方について学ぶ】

第13回：学校行事の指導の実際（講義・ワークシート記入・質疑応答・演習）

【学校行事の指導のポイントと指導事例（文化的行事）、荒れの見られる集団で行う学校行事の指導のポイントについて学ぶ】

第14回：特別活動における評価（講義・ワークシート記入・質疑応答）

【特別活動における評価の意義、評価の方法、評価の具体について学ぶ】

第15回：特別活動の総合的なまとめ（講義・ワークシート記入・質疑応答・まとめテスト）

【特別活動に関して総合的に振り返る】

テキスト

河村 茂雄（編著）『特別活動の理論と実際』（図書文化、2018年10月1日）

参考書・参考資料等

「小学校学習指導要領解説 特別活動編」「中学校学習指導要領解説 特別活動編」「高等学校学習指導要領解説 特別活動編」文部科学省、教育小六法（出版社は問わない）

学生に対する評価

①まとめテスト50%、ワークシート20%、復習確認小(RQ)テスト30%

授業科目名：教育の方法・技術	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：小林 輝美 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>【授業のテーマ】 これからの社会を担う子どもを育てる授業と学びのデザイン</p> <p>【到達目標】 (1) これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解する。 (2) 教育の目的に適した指導技術を理解し、身に付ける。 (3) 情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付ける。</p>			
<p>【授業の概要】 本授業では、教育方法の基礎的理論と実践を理解し、主体的・対話的で深い学び、個別最適な学び、協働的な学びを実現に向けた授業設計にかかわる基本的な考え方を学び、授業場面での指導技術を身に付ける。また、ICT（情報通信技術）の効果的な活用や情報社会の中で学び続ける力の育成方法を学ぶ。</p>			
<p>【授業計画】</p> <p>第1回：これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力</p> <p>第2回：学習指導案作成 (1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業デザインの基礎 ・目標と評価と指導の関係 ・学習環境のデザイン <p>第3回：学習指導案作成 (2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習目標の設定 ・教材研究 <p>第4回：学習指導案作成 (3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善 ・学習評価 <p>第5回：学習指導案作成 (4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した授業、教材作成 ・教科横断的な情報活用能力の育成 			

第6回：話法・板書など、基礎的な指導技術

第7回：学習指導案作成(5)

・基礎的な学習指導理論を踏まえた、適切な学習指導案の作成

第8回：模擬授業・研究授業の実施と改善

定期試験の実施なし

テキスト

稲垣忠編著(2022)『教育の方法と技術 Ver.2 ～IDとICTでつくる主体的・対話的で深い学び』

北大路書房

参考書・参考資料等

『中学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省)』

『高等学校学習指導要領(平成30年3月告示 文部科学省)』

その他、適宜、提示する。

学生に対する評価

課題：70%

学期末レポート：15%

平常点：15%(議論、発表に対する貢献度)

授業科目名：ICT活用の 理論と実践	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：小林 輝美 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等 に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
【授業のテーマ】 教育の情報化の過去・現在・未来を、理論と実践の両面から理解・探求する			
【到達目標】 (1) 情報通信技術の活用の意義と理論を理解する。 (2) 情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方について理解する。 (3) 児童及び生徒に情報活用能力を育成するための基礎的な指導法を身に付ける。			
【授業の概要】 教育現場におけるICT（情報通信技術）の活用について、その歴史的経緯、現状、今後の方向性を理解し、授業における児童生徒および教員によるICT活用の他、授業の準備、学習評価に関する活用、校務における活用や教育データの活用について学ぶ。また、情報社会を生きていくための資質・能力である情報活用能力について、その構成要素および具体的な指導法、教育課程上の位置づけについて理解し、学生自身が各種ICT機器、環境を活用し、体験的に学修する機会を設けることを基本とする。			
【授業計画】 第1回：現代社会におけるICT活用の意義 第2回：教員のICT活用指導力、児童生徒によるICT活用、ICT支援員など外部人材の活用、学校におけるICT環境の整備 第3回：遠隔・オンライン教育の技術と方法、先端技術とデジタルコンテンツの活用 第4回：主体的・対話的で深い学び、個別最適な学び、協働的な学びの実現に向けた学習場面に応じたICTの活用 第5回：特別支援教育におけるICT活用 第6回：教科横断的な情報活用能力・情報モラルの育成、情報セキュリティの重要性の理解 第7回：情報活用能力を育成するための指導技術 第8回：校務の情報化の推進、教育データの活用 定期試験の実施なし			
テキスト 『中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）』 『高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）』			

参考書・参考資料等

稲垣忠・佐藤和紀編著(2021)『ICT活用の理論と実践』北大路書房
その他、適宜、提示する。

学生に対する評価

課題： 70%

学期末レポート： 15%

平常点： 15%（議論、発表に対する貢献度）

授業科目名：生徒指導 論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：山中 洋介 担当形態：単独
科 目	【中高】 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	生徒指導の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>【授業のテーマ】</p> <p>生徒指導は、児童・生徒一人ひとりの人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めるための教育活動であり、組織的に生徒指導を進める意義を理解し、必要な知識・技術や素養を習得する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①教育課程上の生徒指導の位置づけと各教科、道徳教育、総合的な学習の時間、特別活動との関連の重要性を理解している。</p> <p>②生徒指導体制と教育相談体制において、年間計画に基づいた組織的な集団指導・個別指導の基礎的な方法原理を理解している。</p> <p>③教員として、基本的な生活習慣の確立や規範意識の醸成を図り、児童生徒の自己肯定感を育成できるような場や機会の設定の在り方を理解している。</p> <p>④校則、懲罰、体罰等の生徒指導に関する主な法令の内容を理解し、暴力行為、SNS等の使用を含めたいじめ、不登校等の生徒指導上の対応に向けた専門家や関係機関との連携の在り方を示すことができる。</p>			
授業の概要			
<p>生徒指導は、一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら社会的資質や行動力を高めることを目指す上で、教師として身につけておくことが望ましい資質、能力、技能にはどんな内容があるのか、について実践事例を多く取り入れながら講義を進めていく。</p>			
授業計画			
<p>第1回：生徒指導の意義と教育課程との関連（講義・質疑応答・ワークシート）</p> <p>【生徒指導の歴史的経過と意義、教育課程との関連について学ぶ】</p> <p>第2回：教育課程上の各教科・領域と生徒指導との関連（講義・質疑応答・ワークシート）</p> <p>【各教科・道徳・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導について学ぶ】</p> <p>第3回：児童生徒理解における生徒指導（講義・質疑応答・ワークシート・第1回復習小テスト）</p> <p>【子どもの発達に応じた生活習慣の確立や規範意識の醸成に向けた集団指導・個別指導と教育相談の形態について学ぶ】</p> <p>第4回：学校における生徒指導体制（講義・質疑応答・ワークシート）</p>			

<p>【児童生徒への共感的理解から自己存在感を醸成する指導に向けた学校での組織的な取り組みとその機能、年間指導計画の作成と評価について学ぶ】</p> <p>第5回：いじめに対する生徒指導の現状と課題（講義・質疑応答・ワークシート・ 第2回復習小テスト）</p> <p>【暴力行為やSNSに関係するいじめや性被害、児童虐待に対応した関係機関等と連携する生徒指導について学ぶ】</p> <p>第6回：不登校に対する生徒指導（講義・質疑応答・ワークシート）</p> <p>【不登校に関する要因や不登校に対応した生徒指導について学ぶ】</p> <p>第7回：校則・体罰・出席停止について（講義・質疑応答・ワークシート）</p> <p>【校則・体罰・出席停止に関する法的根拠を理解し、児童生徒やその保護者とのかかわり方について学ぶ】</p> <p>第8回：生徒指導の総合的なまとめ（講義・質疑応答・ワークシート・まとめテスト）</p> <p>【生徒指導に関して総合的に振り返る】</p>
<p>テキスト</p> <p>林尚示・伊藤秀樹（編著）教師のための教育学シリーズ10『生徒指導・進路指導 理論と方法』（学文社、2016年10月10日）</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>「生徒指導提要」（文部科学省）文部科学省、教育小六法（出版社は問わない）</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>まとめテスト（50%）ワークシート（20%）復習確認小テスト(2回)（20%）</p> <p>授業に対する参加姿勢（10%）</p>

授業科目名：教育相談 (カウンセリングを含む)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：島田 正亮
			担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>①教育相談の歴史や背景・理論の基本が理解できる。</p> <p>②児童生徒を支援するために必要なカウンセリングの基礎的知識が理解できる。</p> <p>③教職員間、関係者間での協働的支援の必要性や組織的支援体制の構築について理解できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>教育相談は、児童生徒が自己理解を深めたり、好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。児童生徒個々人の心理的特質や教育的課題を的確に把握するとともに、児童生徒個々人に適したかかわりを行うために必要な、カウンセリングを含む基礎的知識と支援力を修得する。そのため、講義形式のみではなく、学校での実態にも触れながら、実践的な演習形式の授業を積極的に取り入れる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス／受講生の持つ教育相談のイメージについて 【授業の進め方についてのガイダンスを前半に行う。後半は、受講生が現時点で教育相談についてどのようなイメージを持っているかについてグループで話し合い、クラスで共有する】</p> <p>第2回：教育相談の歴史、役割、意義について 【教育相談の歴史や教育相談の役割、対象と方法、教育相談の意義について理解する】</p> <p>第3回：カウンセリングと教育相談 【カウンセリングについて概説するとともに、学校におけるカウンセリング的アプローチの意義やスクールカウンセラーの役割について理解する】</p> <p>第4回：校内における効果的な支援のために必要なグループ力（チーム力）を高めるワーク 【グループとしての力が十分に発揮できる関係性を築くことを目的としたワークを行う。相手を尊重するカウンセリング的態度の必要性に気づくとともに、他者を共感的に理解した上で、お互いに協力し合えるようになることを目指す】</p> <p>第5回：相手の話を聴く体験・話を聴いてもらえない体験 【ペアになり、相手の話を聴く体験（傾聴体験）を行う。次に、相手に話を聴いてもらえない設定でワークを行う。両ワークがどのような体験であったか、ペアで振り返るとともに、クラスで共有する】</p>			

第6回：学級経営と教育相談

【いじめの架空事例をもとに、学級という集団で起こり得る事態を把握するとともに、その集団に対してどのようなアプローチが求められるかについて、小グループで議論し、クラスで共有する】

第7回：不登校と教育相談

【不登校の架空事例をもとに、各グループで対処法を検討し、クラスで共有する。その後、不登校を理解するためのポイントと支援の方法について解説する】

第8回：児童虐待と教育相談

【児童虐待の基礎的知識や近年傾向について解説する。校内で児童虐待のサインをキャッチするために必要なポイントと、発見した際の対処法について実践的に理解する】

第9回：児童虐待を受けた方の経験から学ぶ

【児童虐待を受けた方が自らの経験について語ったVTRを視聴する。そこから感じたこと、考えたこと、学んだことについて、小グループで話し合う。その後、クラスで共有し、議論する】

第10回：特別支援教育と教育相談

【特別支援教育の変遷と意義について理解する。発達障害等を抱えた児童生徒に対する校内支援について解説するとともに、就学相談についても解説する】

第11回：発達障害を抱えた方の経験から学ぶ

【発達障害を抱えた方が自らの経験について語ったVTRを視聴する。そこから感じたこと、考えたこと、学んだことについて、小グループで話し合う。その後、クラスで共有し、議論する】

第12回：保護者への支援と教育相談

【見えにくい保護者の悩みや子育ての葛藤について理解する。また、保護者に対して教員として求められる支援や、専門機関への適切な連携等について解説する】

第13回：学校における教育相談システムについて

【校内における教育相談システムの構築やその活用方法について理解する。また校外（地域）との連携の必要性についても触れる。効果的に教育相談活動を行うためのチーム力についても解説する】

第14回：教育相談活動における関係諸機関との連携

【教育相談室、児童相談所、子ども家庭支援センター、療育機関、医療機関などの地域資源について理解する。それぞれの専門機関の役割や適切な連携の方法について実践例を交えて解説する】

第15回：事例検討

【架空事例をもとに、小グループで事例検討を行う。これまで学んだ知識、経験を活用し、事例をアセスメントするとともに、児童生徒へのかかわりや校内支援体制について検討する】

定期試験**テキスト**

適宜プリントを配布する。

参考書・参考資料等

- ・前川あさ美編著 子どものこころの支援 連携・協働ワークブック 金子書房 2011年
- ・春日井敏之・伊藤美奈子編 よくわかる教育相談 ミネルヴァ書房 2011年
- ・会沢信彦・安齊順子編著 教師のたまごのための教育相談 北樹出版 2010年

学生に対する評価

授業への取り組み姿勢 (15%) 課題・レポート (15%) 定期試験 (70%)

授業科目名：進路指導 論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：山中 洋介 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
<p>【授業のテーマ】</p> <p>進路指導は、児童・生徒一人ひとりが将来の進路を選択・計画し、自らの生き方が充実できるよう教員が組織的・継続的に指導・援助する長期的展望に立った人間形成を目指す教育活動であることを理解し社会的・職業的自立に向け、キャリア教育の視点に立って授業改善や体験活動・評価改善の推進やガイダンス・カウンセリングの充実に向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を習得する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①教育課程における進路指導・キャリア教育の位置付けを理解し、教育活動全体を通じたキャリア教育の視点と指導の在り方を例示することができ、組織的な指導体制の中で家庭や関係諸機関との連携の在り方を理解する。</p> <p>②職業に関する体験活動を核として、キャリア教育の視点に立ったカリキュラム・マネジメントの意義や全体指導を行うガイダンスの機能を生かした進路指導・キャリア教育の意義を理解する。</p> <p>③生涯を通じたキャリア形成の視点に立った自己評価の意義を理解し、ポートフォリオの活用の在り方を例示することができ、キャリア・カウンセリングの基礎的な考え方と実践方法を説明することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>進路指導は、キャリア教育の一環として一人ひとりが就学前から取り組むことで就業に向けての道筋を考えるとという生き方教育の指導であり、就業後も充実した生活を過ごすことができるよう基本的な知識や様々な体験を通して児童・生徒に身に付けさせていくことが重要であることを理解すべく講義を進めていく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：進路指導・キャリア教育の意義と原理Ⅰ（講義・質疑応答・ワークシート） 【教育課程上の進路指導・キャリア教育の意義と原理について学ぶ】</p> <p>第2回：進路指導・キャリア教育の意義と原理Ⅱ（講義・質疑応答・ワークシート） 【小学校でのキャリア教育、中学校・高校でのキャリア教育・進路指導の組織的な取り組みと家庭・関係機関等との連携について学ぶ】</p> <p>第3回：児童生徒の「やりたいこと」と進路指導Ⅰ（講義・質疑応答・ワークシート） 【児童生徒の「やりたい職業」から具体的な体験活動を通し、キャリア教育の視点をもったカリキュラム・マネジメントの意義について学ぶ】</p>			

<p>第4回：児童生徒の「やりたいこと」と進路指導Ⅱ（講義・質疑応答・ワークシート）</p> <p>【さまざまな生徒に向け、ガイダンス機能を生かした全体指導による進路指導・キャリア教育の意義や留意点について学ぶ】</p> <p>第5回：進路指導・キャリア教育におけるキャリアプランⅠ（講義・質疑応答・ワークシート）</p> <p>【生涯を通じたキャリア形成の視点から自己評価の意義を理解し、ポートフォリオを活用したキャリアプランの作成について学ぶ】</p> <p>第6回：進路指導・キャリア教育におけるキャリアプランⅡ（講義・質疑応答・ワークシート・）</p> <p>【キャリア・カウンセリングを生かしたキャリアプランの作成に向けた実践的な手法を学ぶ】</p> <p>第7回：キャリア・カウンセリングと現代の労働問題（講義・質疑応答・ワークシート）</p> <p>【キャリア・カウンセリングを通して現代における労働問題について学ぶ】</p> <p>第8回：進路指導・キャリア教育の総合的なまとめ（講義・質疑応答・ワークシート・まとめテスト）</p> <p>【進路指導・キャリア教育に関して総合的に振り返る】</p> <p>定期試験は実施しない。</p>
<p>テキスト</p> <p>林尚示・伊藤秀樹（編著）教師のための教育学シリーズ10『生徒指導・進路指導 理論と方法』（学文社、2016年10月10日）</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>「小学校キャリア教育の手引き」「中学校キャリア教育の手引き」「高等学校キャリア教育の手引き」（文部科学省）文部科学省、教育小六法（出版社は問わない）</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>まとめテスト（60%）ワークシート（30%）</p> <p>授業に対する参加姿勢（10%）</p>

シラバス：教職実践演習

シラバス：教職実践演習		単位数：2単位		教職教員名：齋藤 智志、亀崎 路子 小林 輝美、山中 洋介 教科教員名：今田 敏弘、海谷 千波	
科目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	○
受講者数	40人 1グループ20名の2グループにて実施				
教員の連携・協力体制 教職担当教員と教科担当教員で定期的な打合せを行ない、授業内容やテキスト・資料の検討、および授業評価・分析を行なう。学外講師との連絡・調整は教職課程委員長および科目責任者が担当する。					
授業のテーマ及び到達目標 教職課程科目の履修履歴（教科に関する科目、教職に関する科目、介護等体験、ボランティア活動、インターンシップなどを含む）を通じて教員として必須の資質能力が有機的に統合形成されたかを確認するとともに、教師としての自己の課題を自覚する。					
授業の概要 中学・高校の教員として必要な資質能力、すなわち使命感・責任感・教育的愛情・社会性・対人関係能力・コミュニケーション能力・教科指導力（ICTの利活用法を含む）・道德教育力・生徒理解・学級経営力・保護者対応能力・危機管理能力などの修得状況を総合的に診断するとともに、不十分な部分を補填指導する。また、保健学部を擁する本学の特色を生かして、健康安全教育を取り入れる。授業方法としては、講義・ロールプレイング・グループ討論・事例研究・模擬授業などを適宜取り入れる。					
授業計画 第1回：オリエンテーション+これまでの学習全体の振り返り・自分の課題の明確化 【履修カルテに基づいて各自の現時点での課題を洗い出すとともに、それをグループで共有し、さらなる課題を発見する。】（齋藤） 第2回：教員としての使命感、責任感、教育的愛情等の探究 【標記の内容について、外部講師（現任教員）を招いて実践的に学ぶ。】（現場教員、齋藤） 第3回：教員としての社会性、対人関係能力、コミュニケーション能力等の探究 【標記の内容について、外部講師（現任教員）を招いて実践的に学ぶ。】（現場教員、齋藤） 第4回：第2回目～第3回目についての総括と深化 【教員としての責任感・使命感・教育的愛情はグループワークを通して、対人関係能力やコミュニケーション能力は事例研究を通して、それぞれ深める。】（齋藤） 第5回：教科指導力の向上（ICTの利活用法を含む）①：研究授業の再現とその相互検討（模擬授業・相互検討） 【各教科の模擬授業を行い、相互検討を行う。また、その授業に有効なICTの利活用法を考える					

。】（齋藤、海谷、小林、今田、山中）

第6回：教科指導力の向上（ICTの利活用法を含む）②：研究授業の再現とその相互検討（模擬授業・相互検討）

【各教科の模擬授業を行い、相互検討を行う。また、その授業に有効なICTの利活用法を考える。】（齋藤、海谷、小林、今田、山中）

第7回：教科指導力の向上（ICTの利活用法を含む）③：研究授業の再現とその相互検討（模擬授業・相互検討）

【各教科の模擬授業を行い、相互検討を行う。また、その授業に有効なICTの利活用法を考える。】（齋藤、海谷、小林、今田、山中）

第8回：教科指導力の向上④：健康安全教育的：健康安全教育的にポイントを置いた授業研究（模擬授業・相互検討）

【健康安全に関する模擬教育を、学生によるチームティーチングの形で実施し、相互検討を行う。】（齋藤、亀崎）

第9回：教科指導力の向上⑤：道徳科：道徳の模擬授業とその相互検討（模擬授業・相互検討）

【授業改善と教材作成をテーマとして模擬授業を実施し、相互検討を行う。】（齋藤）

第10回：生徒理解や学級経営等の探究①：生活面で問題のある生徒への指導研究（グループディスカッション・ロールプレイ・相互検討）（齋藤、山中）

【『生徒指導提要』をもとに児童生徒の問題行動の理解を深めるとともに、反抗的な生徒への対応をロールプレイを通して学ぶ。】（齋藤、山中）

第11回：生徒理解や学級経営等の探究②：いじめへの対応といじめのないクラス作りの研究（講義・演習）

【標記のテーマに関して、事例検討を通して学ぶ。】（齋藤、山中）

第12回：生徒理解や学級経営等の探究③：特別活動、進路指導等の研究（グループディスカッション・ロールプレイ・相互検討）

【事例検討を通して部活動についての理解を深めるとともに、ロールプレイを通して進路指導の実際を学ぶ。】（齋藤、山中）

第13回：第10回目～第12回目についての外部講師を交えた研究（講義・演習）

【標記の内容について、外部講師（現役教員）を招いて実践的に学ぶ。】（現場教員、齋藤）

第14回：保護者対応、危機管理等の研究（講義・演習）

【保護者からの要望や苦情への適切な対応のあり方や危機管理一般について、演習を通して学ぶ。】（齋藤、山中）

第15回：総括：自分の課題の最終確認と理想の教師像の探究（グループディスカッション・相互検討）

【現役教師に対するインタビューを読み、それと自分の理想の教師像とを比較しながら、あるべき教師の姿を考える。】（齋藤）

テキスト

プリント、ワークシートを使用する。

参考書・参考資料等

授業中に紹介する。

学生に対する評価

① 授業中の活動（討議、発表等）：20%、②提出物：60%、③最終レポート：20%

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。